



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

第75回

優良公民館表彰

令和4年度 表彰館事例集



文部科学省総合教育政策局

地域学習推進課

令和4年度 第75回優良公民館表彰 表彰館一覧

最優秀館（1館）

岡山県	岡山市立京山公民館	…	101
-----	-----------	---	-----

優秀館（4館）

岩手県	奥州市北股地区センター※	…	7	広島県	廿日市市津田市民センター	…	105
山形県	川西町吉島地区交流センター※	…	17	長崎県	長崎市北公民館	…	131

表彰館一覧（上記5館含む）

1 北海道	恵庭市島松公民館	…	1	37 静岡県	浜松市北部協働センター※	…	73
2 北海道	名寄市民文化センター※	…	3	38 愛知県	大治町立公民館	…	75
3 青森県	田舎館村中央公民館	…	5	39 愛知県	豊田市若園交流館※	…	77
4 岩手県	奥州市北股地区センター※	…	7	40 京都府	木津川市南加茂台公民館	…	79
5 岩手県	久慈市山形市民センター※	…	9	41 京都府	与謝野町立三河内地区公民館	…	81
6 宮城県	石巻市石巻中央公民館	…	11	42 兵庫県	新温泉町浜坂公民館	…	83
7 秋田県	大仙市立南外公民館	…	13	43 兵庫県	加古川市立尾上公民館	…	85
8 秋田県	北秋田市民ふれあいプラザ※	…	15	44 兵庫県	丹波市市民プラザ※	…	87
9 山形県	川西町吉島地区交流センター※	…	17	45 奈良県	奈良市立都祁公民館	…	89
10 福島県	福島市中央学習センター	…	19	46 和歌山県	太地町公民館	…	91
11 福島県	相馬市中央公民館	…	21	47 鳥取県	大山町大山公民館	…	93
12 福島県	喜多方市慶徳公民館	…	23	48 鳥取県	鳥取市立美保南地区公民館	…	95
13 茨城県	守谷市民活動支援センター※	…	25	49 島根県	邑南町井原公民館	…	97
14 群馬県	高崎市佐野公民館	…	27	50 島根県	松江市鹿島公民館	…	99
15 群馬県	太田市休泊公民館	…	29	51 岡山県	岡山市立京山公民館	…	101
16 埼玉県	さいたま市立七里公民館	…	31	52 岡山県	矢掛町矢掛公民館	…	103
17 埼玉県	川口市立芝富士公民館	…	33	53 広島県	廿日市市津田市民センター	…	105
18 埼玉県	深谷市明戸公民館	…	35	54 広島県	広島市中央公民館	…	107
19 千葉県	船橋市東部公民館	…	37	55 広島県	福山市服部交流館※	…	109
20 千葉県	一宮町中央公民館	…	39	56 山口県	下関市立吉母公民館	…	111
21 千葉県	千葉市生涯学習センター※	…	41	57 山口県	周南市中須市民センター※	…	113
22 神奈川県	平塚市立八幡公民館	…	43	58 山口県	山陽小野田市有帆地域交流センター※	…	115
23 新潟県	三条市嵐南公民館	…	45	59 徳島県	松茂町立公民館	…	117
24 新潟県	五泉市公民館	…	47	60 徳島県	徳島市昭和公民館	…	119
25 富山県	朝日町山崎公民館	…	49	61 愛媛県	西条市神拝公民館	…	121
26 富山県	南砺市南山見交流センター※	…	51	62 愛媛県	西予市溪筋公民館	…	123
27 石川県	野々市市富奥公民館	…	53	63 愛媛県	今治市吉海学習交流館※	…	125
28 石川県	珠洲市立正院公民館	…	55	64 福岡県	八女市黒木公民館	…	127
29 福井県	佐分利公民館	…	57	65 佐賀県	唐津市呼子公民館	…	129
30 福井県	大関コミュニティセンター	…	59	66 長崎県	長崎市北公民館	…	131
31 山梨県	甲斐市竜王北部公民館	…	61	67 熊本県	玉名市横島町公民館	…	133
32 長野県	下諏訪町公民館	…	63	68 大分県	大分市大分東部公民館	…	135
33 長野県	白馬村公民館	…	65	69 宮崎県	高千穂町中央公民館	…	137
34 岐阜県	中津川市付知公民館	…	67	70 鹿児島県	指宿市立山川校区公民館	…	139
35 岐阜県	御嵩町上之郷公民館	…	69	71 鹿児島県	霧島市隼人姫城地区公民館	…	141
36 静岡県	静岡市岡生涯学習交流館※	…	71	72 鹿児島県	鹿屋市大始良地区学習センター※	…	143

※…公民館と同等の施設



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 近年のICT機器の普及により、公民館利用者から、インターネットを利用できる環境の要求が高まっていたこと。また、新型コロナウイルス感染症拡大による学校閉鎖に伴い、オンラインを活用した家庭学習が求められる中、自宅のWi-Fi環境が整っていない児童・生徒の利用に供する対応が求められていた。
- 対面で開催していた公民館事業が、新型コロナウイルス感染症の影響で中断・中止となり、市民の学びを止めないための方策が必要だった。
- スマートフォンは、単に電話としての機能を有するだけではなく、今後の生活をより豊かにするツールとなり得ることから、特に高齢者への普及・啓発が課題だった。
- 新型コロナウイルスワクチン接種のWeb予約にあたり、端末を持たない市民や、操作方法が分からない市民への支援が課題だった。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

- デジタル基盤の整備
 - ・オンライン講座の開設に向け、最初に職員のオンライン活用スキルを高めるための研修を数回にわたって行った。並行して市民が活用しやすいオンラインアプリの使用について、市担当課と協議を重ねた。
 - ・公民館にWi-Fi機器を設置し、利用者が個人の機器でインターネットを利用できる環境を整えた。
- オンラインによる講座の開設

「市民講座」事業（年間4会場18講座）のうち、「英会話」の初級及び中級講座については、Web会議サービス「Zoom」を活用し、オンラインの特性を生かして定員や開設時間を縮小し、代わりに各級ともに2講座ずつ、計4講座を開設することができた。
- 初心者のためのスマートフォン教室の開催

通信業者の協力により、これからスマートフォンを始めたい人、スマートフォンを持っているが使い方がよくわからない人を対象に、基本操作を学び、カメラやマップ等の人気アプリを体験する内容で、市内3地区各2回計6回実施した。
- 新型コロナウイルスワクチン接種のWeb予約入力支援協力

公民館に特設の入力支援コーナーを設け、自分でWeb予約ができない、またはパソコンやスマートフォンを持っていない高齢者に、公民館職員がオンライン予約の支援を行った。

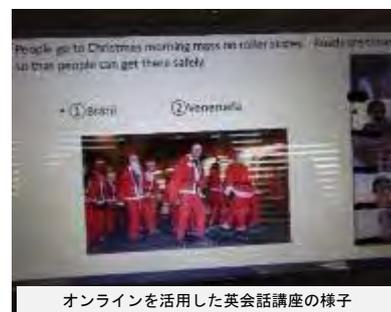


市民講座英会話 説明会



3. 取組による成果や効果

- デジタル基盤の整備により、小中高生では学習や調べもの、ニュースの閲覧、各種講座では講師や会員がインターネットの画面を参考資料等に使用するなど、来館者の利便性が図られた。
- オンライン英会話講座では、会場に来ることなく講座を受講できたため、新型コロナウイルス感染症に対する不安を軽減することができた。また、講師の移動に伴う負担も減らすことができた。
- スマートフォン教室終了後のアンケート調査では、「内容がよく分かった」との回答が60.8%、「来年度も参加したい」との回答が33.3%あり、市民のニーズが確認できたため、次年度以降も重点的な事業として継続することとなった。
- 新型コロナウイルスワクチン接種のWeb予約支援により、市民の予約作業への不安を軽減することができた。



オンラインを活用した英会話講座の様子

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

恵庭市公民館運営審議会において、地域課題や市民のニーズに基づいて年度ごとに事業の検証を行い、改善方法について検討を行っている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

市民の学習活動へのきっかけづくりとするための「市民講座」事業をはじめとした各種事業の提供機会の充実を図るとともに、「市民講座」での活動を経て自主的なサークル活動へのステップアップを育成支援するなど、公民館が地域における身近な社会教育活動の拠点として、市民の日常生活の向上や、明るい家庭、住みよい地域社会づくりに寄与することを目指している。また、地域とともにある公民館として、地区住民が島松公民館を活用して実施する公民館運動会や子どもサマーキャンプ、文化祭、囲碁・将棋大会など地域住民による主体的な活動「分館活動」を積極的に支援している。



市民講座 華道地坊

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

ICT技術の発達は、今後、より一層私たちの生活に密着してくことから、ICT機器のさらなる活用に資する学習機会の設定について、積極的に取り組みたい。その際、事業によっては、地域の高等学校や近隣の大学・専門学校と連携し、学生を講師として活用することで、異年齢の交流促進にもつなげていきたい。



ICT活用に向けた取組

オンラインで「いつでもつながる」

名寄市民文化センター



名寄市民文化センター外観
(左側が西館(大ホール))



生涯学習フェスティバルinなよろ (体験教室のようす)

公民館の沿革・年表

(名寄市公民館)

- 昭和23年1月 名寄公民館設置 (旧厚生会館内)
- 昭和31年4月 名寄市公民館設置 (市制施行)
- 昭和37年6月 名寄市民会館開館に伴い、移転

(名寄市民文化センター)

- 昭和55年5月 名寄ピヤシリ大学開学
- 昭和58年8月 名寄市民文化センター開館
- 平成27年5月 大ホール(西館)開館

左図・写真の説明等など (PRポイントなども可)

- 名寄市民文化センター
 - ・大ホールのお愛称であるEN-RAY (エンレイ) の由来は、当市の花「オオバナノエンレイソウ」にちなむ。
 - ・貸室全室にWi-Fi環境を整備している。
(端末同時接続台数32~128台/AP)
- 生涯学習フェスティバルinなよろ
 - ・サークルや文化団体の活動発表や体験教室を行い、活動の発展を促す。

1. 都道府県名	北海道	3. 公民館対象人口	26,259人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)	
2. 市区町村名	名寄市	4. 建物設置年月日	昭和58年8月	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	640台	
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 () <input type="checkbox"/> その他 ()					
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座	556人	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動	27,731	<input type="checkbox"/> 講演会、展示会等	0人
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	1,460	(大ホール催事等)			合計 29,747人
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任	0人	<input checked="" type="checkbox"/> 兼任	8人	<input checked="" type="checkbox"/> 非常勤	4人
	(職員のうち社会教育主事有資格者の数 1人)		(職員のうち社会教育士の数 1人)		<input type="checkbox"/> ボランティア協力者	0人
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()					
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()					
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input type="checkbox"/> 子育て支援	<input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動	<input type="checkbox"/> 子ども食堂		
	<input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画	<input type="checkbox"/> 健康づくり	<input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援	<input type="checkbox"/> 障害者の学び支援		
	<input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用	<input type="checkbox"/> 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動	<input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール		
	<input type="checkbox"/> ボランティア養成	<input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input type="checkbox"/> 自主夜間中学		
<input type="checkbox"/> その他 ()						
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設	<input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input checked="" type="checkbox"/> その他 (文化センター大ホール)				
	<input checked="" type="checkbox"/> 自由記述	(大ホール (6 4 7 席) 併設)				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所	<input type="checkbox"/> 小中学校	<input type="checkbox"/> 高校	<input checked="" type="checkbox"/> 大学		
	<input type="checkbox"/> 企業	<input type="checkbox"/> NPO	<input type="checkbox"/> 各種団体	<input type="checkbox"/> 行政機関		
	<input type="checkbox"/> 図書館	<input checked="" type="checkbox"/> 博物館	<input type="checkbox"/> 青少年教育施設	<input type="checkbox"/> その他		
	<input type="checkbox"/> 名寄カトリック幼稚園、光名幼稚園、名寄市立大学、名寄市北国博物館					

名寄市民文化センター

OPEN 9:00~22:00 H P <http://www.city.nayoro.lg.jp> (市HP)
TEL 01654-2-2218 SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

新型コロナウイルス感染症の影響で緊急事態宣言が発令され、予定されていた社会教育事業の中止や、実施できた事業においても多くが定員の縮小や内容の変更を余儀なくされた。また、三密を避けるための対策を徹底する必要があり、企画者側・参加者側双方に多大な負担が生じた。新型コロナウイルス感染症の終息時期が不透明である中、市民の学ぶ機会や学習の継続性を確保するためにも、オンラインを活用した事業展開が必要となった。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

「学びをとめない。」をテーマに、インターネット環境を活用した講演会や講座を配信することにより、公民館に直接集合することができない市民でも制限なく学びの機会に参加できる、学習環境の整備を行った。また、家庭教育学級合同研修会をはじめとした研修会の様子を動画で撮影・配信するなど、オンラインシステムを積極的に活用した、新たな学びの提供に取り組んでいる。

●家庭教育学級合同研修会

幼児を持つ親子を対象としたリトミックのコンサートを、三密対策を徹底した上で集合型の開催にするとともに、オンラインによる動画配信を行い、いわゆるハイブリッド型での開催に取り組んだ。また、期間限定のアーカイブ配信も行うことができた。

●名寄ピヤシリ大学公開講座

高齢者学級事業「名寄ピヤシリ大学」で行う市民向けの公開講座を、会場からのライブ配信で行った。コロナ禍で大学の活動を自粛している高齢者も安心して参加することができて好評であった。

●市民講座、青少年教育事業

趣味や教養に関する講座（みそ作りやステンドグラス作りなど）、本市の良さを理解し地域への愛情を育むことを目的とした講座「なよろまるごと体験！エンレイカレッジ」、青少年教育事業（写生会、料理教室、書初めなど）を開催し、事業の様子を動画撮影、編集し、動画配信サイトにおいて公開している。



家庭教育学級合同研修会



名寄ピヤシリ大学公開講座

3. 取組による成果や効果

家庭教育、市民講座、高齢者学級、青少年教育などの社会教育事業において、ライブ配信やオンライン受講、動画撮影に取り組むことで、オンラインでの参加者は、感染の心配をすることなく、安心して参加することができた。

また、当初はオンライン配信技術に不安があったため、経験豊富な事業者の支援を受けたが、たくさんの経験を積み重ねることで、当館の職員だけで配信ができるまでにノウハウを得ることができた。

このことは、本市における公民館活動や社会教育の充実につながる画期的なことで、公民館を核とした「人づくり・絆づくり・地域づくり」に大きな可能性を膨らませることと考えている。



オンライン配信の様子

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 参加者や講師を対象とするアンケートによる講座評価の実施
- 年3回開催の名寄市社会教育委員の会において、取組状況を報告
- 年2回開催の名寄市公民館運営審議会兼名寄市民文化センター運営委員会にて、取組状況を協議

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

市民の「学びたい」という意欲を大切に、市民の声による身近な市民講座を開設するとともに、本センターを核として、豊かな文化に触れる機会や市民の学びの成果を発表する場づくりを通じて、コミュニティを醸成し、心豊かな市民の生活を支えていきたい。

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

社会教育は、「つどう・まなぶ・むすびあう」を原点に、これまで対面による学びや体験を基本に事業を展開してきたが、対面とオンラインによるハイブリッド（複合的）な学習機会を提供することで、安心して参加することができる。しかし、オンライン学習のスタートラインによりやく立てたばかりで、その活用はまだ限定的であり、今後は、より分かりやすい配信やオンラインで参加される方との交流を行うなど、実践的な学習機会の提供を図っていきたい。また、これまでの学習の様子を動画で配信し、市民が繰り返し学ぶ機会を提供していきたい。

「いつでも」「どこでも」「だれでも」学べる公民館

田舎館村中央公民館



白寿大学健康講座「グラウンドゴルフ」



子ども会「リーダー研修会」

公民館の沿革・年表

- 昭和51年7月 中央公民館設置
 昭和57年 白寿大学開設
 平成22年 中央公民館改修工事
 令和元年12月 中央公民館・村民体育館新築工事開始
 令和3年2月 中央公民館・村民体育館完成
 防災の拠点として、備蓄倉庫やフリーWi-Fiを兼ね備えた公民館として生まれ変わる。
 令和3年4月 中央公民館・村民体育館落成式

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

- 白寿大学「グラウンドゴルフ」の様様
 「白寿大学学級委員会」を開催し、事業の現状と課題や健康講座等の事業について話し合っている。写真は、大鰐町のおじゃら山で開催された「グラウンドゴルフ」の様子で、ゲームを楽しむと同時に、足腰の運動にもなると大好評である。健康講座として、「ユニカール」などを行っている。
- 子ども会「リーダー研修会」の様様
 田舎館小学校から参加者を募り、梵珠少年自然の家を利用し、様々なプログラム体験活動を通して、積極的に活動できるリーダーの育成を目指している。

1. 都道府県名	青森県	3. 公民館対象人口	7482人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)	
2. 市区町村名	田舎館村	4. 建物設置年月日	昭和51年7月1日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	無制限	
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 () <input type="checkbox"/> その他 ()					
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 100人 <input type="checkbox"/> その他 0人 ()	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 12268人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等	合計 12,368人			
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 兼任 7人 <input type="checkbox"/> 非常勤 0人	<input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人	(職員のうち社会教育主事有資格者の数 1人 職員のうち社会教育士の数 0人) 合計 7人			
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()					
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> その他 (社会教育委員の会議)					
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> その他 ()	<input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 自主夜間中学		
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 自由記述 ()	<input type="checkbox"/> 図書館 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (体育館)	<input type="checkbox"/> 学校	<input type="checkbox"/> 生涯学習センター		
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input type="checkbox"/> 企業 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館	<input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 博物館	<input type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設	<input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> その他	光田寺保育園、川部西ヶ丘保育園、畑中保育所、田舎館こども園、田舎館小学校、田舎館中学校、弘前大学、子ども会連絡協議会、大鰐グラウンドゴルフ協会、田舎館村企画観光課、田舎館村中央公民館図書室、田舎館村博物館	

田舎館村中央公民館

OPEN 9:00~21:00 H P <http://www.vill.inakadate.lg.jp/>
 TEL 0172-58-2250 SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

○村内でも少子高齢化・人口減少が進む中で、人生100年時代を豊かに生きるため、生涯学習の充実に力を入れている。幼児から高齢者までの学習機会を充実させることができるよう、村民の声に耳を傾け、多様なニーズに応じた対応を心掛けている。

○平成23年に小学校が統合し、村内には小学校と中学校がそれぞれ1校ずつとなった。活力ある地域づくりに向けた人材育成のためには、保・小連携や小・中連携の充実に加え、家庭・学校・地域・行政の更なる連携が必要不可欠である。家庭・学校・地域・行政の架け橋となり、一人一人が主体的に学習し、豊かで住みよい地域社会をつくることのできる公民館活動を推進している。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【白寿大学】

「高齢者の生活環境の変化や多様化する学習要求に応え、生きがいのある充実した生活を促進する。」を重点目標に掲げ、60歳以上を対象に、健康増進と、学習機会の充実に取り組むことを目的として開設している。「教養講座」「健康講座」「体験学習」を実施しており、5月に開催される「白寿大学学級委員会」で内容を決定している。

【成人教養講座特別企画】

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で様々なイベントが中止になる中、村民に笑顔を届けることを目的に、自宅でできる催しを新たに企画し、成果をホームページで発信している。

【子ども会活動】

「子どもを中心とした学校外活動を通して、自らを考え、判断し、行動する力を育成する。」を重点目標に掲げ、田舎館小学校の児童を対象に、「リーダー研修会」「スポーツ大会」「雪合戦大会」を行っている。子ども会育成連絡協議会と連携し、主体的に活動できる子どもの育成に取り組んでいる。

【家庭教育講座】

「家庭教育に関するテーマを設定し、子どもの自立を支援していく親の望ましい在り方を学習する機会の提供を行う。」を重点目標に掲げ、村内にある3保育所、1こども園を対象に、親と子の心のふれあいや育児に関する講演や実技等を行っている。



白寿大学体験学習「そば打ち体験」



家庭教育講座

3. 取組による成果や効果

○白寿大学には約90名の登録がある。8月以外、毎月講座を開催しており、各講座には平均して30名ほど参加があり、高齢者の生きがいや生活の充実が図られている。

○子ども会活動では、子ども達がリーダー研修会に参加し、体験活動を通して学んだことを普段の学校生活に生かすなど、自主的な活動が見られるようになった。また、スポーツ大会や雪合戦大会では、子ども会ごとにチームが生まれおり、上学年が下学年の面倒を見ることで、縦の関係が強まっている。

○家庭教育講座では、「楽しく育児ができるコツ」に関する講演や実技等を行うことにより、「学んだことを家庭教育に生かしている」という声が多く聞かれるようになった。



白寿大学体験学習
「正月リースづくり」

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

○公民館運営審議会に代わり、社会教育委員の会議において公民館事業の改善を図っている。

○白寿大学では、4月の開講式で選ばれた「学級委員」が、5月の「学級委員会」において、前年度に実施された事業の現状と課題について話し合い、その結果をもとに、白寿大学の各講座の内容を決定している。

○子ども会活動では活動の実施前に、連絡協議会三役会で事業内容を検討し、役員会を開き、詳細を確認している。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

「いつでも」「どこでも」「だれでも」学べる公民館となるよう、幼児から高齢者まで、多様なニーズに応じた学習機会の充実に大切にしている。誰でも気兼ねなく来館できる雰囲気づくりに努め、村民の声を生かした催しを開催するなど、「村民ファースト」の公民館活動にすることを心掛けている。



雪合戦大会

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

コロナ禍でも村民に笑顔を届けようと、令和3年度は、成人教養講座の一環として新たな事業を企画し、実践してきた。今後は、整備されたネット環境を生かし、白寿大学の「教養講座」や「成人教養講座」を参集型と配信型のハイブリッド型にしたり、YouTube等で事業内容を発信したりするなど、DX（デジタルトランスフォーメーション）時代に対応した新しい企画を積極的に取り入れ、村民自慢の「憩いの場」にしていきたい。



村民自慢の「憩いの場」

住みたい 住み続けたい！「きたまた」にまた来たい！

奥州市北股地区センター



葦名堰の清掃ボランティア



農作業ボランティア

公民館の沿革・年表

- ・昭和42年10月17日 北股小学校新校舎落成
- ・平成18年 3月31日 北股小学校と衣川小学校統合（廃校）
- ・平成19年 5月22日 北股地区振興会設立
廃校を北股地区センターとして活用
- ・平成20年 6月14日 岩手宮城内陸地震（避難所開設）
- ・平成20年 9月 地区内各行政区の自主防災会設立
- ・平成22年 6月 北股地区自主防災会連合会設立
- ・平成23年 3月11日 東日本大震災
- ・平成25年 3月 北股地区高齢者組織「北生会」設立
- ・平成29年 4月 北股地区センターの指定管理者制度開始
岩手県立大学との地域協働研究開始

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

- 平成 30 年から実施しているボランティアワークキャンプに、地域外から大学生を中心に4カ年で延べ606名のボランティアが参加して活動を展開している。
- 地域外の大学生等が、ボランティア活動を通して、住民と交流しながら地域課題の解決を図り、地域への関心を深めている。
- 堰清掃や農作業の手伝いなど、地域全体や住民個人を対象として、それぞれの課題解決に向けた幅広い活動を行っている。

1. 都道府県名	岩手県	3. 公民館対象人口	468人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	奥州市	4. 建物設置年月日	昭和42年10月17日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	60台以上 (3回線)
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理者 (北股地区振興会) <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 36人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 191人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等 <input checked="" type="checkbox"/> その他 263人 (遠足支援、子ども食堂、会議等振興会関連) 合計 490人				
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 4人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input type="checkbox"/> 非常勤 1人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人) 合計 5人				
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input checked="" type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input checked="" type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> その他 (北股地区振興会総代会)				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 子ども食堂 <input checked="" type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他 ()				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input type="checkbox"/> その他 () <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (廃校を地区センターとして活用。隣接する広場に衣川天文台 (屈折式としては日本最大級の望遠鏡) が設置されている。)				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input checked="" type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (岩手県立大学、東北学院大学、一関修紅高校、あゆみ園、衣川小学校、衣川中学校、民間企業、奥州市社会福祉協議会)				

奥州市北股地区センター

OPEN 8:30~21:00

H P <http://kitamatacc.floppy.jp/>

TEL 0197-52-6513

SNS <https://www.facebook.com/kitamatacc/>





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

●若年人口の流出による人口減少の影響を受けて、少子高齢化が進行している北股地区では、農作業に加えて、日常的な自宅の掃除、移動、介護などの生活ニーズを、世帯内で充足することが難しくなっている。これまで、これらの日常生活ニーズを充足していた血縁・地縁による相互的なサポートも、高齢化と人口減少の中で、その維持が困難となっている。地域社会のネットワークの縮小は、それまで集落内で営まれてきた共同作業へも影響を及ぼしている状況にある。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【学生との協働によるボランティア活動「ボランティアワークキャンプ」】

①地域の住民の生活や生業の課題解決（個人・世帯）

個人宅の庭の草刈りや家屋内の片付け、稲作や花き等の農作業の手伝いを行う。

②地域（集落）の課題解決

農業用水路の一斉共同作業や、共同放牧地及び牛舎の管理、地域の特産品（山ぶどう）の収穫作業等を行う。

③住民とボランティアの交流

初めてのボランティア参加者を対象に、地域巡り（オリエンテーション）を実施。また、地域住民との交流の時間を設定している。

【岩手・宮城内陸地震の教訓を踏まえた取組】

自主防災会連合会が毎年6月に防災訓練を実施。ドローンによる被災状況の確認、デジタル無線による各地区の避難情報の共有など、住民の防災意識の向上に努めている。

【子ども食堂の開催】

奥州市、社会福祉協議会、株式会社モリレイ（矢巾町）が協定を締結して推進している取組。冬のボランティアワークキャンプに合わせて実施し、子どものいる家庭のほぼ全戸の親子が参加した。



地域巡り（オリエンテーション）



防災訓練の様子



子ども食堂の様子

3. 取組による成果や効果

●ボランティアワークキャンプをきっかけとして、岩手県立大学に学生ボランティアサークル「北股フレンズ」が設立された。その活動は専修大学、一関修紅高校など他の学校にも広がっており、多くの学生が参加している。

●ボランティア活動を通じて地域住民と学生の関係性が構築され、「夏祭り」等の地域のイベントや、「太鼓」の伝承など、多様なニーズへの対応に繋がっている。

●地域の企業から学生ボランティアを支援するために、自動車（3台）の無償貸与を受けるなど連携体制が構築された。

●コロナ禍の支援の在り方として、Webを活用した「オンライン型支援」の構想を練っている。



北斗国見太鼓の練習

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

●北股地区コミュニティ計画作成にあたり、住民によるアンケート調査を実施している。

●北股地区コミュニティ計画に基づき、各部門ごとの活動計画を検討する会議を毎年1回以上実施している。

●各事業後には事業に関わった学生ボランティアに対し、活動の振り返りアンケート及び「フレンズノート」という冊子への記入等により取組の検証をしている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

こころ豊かに自然と調和する 誰にもやさしく・なつかしい・住みたい・住み続けたい『きたまた』

豊かな自然と共に暮らしながら、誰もが住み続けたいと思える地域にしていきたい「4つの柱」に沿った取組を推進していく。

- 人口・子育て・教育
- 安心・安全・環境
- 健康・福祉
- 農業・産業



星空日本一の観覧会

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

●地域のボランティアセンターとして、県立大学等との連携による活動を軸にしなが、地域内外への情報発信を通じて活動内容や参加者の多様化を目指す。

●農村DXセンターとして情報発信しながら「定年帰農」や地域出身者の里帰り就農など、将来的に北股に戻り農業を継ぐ人の増加を期待し、特色ある活動を継続させていく。



牛追い作業のボランティア

豊かな自然、歴史と文化を育む生涯学習のまち

久慈市山形市民センター



やまがたビジョン策定委員会



遠島山トレッキング

公民館の沿革・年表

- ・昭和26年7月 山形村公民館設置
- ・昭和31年4月 移動公民館開設
- ・平成10年7月 山形村山村文化交流センター開設設置
(山形村公民館・山形村立図書館複合施設)
- ・平成18年3月 久慈市立山形公民館に改名
(市村合併)
- ・平成29年4月 公民館から市民センターに機能変更
久慈市山形市民センター開設

左図・写真の説明等など (PRポイントなども可)

- 旧山形村時代に開設され、地域住民の集いの場となっている。公民館機能のほかに図書館、舞台 (ホール) も併設されており、学びや発表の場としても活用されている。
- 町内は大きく8地区に分かれており、市民センターだけではなく、**各地区に出向き**様々な事業を展開している。
- 令和3年度に**山形町の将来像をみんなで話し合う「やまがたビジョン策定委員会」**が設立されたことで、地域の問題点や目標を住民が見直す機会となっている。(令和4年度策定予定)

1. 都道府県名	岩手県	3. 公民館対象人口	2286人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	久慈市	4. 建物設置年月日	平成10年4月1日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	無し
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 (<input type="checkbox"/> 地区まちづくり協議会) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (久慈市)				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 1241人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 3920人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等 <input type="checkbox"/> その他 0人 ()				合計 5,161人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 1人 <input checked="" type="checkbox"/> 兼任 3人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 1人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人) 合計 5人				
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> その他 (市民センター運営協議会)				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input checked="" type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (女性の仲間づくりの促進、地元食材を活用した青壮年交流の促進)				
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input type="checkbox"/> その他 () <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (ホールを備えていることから発表会等による利用もある。)				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input checked="" type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input checked="" type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 山形小学校、山形中学校、NPO法人やまがた文化スポーツNPO、山形町内各町内会、山形地区老人クラブ連合会、NPO法人ヤマセデザイン会議				

久慈市山形市民センター

OPEN 9:00~22:00
TEL 0194-72-3711

HP <https://www.city.kuji.iwate.jp/>
SNS



久慈市HP



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

●山形地区は、旧山形村全域を対象にしており、地域の大部分を山林が占める山村である。合併により久慈市山形町となり、8地区に13の自治体がある。合併により山形町となった今でも、村だった時から続く地区ごとのまとまりのほうが強。また、多分に漏れず少子高齢化の問題は深刻であり、合併時の8小学校2中学校から統廃合により現在は2小学校1中学校となっている。将来地元に住みたいと思えるような魅力的な地域となるよう、情報発信や地域活動の実施、地域資源の掘り起こしが必要と考え、様々な活動に取り組んできた。昨年は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため多くの活動が中止となったが、地域コミュニティの維持のため各種活動を再開継続していく。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【おらほーる劇場】

●旧山形村時代より開催していた「おらほーる劇場」を市民劇場として、再開。市民を中心に地域住民が脚本、演者、美術、音響、照明などすべて手作りの演劇を行っている。2007年に第1回が始まり、これまで13回開催した。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため2年開催されていないが、令和4年こそは実施したいと準備を進めている。

【三世交流】

●親、子、孫の交流を活発にすることで地域に愛着が生まれることを期待し、世代間の交流が進むような取り組みを進めている。

【町民文化祭】

●住民活動の発表の場として開催しており、作品展示や地元産品等の販売、体験コーナー等があり、また、山形中学校との合同開催にすることで、地域全体の絆をつなげることに寄与している。

【氷筍観察会・ヒメボタル観察会】

●小国地区にある内間木洞は市の重要文化財にも指定されている鍾乳洞で、冬になると入口から入り込む冷気により、まるでつららが地面から生えているかのような氷筍が見られる。また、全国有数の白樺林である平庭高原にはヒメボタルが生息し、幻想的な光景を見ることができる。山形市民センターがヒメボタル観察会を実施し、山形地区の魅力を参加者にアピールすることが、地元住民にとっては魅力の再発見につながっている。



おらほーる劇場



三世交流ゲートボール

3. 取組による成果や効果

【これまでの取り組み全体による成果・効果】

- 移動講座**：地区集会所で軽スポーツやクラフト教室を開催することで、市民センターまでの交通手段がない人も参加することができ、多くの人に市民センター活動に参加いただくことができた。
- 遠島山トレッキング**：令和3年度から遠島山山開きが実施されることになり、センターでも参加者を募り当日にトレッキングを行った。登山愛好家などが参加し、山形の豊かな自然をアピールできた。
- 世代間交流**について、各地区で開催することで地域の結束が強まっているものと考えている。このつながりが地区内から町内全体へ広がることを期待している。
- 山形町の魅力の再発見と発信について、多くの事業にリピーターが生まれていることから、魅力ある地域であることが少しずつ広まってきているものと考えている。



町民文化祭体験コーナー

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 市民センター運営協議会において、各市民センターの戦略・運営方針・事業計画、実施状況等について協議し、地域の課題が運営に反映されているかどうか評価・検証し、必要に応じて改善に取り組むこととしている。（令和3年度は3回開催）
- 各事業の参加者の感想や寄せられた意見をもとに打ち合わせを行い、生の声を次の事業に生かすよう取り組んでいる。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

- 山形地区の豊かな自然を魅力あるものとして、地域住民をはじめ多くの人に伝えていくことを目指し、各種教室や活動を行っている。
- 少子高齢化が深刻な地域であり、**高齢者の健康増進・生きがい創出とともに、子どもたちが地域に愛着をもてるような活動を進めていきたい。**



内間木洞の氷筍

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

- 地域の代表者やPTA会長らをメンバーとする「(仮称)やまがたビジョン」策定委員会を令和3年度に設立し、**山形町の将来像などが話し合われている。**市民センターとしても、目標を共有し、山形町の将来に貢献していきたいと考えている。
- 日本有数の白樺林を備える平庭高原の環境整備に協力し、魅力発信の一助となる。



白樺林整備

人と人をつなぐ学び舎～心の復興をめざして～

石巻市石巻中央公民館



いきいき花のプロジェクト



子育てサロンいしっこクラブ

公民館の沿革・年表

- 昭和22年6月 石巻公民館開館、設置
- 昭和42年11月 優良公民館表彰受賞
- 昭和45年11月 石巻公民館新築移転
- 平成17年4月 1市6町の市町合併により石巻市となる。
- 平成23年3月 東日本大震災発生
- 平成23年3月～10月 当館が避難所となる。(213日間)
- 平成23年9月 家庭教育支援チーム活動開始
- 平成25年6月 いきいき花のプロジェクト事業開始
- 令和2年3～5月 コロナ禍により休館 86日間

左図・写真の説明など (PRポイントなども可)

- いきいき花のプロジェクト
平成25年度から東京都道路保全整備公社等より花の種の提供を受け、自治会や商店会、老人クラブと連携し、震災後の新たなコミュニティの構築と再生する地域づくりに寄与している事業です。
- 子育てサロン「いしっこクラブ」
平成23年9月に立ち上げた家庭教育支援チーム「スマイルエンジェル」との合同企画事業であり、親子の居場所づくりと子育てに関して気軽に育児相談ができる場として、参加する子育て中の親に好評を博しています。

1. 都道府県名	宮城県	3. 公民館対象人口	52529人	5. 来館者のインターネット接続環境	無し
2. 市区町村名	石巻市	4. 建物設置年月日	昭和45年11月2日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	0台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 (<input type="checkbox"/> 地区まちづくり協議会) <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 3636人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 14800人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等 <input type="checkbox"/> その他 0人 () 合計 18,436人				
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 6人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input type="checkbox"/> 非常勤 0人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 1人 職員のうち社会教育士の数 0人) 合計 6人				
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他 ()				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 (<input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター) <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (中心市街地内にあり、対象区域外からの利用も多い。市指定避難所でもある。)				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input checked="" type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (対象区域内各小中学校、石巻専修大学、NPO法人ひたかみ水の里、社会教育関係団体、家庭教育支援チーム「スマイル・エンジェル」、石巻市子ども会育成会石巻支部、近隣の町内会・商店会・老人クラブ、公益財団法人東京都道路整備保全公社、神奈川県建設業協会)				

石巻市石巻中央公民館

OPEN 9:00～21:30 H P <https://www.city.ishinomaki.lg.jp/index.html>
 TEL 0225-22-2970 SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

東日本大震災から11年が経過し、最大の被災地である本市は、ハード面の復興に関してほぼ完結されましたが、心の復興に関しては、コミュニティエリアの再編や構築等により、地域連帯意識の低下や孤立化などの諸問題が生じ地域課題となっております。そこで、市民の学習活動拠点である公民館において、地域の人財・資源を活かし、地域住民や団体との協働による地域づくり活動や学習機会の創造と提供に努めていき、より一層地域住民に寄り添った公民館活動の推進を目指しております。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【いきいき花のプロジェクト（要綱2（4）①）】

種から大切に育てた花苗を街路の花壇等に植栽し、住民相互の交流を図っています。また、東京都庁前的大型花壇に「被災地の花」として植栽し、「花」を通じた地域間交流を図りました。

平成29年度から事業の広がりを期待し、一般市民を対象に「ガーデニング講座」開催しており、令和3年度には、「2020東京オリンピック」野球・ソフトボール会場の福島県あづま球場に、「被災地の花」として植栽し、世界に復興の状況を伝えるきっかけとなりました。

【子育てサロン「いっこクラブ」（家庭教育支援）】

震災により子育て環境にも大きな影響を与え、親子の居場所作りや心のケアが急務となったことを背景に、平成23年9月に「家庭教育支援チーム スマイルエンジェル」を立ち上げ、活動の一環として子育てサロン「いっこクラブ」を開催しています。

- ・月2回(第1・第3金曜日)、年間20回開催。
- ・参加数 令和3年度 年間親子87組（コロナ禍前は、親子300組が参加）
- ・親子で手遊びや読み聞かせ、リトミック、おもちゃ作り、水遊びなど
- ・参加する親はチーム員を身近な存在として感じ、気軽に育児相談できる雰囲気づくりを大切にしています。毎回、親子の笑顔を楽しみに和やかに実施しています。



ガーデニング講座 種まき



家庭教育支援チーム
「スマイル・エンジェル」

3. 取組による成果や効果

【いきいき花のプロジェクト】

新しく完成した復興公営住宅に居住する方の参加をどう促すかを考えながら事業を進め、新たなコミュニティの構築と再生する地域づくりの一助となるような事業として定着しつつあります。

【子育てサロン「いっこクラブ」】

親子が楽しむだけでなく、チーム員との何気ない会話の中に子育てに関する相談ができることが参加者の好評を博しています。また、参加者の中には、育児を終えた後に、チーム員として活動している方も多く、人とのつながりのある事業となっています。



「いっこクラブ」と石巻専修大
学生社会教育実習

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

石巻市では学識経験者等12名で構成する社会教育委員の会議を年間4回開催し、事業計画、重点事業等について審議されており、委員からの意見等を踏まえ、事業改善に努めています。

また、当館では、石巻専修大学の依頼により学生の社会教育実習（大学単位認定あり）を受け入れており、実習する学生の方々に公民館事業についての意見や提案を出してもらい、今後の事業運営や事業構築の参考としています。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

公民館は、日常生活の過程でそれぞれの課題や希望を持った市民が学習や活動を通して仲間と出会い、解決や実現のための道筋を発見できる場として位置づけ、人と人、地域、社会をつなぐ学習や活動は公民館運営の要であると考えています。また、施設管理運営に関して、利用しやすい施設や利用者の笑顔があふれる施設は、建物が古いとか新しいとかではなく、管理運営している職員の対応が大切なことと心掛けています。



高齢者教室石巻つくも大学

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

本市は、海、山、川と自然に恵まれた地域であるため、地域の人財・資源を生かし、各種団体等との連携事業や公民館相互の連携事業の構築を図り、心の復興の一助となる公民館活動を推進していくものであります。また、住民ニーズを的確に捉え、学びを通して人と人とのつながりを大切にした事業を今後も展開していきたいと考えます。



利用協議会 かるた教室

地域をつなぎ、人づくりを推進する公民館

大仙市立南外公民館



南外中学校の生徒と地域住民等による南外そばの収穫



南外小学校でのそば打ち体験会

公民館の沿革・年表

- 昭和30年 南外村公民館開設
- 平成4年 南外村公民館新築
- 平成16年 公民館内に南外村図書館開設
- 平成17年 市町村合併に伴い「大仙市立南外公民館」に名称変更
「南外公民館祭」開始
- 平成21年 「ながい地域祭」開始
- 令和3年 南外公民館に「南外地域学校協働本部」を設置

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

南外公民館の主催事業「ながいの味・食育体験交流事業」

- ふるさとに学ぶ体験（南外そばの栽培、収穫体験）
本地域では、豊かな自然や豊富な湧き水を活用した「そばの里」づくりを目指し、小・中学生が地域住民と力を合わせ、南外そばの栽培、収穫体験を行っている。
- 南外そばを使用したそば打ち体験会
地域住民や公民館職員が指導者となり、小・中学生が収穫したそば粉を使い、そば打ち体験を行っている。小・中学生にとっては、食への意識・感謝を育むとともに、ふるさとのよさの発見につながる機会となっている。

1. 都道府県名	秋田県	3. 公民館対象人口	3,107人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	大仙市	4. 建物設置年月日	昭和30年3月31日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	0台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 () <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座	307人	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動	651人	合計 1,198人
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	240人	(居場所としての来館者数)		
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任	4人	<input type="checkbox"/> 兼任	0人	合計 6人
	(職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人)		<input checked="" type="checkbox"/> 非常勤	2人	
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援	<input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動	<input type="checkbox"/> 子ども食堂	
	<input checked="" type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画	<input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり	<input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援	<input type="checkbox"/> 障害者の学び支援	
	<input type="checkbox"/> ICTの活用	<input type="checkbox"/> 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動	<input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール	
	<input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成	<input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input type="checkbox"/> 自主夜間中学	
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設	<input checked="" type="checkbox"/> 図書館	<input type="checkbox"/> 学校	<input type="checkbox"/> 生涯学習センター	
	<input type="checkbox"/> 自由記述 ()	<input type="checkbox"/> その他 ()			
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所	<input checked="" type="checkbox"/> 小中学校	<input type="checkbox"/> 高校	<input type="checkbox"/> 大学	
	<input checked="" type="checkbox"/> 企業	<input type="checkbox"/> NPO	<input checked="" type="checkbox"/> 各種団体	<input checked="" type="checkbox"/> 行政機関	
	<input checked="" type="checkbox"/> 図書館	<input type="checkbox"/> 博物館	<input type="checkbox"/> 青少年教育施設	<input type="checkbox"/> その他	
	<input type="checkbox"/> つきの木こども園、大仙市立南外小学校、大仙市立南外中学校、大仙市役所南外支所、J A、農産物直売グループ、商工会、婦人会、農業経営者、大曲図書館				

大仙市立南外公民館

OPEN 9:00~21:00 H P _____
TEL 0187-74-2130 SNS _____



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

大仙市南外地域は、少子高齢化と人口減少が著しく、基幹産業である農業の担い手不足が深刻となっている。農業の担い手の発掘・育成は、本地域の維持・活性化のための最重要課題となっている。本地域の農業は、従来は米が主力であったが、近年では米以外の作物も育てる複合経営や、6次産業化の動きも進んでいる。そうした中、本地域の豊かな自然や豊富な湧き水を活用した「そばの里」を目指し、そばを地域の特産品にしようとする農家も増えてきている。

一方、市教育委員会は、平成29年度から「地域活性化に寄与できる子どもの育成」を目指し、地域の教育力を再編・強化し、各中学校区単位で公民館等と連携しながら地域に根ざしたキャリア教育等の取組を行う「大仙教育メソッド」を推進している。

そこで、本公民館では、子どもたちが本地域の基幹産業である農業の重要性を理解することができるよう、「なんがいの味・食育体験交流事業」を実施している。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

子どもたちが南外地域で生産されている農産物等について学ぶ「なんがいの味・食育体験交流事業」を実施するに当たり、本公民館では、地域のJ A、農産物直売グループ、商工会、婦人会、農業経営者、学校関係者、市職員等からなる実行委員会を組織し、地域の教育力を生かしながら事業を展開している。

○その1：南外そばを使用したそば打ち体験会

南外小学校の5・6年生と南外中学校の1年生を対象に、特産化が進んでいる南外地域のそば粉を活用し、そば打ち体験会を行っている。子どもたちは、地元の生産農家等から南外そばの特色について説明を受けた後、そば打ちの手ほどきを受け、試食を行った。事後のアンケートには、「歯ごたえがあっておいしかった。」「地域の自然環境が、そばの栽培に適していることが分かった。」「地域の特産にしたいという農家の皆さんの熱い気持ちが伝わった。」「私もそばを育ててみたい。』などの記述が見られた。

○その2：おいしい南外米の育成体験

南外地域で育てている「あきたこまち」は県内一おいしいと定評があり、地域の自慢の一つでもある。そこで南外小学校の5年生を対象に「あきたこまち」の育成体験を実施し、そのおいしさの秘密を生産農家や関係者から学ぶ取組を行っている。これは、同校の社会科の学習やふるさと教育の一環として行っている。事後のアンケートには、「いつも食べているので当たり前だと思っていたが、改めてすごいと思った。」「おいしさの秘密は、水の豊かさだと思った。」などの記述が見られた。

○その3：農産加工品等の物産販売体験

南外中学校の生徒を対象に、南外地域祭で地域の農産物加工品等の販売体験を行っている。これは、同校のキャリア教育の一環として行っている。



学校でのそば打ち体験会



南外米の育成体験

3. 取組による成果や効果

本公民館が、「地域の活性化に寄与できる子どもの育成」の実現を目指して行っている「なんがいの味・食育交流事業」は、子どもたちの地域の魅力に対する愛着や帰属意識を醸成するとともに、子どもたちが地域課題について考え、地域の将来像について当事者意識をもって考えようとする意欲の喚起につながっているものと考えられる。

本事業は、地域理解や地域への愛着心を醸成したいという学校側の願いと、基幹産業である農業の担い手育成につなげたいという地域側の願いをマッチさせた取組で、双方がWin-Winの関係になることに大きく寄与している。

一方、地域の子どもたちと関わる本事業は、地域住民にとっても新たな自己発見や生き甲斐づくりの場になっている。地域住民は、子どもたちとの関わりを通して自己有用感や責任感を感じ、他地域へ出向いて学習するなど意識の向上が見られた。

実行委員からは、「子どもたちに栽培から収穫、加工、販売までの、いわゆる6次産業化の一連の流れを経験させ、将来の担い手育成につなげたい。」との声も聞かれるようになった。本事業をきっかけに、本地域が「そばの里」として認知され、6次産業化の流れが定着すれば、地域住民の新たな雇用を生み出す効果も秘めているのではなかと考えている。



地域住民も新たな自己発見

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

年2回、公民館運営審議会を開催し、公民館の事業や課題について報告し、今後の活動に生かしている。また、事業を実施した際には、参加者に対してアンケート調査を実施し、成果と課題について本公民館内で協議するとともに、市教育委員会が行っている事務事業評価に報告し、外部評価委員による評価を行っている。そのことにより、PDCAサイクルを機能させ、次年度の事業実施に生かしている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

日頃、地域の「つながりづくり」や「賑わい創出」の拠点となるよう、地域住民が一番集まりやすく、楽しさをベースとした学びが行われるスペースづくりを心がけている。また、本市においては、「地域学校協働本部」を各地域公民館に配置している。そのため、地域と学校の双方に有効な「地域学校協働活動」を実施するための連絡・調整役や地域教育力再編・強化の役割を担うよう努めている。



地域の「つながりづくり」の拠点

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

高齢者はもちろんのこと、子どもを含めた若い世代の参画を一層促し、地域の維持・活性化を推進する拠点センター的な役割を果たしていきたい。また、「地域学校協働本部」としての機能を一層充実させ、本市の特色である地域学校協働活動を核にした社会教育と学校教育の一層の連携・協働を推進していきたい。その際、地域課題の解決に熟意をもって取り組む人材を巻き込んでいくことには、特に配慮したい。



地域で輝く子どもたち

世代を超えて みんながつながる『絆』ステーション

北秋田市民ふれあいプラザ



定期講座グッドライフ講座
「障がい者スポーツに挑戦」



冬の笑楽校
「楽しく防災を学ぼう！」

公民館の沿革・年表

昭和48年 鷹巣町立鷹巣中央公民館が開設される。
 平成17年 鷹巣町、合川町、森吉町、阿仁町が合併して北秋田市となる。
 平成20年 「定期講座グッドライフ講座」を開始する。
 平成24年 「冬の笑楽校」を開始する。
 平成28年 「北秋田市民ふれあいプラザ」として新設される。

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

- 定期講座グッドライフ講座「ハンズToハンズプログラム」
「障がいのある無しにかかわらず共に学びあおう！」をテーマに講座を開催。写真は、「障がい者スポーツに挑戦」の様子。ポッチャ、卓球バレー、スカットボールを行い、交流を深めた。
- 冬の笑楽校
地域の大人を講師に、北秋田市と上小阿仁村の小学生が集い、学校では体験できない学習や活動を行っている。写真は、「楽しく防災を学ぼう！～みんなでテントを張ろう～」の様子。子どもたちは協力しながらあっという間にテントを完成させていた。

1. 都道府県名	秋田県	3. 公民館対象人口	29,847人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	北秋田市	4. 建物設置年月日	平成28年4月1日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	9台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会	<input type="checkbox"/> 指定管理者 ()	<input type="checkbox"/> その他 ()		
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 16,491人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 6,206人	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 25,443人	<input type="checkbox"/> 講演会、展示会等	合計	48,140人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 11人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 2人)	<input type="checkbox"/> 兼任 0人	<input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 2人 (職員のうち社会教育士の数 1人)	<input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人	合計 13人
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算	<input type="checkbox"/> 委託金	<input type="checkbox"/> 自治組織等予算	<input type="checkbox"/> 寄附等	<input type="checkbox"/> その他 ()
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> その他 ()		
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> その他 ()	<input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input checked="" type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 自主夜間中学	
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (市の中心市街地に位置し、幅広い世代が利用できるスペースと機能が充実した憩い・集い・学びの場)	<input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> その他 ()	<input type="checkbox"/> 学校	<input type="checkbox"/> 生涯学習センター	
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 図書館	<input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> 博物館	<input checked="" type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 青少年教育施設	<input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input checked="" type="checkbox"/> その他	(市内9小学校、市内4中学校、県立秋田北鷹高校、県立比内支援学校たかのす校、秋田大学北秋田分校、大館少年自然の家、北秋田市障害者生活支援センターささえ、北秋田市老人クラブ連合会、たかのす銀座通り商店街、上小阿仁村教育委員会、北秋田警察署、北秋田市消防署、東京都国立市)

北秋田市民ふれあいプラザ

OPEN 8:30~22:00
TEL 0186-62-1130

H P https://www.city.kitaakita.akita.jp/genre/kyouiku_bunka_sports/syougaiagakusyu/fureai
SNS (市公式twitter) @kitaakita_city



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

本センターは、市内中心部に建設された社会教育類似施設であり、**地域の大きな課題の一つである中心市街地の活性化を担っている**。市内に11の公民館があるが、それらの公民館において生涯学習・社会教育の活動が充実するよう、**各公民館の拠点施設**として、連携へのアプローチや情報提供等を行っている。また、地域課題への対応、学びの場を核とした地域コミュニティ形成を推進するとともに、学校・家庭・地域が連携・協働するための活動に対応した取組を実施することを通して、**あらゆる年代に学ぶ機会を提供**している。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【定期講座グッドライフ講座（障害者の学びの支援・高齢者の学びの支援）】

中高年者に元気と安心を与えること、地域課題の解決を図ることを目的に年5・6回定期的に開催している。2年前からは、**「共生社会」を目指し障害者の生涯学習を推進**するため、障害の有無に関わらず講座に参加できる「ハンズToハンズプログラム」を開催している。障害者のほか、知的障害者相談員や民生児童委員、地域の高齢者などが共に活動してお互いに理解を深め、学び合う関係が生まれている。講座の内容は、「防災」や「街歩き」などの地域の課題に目を向けたものや、「そば打ち体験」「ニュースポーツ体験」など、広く交流し、みんなが楽しみながら学べるようなものを実施している。市内老人クラブ員や**他講座で養成した人材を講師**としてお願いするなど、これまでの**学習の成果を発揮する場**にもなっている。



他講座で養成した人材の活用
「そば打ち体験」

【「冬の笑楽校」（子どもの体験活動・地域資源を活用したまちづくり）】

地域の大人を先生に、小学生が集い**学校では体験できない学習や活動**を通して地域に目を向け、互いの仲間意識や向上心を高める目的で実施している。小学校の冬休み中に開催し、近隣の上小阿仁村の小学生と共に活動を楽しんだ。地域企業、高校生ボランティア、地域住民、生涯学習奨励員等によるサポートにより、**幅広い年代がつながりをもつ場**となっている。



高校生ボランティアの活躍
「冬の笑楽校」

3. 取組による成果や効果

【取組による成果・効果（定期講座グッドライフ講座・冬の笑楽校）】

- 多くの市民が集うふれあい施設の主催事業として、**住民が学びの楽しさや新たな仲間づくりを体験**することができた。
- 年代、障害の有無、地域等に関わらず参加できる要素を盛り込んだ事業を繰り返したことで、**世代間交流や共生社会のまちづくりを推進**することができた。
- 地元高校との協働により高校生が地域で活動する機会が増え、**高校生が活躍する場を創出**するとともに、**地域住民が高校生を応援する機会**ができた。
- 地域の大人が先生となり学校では体験できない学習や活動を通して、小学生がふるさとのよさを学んだり、**身近にある仕事に関心をもったり**することができた。



地元の警察官を講師として活用
「冬の笑楽校」

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 社会教育委員の会議：年2回開催。社会教育中期計画に沿った各種事業の報告や評価を行い、次年度以降の活動へ生かしている。
- 公民館運営審議会：年2回開催。公民館の事業や課題について報告し、今後の活動に生かしている。
- 利用者アンケートの実施：講座や事業終了時において実施している。その結果を次回の活動の改善に生かしている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

施設のコネプトとして「憩い・交流・にぎわい」を掲げており、住民の憩いの場として集い合いながらお互いを高め、**住民一人一人の充実した生活を創造**することを目標としている。また、市における生涯学習・社会教育の中心施設として、自主サークルや講座の紹介、講師の斡旋等の相談業務にも対応するなど、**住民のニーズや要望に応える**ことを大切にしている。



高齢者の交流の場

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

- SNSを利用した情報の発信を活用しながら、**幅広い世代への学びの機会の周知**を図る。
- 世代間交流の場をつくり、知識や経験を**次世代へ引き継いでいく仕組みづくり**に努める。
- 高齢者、障害者、学生、子育て世代など誰もが学びつながりあえる場として、**「北秋田市民ふれあいプラザに行けば何かが見つかる！」**と市民が感じることができる場をつくりあげていきたい。



子育て世代支援室
「ねまーる広場」

「持っていない」を「持っている」出し惜しみなんてしないから。

川西町吉島地区交流センター

公民館の沿革・年表

- 2002年、町の行財政改革に伴い公民館が公設民営化。
- 2004年、優良公民館として文部科学大臣賞受賞。
- 2006年、地区公民館の指定管理者制度導入。
- 2007年、NPO法人設立。公民館の管理運営にあたる。
- 2009年、地区公民館がコミセン化され、社会教育施設から地域課題の解決拠点として再スタート。
- 2010年、地域づくり総務大臣表彰
- 2012年、地区公民館の耐震工事が完了。
- 2017年、地方自治法施行70周年記念総務大臣表彰受賞
- 2019年、第9回地域再生大賞準大賞受賞

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

●合意形成のシステム
 「決めない会議」と「決める会議」の2層の仕組みを構築。「決めない会議」では住民WSにおいて地域の意見や要望、課題を集約する。集約された意見や課題は事務局および各部門で検討され、事業化の可否と事業化の企画・立案がなされる。「決める会議」ではその事業化の精査や予算の配分・執行を最終的に決定。決定事項は各部会で事業化され、一年経過後に事前の評価基準によって活動を評価（PDCAサイクル）。評価結果は全住民に開示。



1. 都道府県名	山形県	3. 公民館対象人口	2230人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	川西町	4. 建物設置年月日	昭和54年	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	500台
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理者 (NPO法人きらりよじまネットワーク) <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 845人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 6997人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等 <input type="checkbox"/> その他 0人 () 合計 7,842人				
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 6人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 11人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 48人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人) 合計 65人				
10. 予算	<input type="checkbox"/> 市区町村予算 <input checked="" type="checkbox"/> 委託金 <input checked="" type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input checked="" type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 (51,250千円)				
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 子ども食堂 <input checked="" type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他 ()				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 (<input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター) <input type="checkbox"/> その他 (公民館のセンター化により分野横断型の) <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (地域食堂や各種サロンの運営など、地域住民が気軽に立ち寄れる工夫をしている。)				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input checked="" type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 (川西町立美郷幼稚園、川西町立吉島小学校、川西町立川西中学校、東北大学、慶応義塾大学、地元企業、置賜管内のNPO法人、吉島地区内の各種団体、山形県、川西町など)				

川西町吉島地区交流センター

OPEN 9:00～22:00 H P <https://www.e-yoshijima.org/>
 TEL 0238-44-2840 SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

町の行財政改革に伴う公民館の公設民営化を契機とし、地域を再生させるために当時の地区公民館事務局のメンバーを主体に新たな組織の立ち上げに着手。2004年、地域運営組織として地域内の地縁で組織される各種団体を統合し新たな組織の構築を住民に提案した。住民説明と住民ワークショップを丁寧に繰り返し、少しずつ合意形成を図り、設立までに3年の準備期間を設け、2007年に全世帯加入のNPO法人を設立。住民ワークショップで地域ニーズを把握し、わがこと化、まるごと化を図り、5か年の地区計画を徹底したPDCAで実践。地域の若者層をNPOの事務局として組織に体系化するとともに、課題解決の技術やツール活用等の学びの場を設定し、将来の担い手育成を計画的に実践している。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

●合意形成のシステム

「決めない会議」と「決める会議」の2層の仕組みを構築。「決めない会議」では住民WSにおいて地域の意見や要望、課題を集約する。集約された意見や課題は事務局および各部門で検討され、事業化の可否と事業化の企画・立案がなされる。「決める会議」ではその事業化の精査や予算の配分・執行を最終的に決定。決定事項は各部会で事業化され、一年経過後に事前の評価基準によって活動を評価（PDCAサイクル）。評価結果は全住民に開示。

●地域福祉

地区内の幼稚園、小・中学校と連携体制を構築し、学校支援活動や地域福祉の学習提供など学校教育に積極的に関与。幼少期からの地域活動を促進し、青少年の健全育成を図る。生活支援アプリやAIスピーカーを活用した高齢者の生活支援にも取り組む。

食を通じて人がつながる子ども食堂を兼ねた地域食堂「まんま屋」を運営。夜は居酒屋「きらり」を営業している。

●人づくりスキーム

人材発掘は各自治公民館（19ヶ所）の館長が行い、地区の有望な若者を教育部会の専門部に所属させ、OJT・OFFJTを実施。

教育部会（1～2年）、事務局研修生（2年）、事務局、マネジャーという順に段階的にスキルアップ。事務局スタッフとしてはコーチングとファシリテーション、マネジャーとしてはマネジメントとマーケティングの技術（プロから学ぶ環境をつくり専門的研修を実施）を習得。

若者は事務局の運営や住民WS、住民ニーズの事業化プロセスなどで学びと実践を繰り返し、地域コーディネーター（指導者）として活躍が可能。地域コーディネーターには6つの力が必要（コミュニケーション、ファシリテーション、企画力、PR力、ネットワーク、組織経営力）。

人材育成は若者に限らず、地域外の住民や女性など様々な人材を対象とし多面的に行い、住民が相互補完できる関係を目指す。



写真・図のタイトル



写真・図のタイトル

3. 取組による成果や効果

公民館を地域づくりの小さな拠点として、次代を担う地域の若年層がその事務局機能を担っており、人材の育成が図られている。また、世代をつなぐ活動の取り組みによって、縦の関係性が生まれ広がりを見せている。

住民ワークショップを取り入れることにより、住民の思いを取り入れることができている。

事業においても、子どもたちから高齢者まで、日常的にふれあう場が生まれ、世代間の交流や共同ができている。

大学や企業、他県の協議体等々とのつながりができており、関係人口は延べ2,000人を超えている。



写真・図のタイトル

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

地区計画に網羅される事業にすべてチェックシートがあり、年2回の評価診断活動でPDCAを標準化。

住民ワークショップを年4回、子どもの体験活動でのワークショップを2回、高齢者向けワークショップを2回開催し、ニーズとアイデアの集約を行い、5か年の地区計画に反映している。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

内発性：地域づくりの主体は住民であり住民の思いが企画を生み知恵・経験を集約、展開・発展させる

多様性：地域の様々な個性を受け入れ、地域に不足する資源は他分野、他地域等と連携する

独自性：地域特性を捉え、地域ならではの資源を活用した横並びしない魅力ある地域づくりを意識する

改革性：課題解決に必要な「経営技術」、「課題解決ツール」を、住民自身が学び、実践を通して地域が成長する環境を整える



写真・図のタイトル

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

人口減少、超高齢化が加速する地方のコミュニティーを持続可能なものにしていくためには新しい人のつながりづくりが重要である。都市部との豊かな人間関係を構築し、都市部の人にとって吉島地区が「第二のふるさと」となるように「関係人口」の拡充を図る事業を展開していく。



写真・図のタイトル

つどい、まなび、むすび、いかす 中央学習センター

福島市中央学習センター



0歳児コース カンガルー教室



ふくしまマスターズ大学

公民館の沿革・年表

昭和23年11月 中央公民館設置

昭和43年 3月 増築

平成17年 7月 中央学習センターに名称変更

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

○中央家庭教育学級「0歳児コースカンガルー教室」

0歳児とその保護者を対象に、相互に交流しながら育児について学習し、保護者の孤立化の防止や家庭での育児力の強化をはかり、育児を楽しみながらよりよい親子関係、家族関係を構築することをねらいに実施している。

○ふくしまマスターズ大学

時代のニーズに即し、あらゆる世代の市民に対し、夢と希望を与えるため、著名な講師による講演会を実施することにより、自己の能力や知識の向上を目指すとともに、地域社会に対し積極的に還元を図る契機とすることで活力ある生活や生涯学習への意識の高揚を図る。

1. 都道府県名	福島県	3. 公民館対象人口	25300人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	福島市	4. 建物設置年月日	昭和34年2月	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 (<input type="checkbox"/> 地区まちづくり協議会) <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 4025人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 26249人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 605人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 62人 (運営審議会ほか)				合計 30,941人
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任 8人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input type="checkbox"/> 非常勤 2人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 2人 職員のうち社会教育士の数 1人) 合計 10人				
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他 ()				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 (<input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター) <input type="checkbox"/> 自由記述 ()				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input checked="" type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 ()				

福島市中央学習センター

OPEN 9:00~21:00

H P <https://www.city.fukushima.fukushima.jp/gakushucenter/chuocenter/index.htm>

TEL 024-534-6631

SNS





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 障がい者が、生涯にわたり自らの可能性を追求でき、地域の一員として豊かな人生を送ることができるようにすることは共生社会の実現に向けて重要なことであるが、特別支援学校や特別支援学級卒業後の学び直しが大きな課題となっていた。
- 高齢化が進行する中、現役をリタイアしたシニア世代の生きがいづくりや地域とのつながりづくりを通じて、健康で充実したセカンドライフの一助にもらうとともに、地域社会の担い手として社会参画をしてもらうための必要な学習機会の確保が課題とされていた。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

①しゃくなげ青年講座

特別支援学校や特別支援学級を卒業した卒業した知的障がい者を対象に、余暇の有効活用の場と、豊かな生活体験や交流するための機会を提供することで、社会参加や自立を支援することを目的に昭和44年から講座を実施している。

現在の参加者は約40名。運営にあたっては本人や保護者（家族）の意見を取り入れながら、講座については、生活教養、レクリエーション、造形活動やまちの施設利用等の活動を実施し、ふくしま支援学校、太陽学園、福祉レクリエーションネットワークinふくしま等と協力しながら行っている。



しゃくなげ青年講座・選挙の学習

②ふくしまマスターズ大学

あらゆる世代の市民を対象に、生涯学習の意識高揚を図り、さらには生きがいづくりと学びのきっかけづくりとするべく著名な講師による講演会を実施。

その中で、聴講者が自主的に同期生会等の組織を立ち上げ、講演会の運営協力、教養・体験学習、地域づくりなど会員同士で交流を図りつつ自主的に活動しており、その結果、地域社会への積極的な還元が図られている。



マスターズ大学講演会

3. 取組による成果や効果

①しゃくなげ青年講座

- 障がい者の生きがいづくりや地域とのつながりを創出。
- しゃくなげ青年講座をきっかけに、地域住民の共生社会実現の重要性が認識されてきている。

②ふくしまマスターズ大学

- シニア世代の生きがいづくりや住民同士のつながりを創出。
- 同期生会の活動を通じて地域の課題や魅力を発見し、地域課題の解決に関する学びを通じて、参加者の地域づくりへの関心が高まった。



マスターズSDGS学習会

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 町会関係者、学識経験者、公募委員等12名で構成する運営審議会を年6回開催。活動ごとの振り返りや課題について議論し、多様な視点からの意見等をいただき事業を検証、改善を実施している。
- しゃくなげ青年講座については、保護者説明会やスタッフミーティングを定期的に行い、講座の問題点を検証、改善を実施している。
- ふくしまマスターズ大学については、連絡会、実行委員会を立ち上げ、事業の企画段階から議論することにより、市民目線に立った講演会の運営、自主事業の実施のため意見等を反映。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

- 市民が、「つどい」「まなび」「むすび」「いかす」のための本市学習センターの中核を担う館として、全市民的な視野に立ち、各学習センターや町会、学校、PTAなど関係機関・団体との連携を図りながら、ふれあいと生きがいづくりに満ちた魅力ある生涯学習環境の創出を目指し、効果的で特色あるライフステージに応じた社会教育事業を推進する。



中央地区文化祭

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

- 社会情勢の変化や新型コロナウイルス感染症の影響により、人と人とのつながりが希薄化される中で、YouTubeを使った動画講座やInstagram等での活動紹介を通じて、「学び」を止めない学習機会の提供に努めていく。
- 地元の大学生や高校生と協力しながら、若年層の課題解決に向けた講座を企画立案、実施していくことにより、これまで学習センターをあまり利用して来なかった年代層の利用増加を図り、生涯学習、さらには地域社会の発展に努めていく。



高校生対象・福島PR部

学びを生涯の宝とするために、今できることを！

相馬市中央公民館



子育てサークル活動への協力（イベントの演出等）



親子ハンコ作り教室の様子

公民館の沿革・年表

- 昭和29年度 開館
- 昭和42年3月 改築（市民会館と併設）
- 昭和57年3月 共同福祉施設完成
- 平成15年4月 相馬市に移管
- 平成16年 旧共同福祉施設・旧相馬市図書館施設へ移転
- 平成18年度 福島県教育委員会表彰公民館受賞
- 平成23年3月11日 東日本大震災により休館、事業休止
- 平成27年2月15日 公民館改築、公民館事業再開

左図・写真の説明など（PRポイントなども可）

相馬市中央公民館は、市内の地区公民館8館を管轄する公民館として講座や教室を展開している。

東日本大震災以降、公民館教室に通う住民の広域化が進むなかで、住民ニーズの多様化にも対応しながら、公民館事業に取り組む。令和元年末からは、新型コロナウイルスによる活動自粛に伴い休館となることがあったが、感染対策を講じながら取り組むことで、今だからこそ出来る学びを展開してきた。また、少人数でも開催が可能な教室・講座、新しい講師の発掘に努め、守ることよりも攻めの公民館事業に取り組んできた。

1. 都道府県名	福島県	3. 公民館対象人口	10101人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	相馬市	4. 建物設置年月日	平成27年2月15日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	10台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者（ <input type="checkbox"/> 地区まちづくり協議会） <input type="checkbox"/> その他（ ）				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 6778人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 1081人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 89人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 53人（ ）				合計 8,001人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 7人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 0人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 （ 職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 2人 ） 合計 7人				
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他（ ）				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input checked="" type="checkbox"/> その他（ 千客万来館（観光交流施設） ） <input type="checkbox"/> 自由記述（ ）				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等（団体名記述）	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input checked="" type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 相馬市観光協会、こはるびより（子育てサークル）				

相馬市中央公民館

OPEN 8:30~17:15

HP <https://www.city.soma.fukushima.jp/shinososhiki/chuokominkan/1/1422.html>

TEL 0244-37-2198

SNS





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

○新型コロナウイルス感染拡大は、公民館における教室や講座に影響を及ぼしている。コロナ禍でも、地域住民のニーズとして、「人のつながり」や「学びの場」を求める意見が多く寄せられた。生涯の学びの拠点である公民館として、「今できることを！」という思いで事業を進めてきた。特に、学校生活や家庭生活での制約を受けている子どもたちに対して、様々な体験活動を企画・運営することに努めてきた。

○新事業「先人の生きる知恵を学ぶ講座」をきっかけに、地域の伝統文化等を学び、継承する活動につなげていく。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

①学校との連携による「わくわく出前授業」

新型コロナウイルス感染拡大により学校行事の規模縮小等の学校生活を送る子どもたちに、友達や家族で協力し合う機会を創出しようと出前授業を行った。具体的には、学級活動での「バームクーヘン作り」による友達との仲間意識を高める活動を行った。また、4年算数では、「折り紙で作る三角定規」という課題で、公民館職員が外部講師を務めた。

②多様なニーズに応える「特別企画講座」

・親子による体験活動：全国的に公民館利用が、中高年に偏る傾向にある。当館においてこの課題解決のために、幅広い年代に公民館事業への関心を高めようと、親子で参加出来る教室や講座を開催した。具体的には、「ハンコ作り講座」や「陶芸教室」、「ピザ教室」、「星空教室」を通して、親子のコミュニケーションを深め、家庭でも出来る内容とした。

・先人の生きる知恵を学ぶ講座：相馬市には今も市民の心の支えとして「報徳仕法」がある。コロナ禍という困難を乗り越えるために、先人の教えを学ぶ「相馬報徳講座」を行った。また、食文化に関する「柿の渋抜き講座」を行った。SDGsの視点から昔の人々の渋抜きの方法を体験した。

・学び合いと交流ができる教室：参加者同士の学び合いと交流を図る教室を行った。具体的には、「パソコン教室」「そば打ち教室」「パリスト講座」により、趣味を広げた。



出前授業 バームクーヘン作り



親子陶芸教室

3. 取組による成果や効果

①活動を通して子どもたちに笑顔がもどった。仲間と一つの目標に向かって協力し合うことの楽しさを実感できた。市内の小学校との連携による「わくわく出前講座」を実施することは学習支援の一助となるとともに、子どもたちの地域の公民館への関心を高めた。

②社会生活の様々な状況を踏まえ、子どもから大人、子育て世代、高齢者等のニーズに応える教室や講座を設定した。参加者からの意見を取り入れながら、内容の見直し等を行うことで、より充実した教室や講座にすることができた。具体的には、先人の知恵や技術、思いを学ぶことができた。日常生活で活用できる。親子の絆が深まった。また公民館の教室に親子で参加したい。一人よりみんなで学ぶことは楽しい。職場でのコミュニケーションに効果がある。以上のように様々な意見があった。



パリスト講座で焙煎を学ぶ

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

○公民館運営審議会を開催し、公民館事業計画、報告及び協議

・公民館事業への参加者を対象としたアンケートを実施する。

・回答結果をもとに、開催方法や要望等を踏まえ、対策や事業改善を図る。（P D C Aサイクルを意識した運営）

・アンケート結果を講師等とも共有し、今後の開催方法等に活かす。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

○新型コロナウイルス感染拡大を理由として、地域の人々の「学び」を止めるのではなく、公民館として出来ること（学びの機会）を計画的に、情熱的に継続する。

・一生に一度の体験よりも、継続できる教室づくり。

・（YouTubeに負けないために）人と人のつながりのなかでの学びを創出する。

・老後（退職後）の日常と人生100年時代を迎えるために、今から備える。



パソコン教室で動画編集を学ぶ

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

○地域の人々が新たな知識の習得をめざし、学び続け、自ら「生き抜く力」を育むために、地域とともに在り続ける公民館でありたい。

・地域の文化を継承し、新しい文化を創造しながら、楽しく、生きがいにつながる事業の推進。

・地域に生きる人々が、共に活躍できる機会の創出。



親子ピザ教室

学校で学び 地域で育つ 慶徳の子

喜多方市慶徳公民館



慶徳公民館（慶徳ふれあい館）



「慶徳稲荷神社御田植祭」早乙女による田植え

公民館の沿革・年表

- 昭和24年11月 旧慶徳村公民館として慶徳小学校に併設
- 昭和29年 3月 市制施行と同時に公民館慶徳分館となる
- 昭和49年 7月 喜多方市慶徳公民館となる
- 平成18年 6月 都市農山村交流センター
「慶徳ふれあい館」が新築落成する
- 平成20年 4月 生涯学習事業「慶徳御田植祭」開始
- 平成23年11月 福島県教育委員会より表彰を受ける
- 平成31年 4月 「会津の御田植祭」が国指定重要無形
民俗文化財となる

公民館の沿革・年表

- 慶徳公民館（慶徳ふれあい館）の全景写真
 - ・伝統的な木造建築技術を活かし、雪国独特の太く頑丈な木組
原材料は地元慶徳産のアカマツ材を活用
- 慶徳稲荷神社御田植祭の写真
 - ・神田のあぜに「デコ」と呼ばれる田植え姿の人形を立て、早乙女が
田植え歌と篠笛に合わせて苗を植え、豊作を祈願する行事である
 - ・神輿の列に農具を持ち白狐の面を着けた子どもたちが加わり、神
田に苗を投げ入れる。
 - ・会津地方では、多くの御田植祭が衰退する中、伝統的な形を
継承している点に大きな特徴があり国の指定を受けた。

1. 都道府県名	福島県	3. 公民館対象人口	1164人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	喜多方市	4. 建物設置年月日	平成18年6月1日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会	<input type="checkbox"/> 指定管理者 (<input type="checkbox"/> 地区まちづくり協議会)	<input type="checkbox"/> その他 ()		
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 2446人	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 3601人	<input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 356人	合計	7,699人
	<input checked="" type="checkbox"/> その他 1296人 (ni)				
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任 0人	<input type="checkbox"/> 兼任 0人	<input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 3人	<input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人	合計 3人
	(職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人	職員のうち社会教育士の数 0人)			
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算	<input type="checkbox"/> 委託金	<input type="checkbox"/> 自治組織等予算	<input type="checkbox"/> 寄附等	<input type="checkbox"/> その他 ()
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> その他 ()		
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援	<input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動	<input type="checkbox"/> 子ども食堂	
	<input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画	<input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり	<input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援	<input type="checkbox"/> 障害者の学び支援	
	<input type="checkbox"/> ICTの活用	<input checked="" type="checkbox"/> 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動	<input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール	
	<input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成	<input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input type="checkbox"/> 自主夜間中学	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他 (公民館まつり、町民大運動会、慶徳町敬老会、スポーツ交流大会 等)				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設	<input type="checkbox"/> 図書館	<input type="checkbox"/> 学校	<input type="checkbox"/> 生涯学習センター	
	<input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (国の重要文化財「長床」をもとに、環境にやさしい自然エネルギーを活かした先駆的な木造建築)	<input type="checkbox"/> その他 ()			
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所	<input checked="" type="checkbox"/> 小中学校	<input type="checkbox"/> 高校	<input type="checkbox"/> 大学	
	<input type="checkbox"/> 企業	<input type="checkbox"/> NPO	<input checked="" type="checkbox"/> 各種団体	<input checked="" type="checkbox"/> 行政機関	
	<input checked="" type="checkbox"/> 図書館	<input type="checkbox"/> 博物館	<input type="checkbox"/> 青少年教育施設	<input checked="" type="checkbox"/> その他	
	(慶徳小学校・慶徳児童クラブ館・喜多方第一中学校・慶徳町行政区長会・慶徳町体育協会・慶徳まちおこし協議会 青少年育成慶徳地区会議・子ども会育成会・慶徳稲荷神社御田植祭保存会・新宮地区重要文化財保存会 等)				

喜多方市慶徳公民館

OPEN 8:30~22:00

TEL 0241-22-1901

HP <https://www.city.kitakata.fukushima.jp/soshiki/tyuou-kouminkan/30745.html>

SNS





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- ◆当地域には伝統文化や歴史的建造物が多数存在し、以前は会津盆地西部地域の中心として栄えたと見られる古墳なども発掘された。しかし、近年少子高齢化の影響により地域の行事や祭り等が衰退していった。
- ◆子どもの数が減少する中、未来を担う子どもたちに豊かな感性と郷土愛を育み、地域を愛する子どもを育成するために、地元慶徳小学校との地域連携・協働事業をどのように進めたらよいか、模索を続けていた。



長床

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

(1)〔慶徳御田植祭・早乙女踊りの取組〕～ 慶徳稲荷神社御田植祭は半夏生の7/2

- 4月～6月まで、放課後に小学校の体育館で実施。月4回60分程度。
- 対象学年は4年生以上20名(男子10名・女子10名)／全校児童50名。
公民館長がオリエンテーションを行い、早乙女踊りと篠笛の指導は、稲荷神社保存会及び宮司、地域の指導者、公民館職員が当たる。
- 女子は田植え歌に合わせて早乙女踊りを奉納し、当日は神田での田植え行。男子は田植え歌に合わせて篠笛を演奏。また、苗運びの白虎に変装し神田に苗を投げ入れるなどの演技も行う。



早乙女踊りの奉納

(2)〔慶徳！スポーツアカデミー運動教室の取組〕

- 4月～7月まで水曜日の放課後に小学校のグラウンド及び体育館で実施。月3回90分程度。
- 対象学年は2年生以上で全校児童50名中、31名が受講。指導者は町内在住で体育系大学卒の教員有資格者2名が当たり、指導員が補助を努めている。
- 陸上競技の基本を中心にゲーム的な要素も取り入れながら、運動が苦手な子ども得意な子どもレベルに応じて基礎から学び、楽しく運動に親しみながら体力や技能の向上を図っている。



慶徳！スポーツアカデミー

(3)〔地域の文化財巡りの取組〕

- 9月下旬に6年生(10名)を対象として実施。指導者は公民館長・住職・宮司・保存会役員等。
- 市のマイクロバスを利用して町内にある文化財や歴史的建造物等について、現地を訪ねて実際に見学しながら、関係者からの説明を受ける課外授業として行い、ふるさと再発見を目的として実施している。



地域の文化財巡り

3. 取組による成果や効果

- (1)公民館の社会教育と学校の教育力を融合させ、地域の人材を活用した取組を通して、子どもたちが学ぶだけでなく地域の活性化にもつながり、伝統文化を受け継ぐ連携が図られたことは素晴らしい。
- (2)子どもたちが地域の歴史と伝統を知り、行事などに積極的に関わることの素晴らしさを実感できた。
- (3)コロナ禍の中で活動が制限される中、地域の方々子どもたちのために話し合い、早乙女踊りの披露ができたこととても感動し、伝統を受け継ぎ次の世代へと引き継ぐことの大切さを実感したようである。
- (4)スポーツを通して健康な体力作りが心がけ、楽しく運動できることの大切さを学ぶことが出来た。
- (5)地域の伝統文化や歴史的建造物を直接見聞することにより、郷土を理解し愛する態度が育まれた。
- (6)520年以上継続している慶徳御田植祭が「国の重要無形民俗文化財」として指定された。

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- ◆慶徳稲荷神社保存会や地域の小学校との話し合いを継続し、PDCAを意識しながら改善を図っている。
- ◆慶徳まちおこし協議会で各種事業や講座の事業評価を行い、よりよい方向へと向かうように改善している。
- ◆地域学校協働活動に関しては、館長が域内の小・中学校の委員となり学校運営協議会で検証を行っている。
- ◆喜多方市の公民館運営審議会を年3回程実施し、事業の検証や指導助言をいただいている。



慶徳まちおこし協議会

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

- ◆公民館は生涯学習の中核として・地域作りの拠点としての役割を大切に、地域の活性化を図っている。
- ◆「つどう」「まなぶ」「むすぶ」の基本的な機能を大切に、各種講座や事業の展開を図っている。
- ◆“学校で学び 地域で育つ 慶徳の子”をキーワードとして、学校と地域のそれぞれの持つ教育力を活かした連携事業の展開に努めている。



合同作品展

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

- ◆少子高齢化の時代、生涯学習の中核として地域作りの拠点である公民館の役割は大きく、地域の公民館としての任務や役割は益々大きくなるものと考えられるので、不易と流行をつま組み合わせていきたい。
- ◆公民館の運営は、地域住民の支援や協力そして何よりも信頼関係が大切である。そのため職員は常に住民目線に立って対応するように心がけている。また、各種団体との連携強化を図り地域の活性化に努めたい。
- ◆“地域の子どもは地域で育てる”という考えの基、地域の小・中学校との連携強化をさらに深めていきたい。



茶道体験

市民が活躍し輝くことができる「まち」

守谷市 守谷市民活動支援センター



もりや市民大学 ハイブリット授業



パンフレット

公民館の沿革・年表

- 平成14年 2月 守谷市民活動支援センター開設
(浄化センター内)
- 平成18年12月 中央公民館内に事務所移転
- 平成20年 4月 市民交流プラザ内に事務所移転
- 平成24年10月 もりや市民大学開校
- 平成28年 3月 NPO法人協働もりやに委託
- 令和 3年 6月 もりや市民大学ハイブリット形式で開講

左図・写真の説明等など (PRポイントなども可)

- もりや市民大学
平成24年の開校から、守谷市の「協働のまちづくりの担い手」を育成するため、様々な分野の活動に必要な知識や技能を学ぶ場を提供している。令和3年度はオンラインと対面のハイブリット形式で開講した。
- わんちゃんと一緒に読書
「命の授業講演会」・「セラピー犬『ジョン君』と一緒に本を読む」。殺処分の前日に救われた捨て犬を通して命の尊さを伝えた。犬に本を読んであげる「リードプログラム」というユニークなスタイルを実施した。



わんちゃんと一緒に読書

1. 都道府県名	茨城県	3. 公民館対象人口	70,000	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	守谷市	4. 建物設置年月日	平成20年4月	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	3台
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 () <input checked="" type="checkbox"/> その他 (NPO法人協働もりや)				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座	2,795	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動	3,075	合計 8,312人
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	42人	(パソコン等相談件数)		
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任	5人	<input type="checkbox"/> 兼任	0人	合計 7人
	(職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人)		<input checked="" type="checkbox"/> 非常勤	2人	
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援	<input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動	<input checked="" type="checkbox"/> 子ども食堂	
	<input checked="" type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画	<input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり	<input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援	<input checked="" type="checkbox"/> 障害者の学び支援	
	<input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用	<input checked="" type="checkbox"/> 防災	<input type="checkbox"/> 地域学校協働活動	<input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール	
	<input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成	<input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input checked="" type="checkbox"/> 自主夜間中学	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他 (市民大学)				
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設	<input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input checked="" type="checkbox"/> その他 (児童センター・ファミリーサポートセンター・家庭児童相談室)			
	<input type="checkbox"/> 自由記述 ()				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所	<input type="checkbox"/> 小中学校	<input checked="" type="checkbox"/> 高校	<input type="checkbox"/> 大学	
	<input type="checkbox"/> 企業	<input checked="" type="checkbox"/> NPO	<input checked="" type="checkbox"/> 各種団体	<input checked="" type="checkbox"/> 行政機関	
	<input type="checkbox"/> 図書館	<input type="checkbox"/> 博物館	<input type="checkbox"/> 青少年教育施設	<input type="checkbox"/> その他	
	()				

守谷市市民活動支援センター

OPEN 10:00~18:00

HP

<https://moriya-cac.org/>

TEL 0297-46-3370

SNS

https://www.instagram.com/moriya_shiencenter/



HP

インスタ



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 地域活動を活性化するために、既存の市民活動団体の強化と新規団体を育成することが必要である。市民に対してイベントや他の登録団体の活動の情報や交流の場を提供することで、ボランティア意識の啓発と活動の支援を行っている。令和3年度は91の団体が活動団体として登録しているが、登録団体の構成員の高齢化が課題である。
- コロナ禍で、オンラインをうまく取り入れて活動を継続している団体と、全く活動ができないため停滞または解散してしまった団体と二極化した。団体のパワーの格差が大きくなり、この差を縮めることが課題である。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【もりもりクイズ】

毎週1問ずつクイズを出題し、スタンプとシールをためて「君だけのMORIYAの地図をつくる」子どもや親子を対象としたイベント。通年継続して行うイベントとして、初年度の令和3年度は「私たちのまちを知ろう編」として、守谷市の地図を完成させた。

【楽しくかんたんオンライン講座】

新しいボランティア活動のツールとして、オンラインを取り入れることで環境の変化に順応できる活動を目的とした講座を令和2年度に引き続き開催した。令和3年度は、主催側も学べるプログラムや団体向けの講座も行い、61名が受講しコロナ禍でも行えるような活動のスキルアップに繋がった。令和4年度は「楽しくデジタル講座」を開催予定。

【はじめてのInstagram講座】

情報を発信・収集するツールの一つとしてInstagramの利用方法を学ぶことで、市民活動の情報発信を促した。大学生がボランティアで企画・運営・講師となり、高校生のサポートにより実施した。

【インクルーシブ公園】

誰もが遊べる公園（インクルーシブル公園）の誕生を目指している。昨年度は、講師に龍園あいり氏を招いて、講演会とワークショップを開催した。



もりもりクイズ



楽しくかんたんオンライン講座

3. 取組による成果や効果

【もりもりクイズ】

各児童館や図書館と連携して行い、普段センターを利用しない世代が参加した。クイズの問題は、HPでも閲覧できる仕組みをつくり市内全域での参加が実現できた。子どもたちが足を運んでくれ、館内も活気にあふれていた。

【楽しくかんたんオンライン講座】【はじめてのInstagram講座】

楽しくかんたんオンライン講座では、16回の講座で延べ160名の受講者が参加。デジタル環境の急激な変化に高齢者が取り残されるデジタル・デバイドが広がらないよう今後も続けていく。また、高校生から小学生までが教える側のボランティアとして参加してくれたことで、世代間交流が創出できた。



はじめてのInstagram講座

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

近年、福祉・環境・教育等一つの分野ではとても解決できない課題を抱えていることから、分野や世代を超えた地域全体課題解決する仕組みづくりを構築している。また、活動を行っている団体に、コロナ禍においても活動できるよう、ICTを活用した「新しい生活様式」を取り入れた活動の手法を提唱し、ボランティア活動が活発になっている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

守谷市民活動支援センターは、市民と行政をつないでいる中間支援組織である。この役割を生かし、今後は近隣の市町村などとも連携し「守谷のファンを増やす（関係人口を増やす）」ための施策を考えたい。また、コロナ禍でも行えるイベントや講座を提供することで、市民がいつまでも楽しんで生きがいを持てるような暮らしのお手伝いをしたい。



市民活動支援センター

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

急速に進む高齢化と社会のデジタル化に伴い、高齢者デジタル・デバイド問題が起こっている。今後ますますデジタル化は進み格差は広がることが予想される。当センターでは、いち早くオンライン講座やデジタル講座を開催したが受講者が活用するまでには至らないため、次の仕掛けとしてはスマートフォンを活用して料理のレシピや調理法を学べるクッキング教室や歩数計機能と連動したウォーキングや体操教室など、ICTを活用した体験型イベントを行ってきたい。



高齢者向けデジタル講座

地域の力で安心な子育てができる居場所づくり

高崎市佐野公民館



16ミリ映写機の光を利用して影絵を作ろう！



離乳食やおやつ選び方に悩むあなたを応援します！

公民館の沿革・年表

- ・昭和44年 高崎市佐野公民館開設（木造）
- ・昭和63年 施設改築（鉄筋コンクリート）
- ・平成6年 図書室増築
- ・平成10年 事務室増築
- ・平成18年 図書ボランティアの会が高崎市公民館
図書ボランティアグループ表彰を受賞
- ・平成25年 優良公民館群馬県教育委員会表彰受賞

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

【さの公民館であそびや】（左上）

NPO法人と企画段階から連携した事業で、**子どもの体験活動の充実をとした居場所づくり**を行っている。毎回様々な活動を行っており、写真は16ミリ映画を鑑賞したのち、映写機の光を利用して一人ひとりが影絵を作って遊んでいる様子。

【知っておきたい！乳幼児期の食事とおやつのお話】（左下）

子育てサロンと連携し、地域の子育て支援に継続して取り組んでいる。写真は保健師から離乳食や幼児食の内容や食事の進め方、おやつ選び方などの話を聞いている様子。

1. 都道府県名	群馬県	3. 公民館対象人口	16095人	5. 来館者のインターネット接続環境	無し
2. 市区町村名	高崎市	4. 建物設置年月日	昭和44年4月1日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	0台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者（ <input type="checkbox"/> 地区まちづくり協議会） <input type="checkbox"/> その他（ <input type="checkbox"/> ）				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 549人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 8126人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等 <input checked="" type="checkbox"/> その他 1153人（図書貸出し795人、佐野小学校児童社会科見学150人他）				合計 9,828人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 1人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 2人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 （職員のうち社会教育主事有資格者の数 1人 職員のうち社会教育士の数 0人） 合計 3人				
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他（ <input type="checkbox"/> ）				
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> その他（高崎市佐野郷公民館運営推進委員会）				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他（ <input type="checkbox"/> ）				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input type="checkbox"/> その他（ <input type="checkbox"/> ） <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述（コンクリート打ち放し構造で、館内の吹抜の面積が広く開放感がある。）				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等（団体名記述）	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input checked="" type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 佐野小学校、NPO法人高崎子ども劇場、区長会、地域づくり活動協議会、体育振興会、町内公民館長会、佐野地区協議体、高崎市保健所				

高崎市佐野公民館

OPEN 9:00~21:00

H P <https://www.city.takasaki.gunma.jp/docs/2013122500202/>

TEL 027-322-8507

SNS





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 若年層家族の転入が多い地域で、地域での交流のきっかけも少なく土地勘も無い中で子育てに不安や悩みをもつ親も多い。
- 子どもや親子、あるいは子を持つ親が安心して気軽に集まり活動、交流できる居場所が地域に必要とされている。コロナ禍により地域住民の交流が減少しており、今まで以上に拠り所としての公民館の役割が高まっている。
- 公民館の対象地域が小学校区で住民との距離が近いため、地域人材の情報を多く集めることができる。この強みを活かして地域人材と連携することで、公民館が安心して集える場となるよう取り組んでいる。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【さの公民館であそびや（子どもの体験活動の充実）】

子どもの居場所づくりに取り組むNPO法人高崎子ども劇場に佐野校区在住スタッフがいることから、企画立案から協力し子どもたちの体験活動を行っている。空き缶鉄砲作り、コマ回しやドミノなど昔ながらの遊びや地域散策など子どもたちと大人と一緒に活動している。

【こころとカラダの軸を育むキッズヨガ（子どもの体験活動の充実）】

子どもの心身ともに健康な体づくりを目的に子ども向けのヨガを行った。講師となる地域人材の発掘により実現し、講師の指導がよく親育てにもつながった。

【自然と笑顔になるおやこじかん（親子の居場所づくり）】

こちらもNPO法人高崎子ども劇場と連携し、親子の居場所づくりを行っている。手遊びや段ボールのトンネルくぐり、絵本の読み聞かせなど様々な活動をしているが、あえてゆる〜く過ごせる時間づくりを心掛けていることが好評で、地域での親子の交流のきっかけとなっている。

【知っておきたい！乳幼児期の食事とおやつのお話（子育て支援）】

民生委員児童委員協議会が運営する佐野地区子育てサロンと連携し、離乳食の進め方やおやつを選び方について学んだ。子育てサロンと連携した事業を継続して行っており、転入して間もない保護者の参加も多く、子育ての悩みを相談できる場にもなっている。



ブロックの上で片足で立ってみよう！
（こころとカラダの軸を育むキッズヨガ）



ダンボールのトンネルをくぐろう！
（自然と笑顔になるおやこじかん）

3. 取組による成果や効果

【特徴的な取組・活動による成果】

- NPO法人が有する豊富なノウハウを活用することができ、現在ではスタッフが中心になり公民館サークル活動として定期的に「あそびや」を行っている。
- 取り組んできた事業をととして、子育て中の親にとって公民館が、行けば何か情報がある、話を聞いてもらえる、誰かに知り合えるかもしれない場所になっている。

【これまでの取組全体による成果・効果】

- 地域人材の活用が、住民の活躍の機会にもなり、活動内容の向上にもつながっている。また、事業をととしてサークル化するなど、新たな自立した活動につながっている。
- 地域人材が地域住民を受け入れ、地域住民をつなぐことで、気軽に行ける公民館という雰囲気づくりができ、公民館が地域住民の安心安全な居場所となっている。



サークル「佐野あそびや」

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 区長会や地域の団体、小学校長らで構成する公民館運営推進委員会を年2回開催し、事業実施内容の検証を行い次年度事業計画に活かすことでPDCAサイクルを機能させている。
- 事業実施後のアンケートのほか参加者に直接ヒアリングし率直な意見を聴取している。
- 公民館利用者との普段からの積極的な情報交換により運営事業方針の見直しや改善を行っている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

公民館は子どもや親子をはじめ地域住民が安心して集える居場所である必要があり、コロナ禍を経験してその思いは一層強くなった。この環境をより良くすることを常に意識し公民館運営に取り組んでいる。そのために、地域住民との積極的なコミュニケーションを行い、地域人材の情報を常に収集し、地域の人を活かして地域課題解決のための事業を行うことを大切にしている。



外観が特徴的な佐野公民館

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

公民館では、誰もが単なるサービスの受益者ではなく、いきいきとした主人公になれる。また、公民館はすべて住民にとって安心安全な居場所である。地域住民にそう思ってもらえるよう、地域人材との連携を広げることが重視しながらPDCAサイクルをより機能させていく。そして住民が主体的に活動し、安心して暮らすことができる地域のための公民館としての価値を高めていきたい。



公民館では誰もが主人公

人とふれあい、楽しく学ぶ公民館

太田市休泊公民館



外観



味噌づくり教室

公民館の沿革

休泊公民館が設置されている休泊行政センターは、「小さな市役所で大きなサービス」をキャッチフレーズとする地域に密着した施設である。生涯学習の場としての公民館機能、戸籍・住民票、税業務及び陳情・要望の受付等の行政窓口機能、入浴施設(令和4年3月末廃止)、ロビー、フリースペースを提供するふれあい機能など、総合性を持たせた地域のふれあいセンターとして建設が計画され、直接市民の意見を聞くため、「まちづくり委員会」を設置して要望の多くを採入れ、コンペでもそのコンセプトを重視するなど住民参加に重点が置かれた。

建物は平成10年9月に竣工し、太田市総合ふれあいセンターの名称でスタートした。平成12年4月に太田市休泊行政センターに名称を変更した。住民一人ひとりが主役となり生涯学習を実践する地域の拠点として住民に長年親し

左図・写真の説明等

●大好評の市民教室「味噌づくり教室」の様様

市民教室では、料理、手芸、運動の人気が高いが、初心者を対象とした「味噌づくり教室」は人気講座の一つである。参加者は申込み数が定員を大幅に上回ったため、抽選で決定し、男女8名が参加した。

参加者の大半が、初めての体験のため、はじめは、不安そうに取り組んだり、なかなか手が出せない様子だったが、慣れてくるととも楽しそうに取り組んでいた。教室後に実施した参加者アンケートの結果は、全員が「満足」の回答で、「楽しかった」「出来上がりが楽しみだ」「また参加したい」などの意見をいただいた。こうじ室がある公民館は市内で他に1館のみであり、休泊公民館ならではの講座である。

1. 都道府県名	群馬県	3. 公民館対象人口	12307人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	太田市	4. 建物設置年月日	平成10年9月30日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 (○○地区まちづくり協議会) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (太田市)				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 540人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 6078人 (連絡所業務等)	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 14248人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等	合計 20,866人		
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 兼任 6人 <input type="checkbox"/> 非常勤 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人)	ボランティヤ協力者 0人 合計 6人			
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> その他 ()	<input type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 自主夜間中学	
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 (<input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (行政センター) <input type="checkbox"/> 自由記述 ()				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input checked="" type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 (休泊小学校、休泊中学校、大泉高校、休泊地区社会福祉協議会、休泊地区青少年健全育成推進会議)				

太田市休泊公民館

OPEN 8:30~22:00

H P <http://www.city.ota.gunma.jp>

T E L 0276-49-0201

SNS http://twitter.com/OtaCity_PR



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 少子高齢化、地域のつながりの希薄化等様々な問題が山積みする中、一人ひとりが健康で有意義な生活を送れるよう、学びと活動の場を提供することが公民館の役割と考える。
- 市民教室や高齢者学級では、子どもから高齢者まで幅広い年齢層の住民に学習機会を提供し、生涯学習を推進するとともに、地域コミュニティの形成および地域活性化を図る。
- 子ども体験講座では、地域の未来を担う子どもたちの育成のため、地域づくりの推進のために、地域と学校が連携・協働する足がかりとする。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

○講座の開催

【市民教室】

市民の方に生涯学習の喜びや楽しさを広げ高める機会を提供する。

実施後のアンケート結果を検証し、要望を取り入れて翌年度の計画を立案している。

令和3年度はコロナウイルス感染症拡大防止のため感染対策を徹底して実施した。

☆令和3年度実績

- ・年間11講座（運動、料理、手芸等） 延べ31回、540人参加
- ・他にはない「こじ室」があり、初心者を対象にした「味噌づくり教室」も人気講座の一つである。

【高齢者学級（休泊ふれあい大学）】

健康で有意義な生活を送れるよう、学習の機会を提供する。

実施後のアンケート結果を検証し、要望を取り入れて翌年度の計画を立案している。

☆令和元年度実績（令和3年度はコロナウイルス感染症拡大防止のため中止）

- ・年間11回開催（講義、軽スポーツ、合唱、館外研修等） 延べ633人参加

【子ども体験講座】

地域と学校の連携・協働の取り組み

☆令和元年度実績（令和3年度はコロナウイルス感染症拡大防止のため中止）

- ・土曜日に休泊小学校で5つの講座（工作2・吹き矢・フラダンス・お菓子作り）を開講
- ・講師は公民館登録団体、小学生85名が参加



市民教室（大人リトミック）



高齢者学級（交通安全教室）

3. 取組による成果や効果

【市民教室】

- ・主に初心者を対象としており、体験によりサークル化へ繋げ、生涯学習の推進を図ることができた。
- ・参加者同士の交流をととして、親睦を深めることができた。

【高齢者学級（ふれあい大学）】

- ・11回の講座により、健康で有意義な生活を送り、生き甲斐を持った生活に繋げることができた。
- ・高齢者同士の交流の場となり、生活に密着した情報交換をすることができた。
- ・参加者が主体的に学び、つながることでコミュニティの活性化を創出できた。

【子ども体験講座】

- ・登録団体のメンバーが子どもたちに教える活動を通して、やりがいや生きがいを感じる事ができた。



市民教室（料理講座）

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 実施後のアンケート結果を検証し、市民ニーズを取り入れ翌年度の計画立案をする。
- 館内会議では、講座の様子や参加者の意見等を客観的に評価し、検証改善を行いPDCAサイクルを実践している。
- 太田市行政センター主事等会議で、各行政センターの実施事業等の情報交換を行い、翌年度の参考にする。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

- ・地域住民の学びの場として生涯学習の拠点となるとともに、地域住民が力を合わせて地域をつくる拠点となるよう手助けをする。
- ・関係団体と連携協力し、地域コミュニティの活性化に取り組む。
- ・利用者が安心・安全に利用できるよう常時施設の点検整備を行い、修繕等に早急に対応している。



生涯学習（救急救命講座）

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

- ・子どもから高齢者まで幅広い世代が主体的に学び、仲間づくりの場を継続して提供していく。
- ・地域の未来、子供たちの未来のために、公民館区域内に一つの小学校、一つの中学校がある、休泊という地域性を生かして、地域全体で子供たちを育てられるよう、地域と学校の連携・協働の推進拠点を目指していきたい。



高齢者学級（消費生活講座）



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 七里公民館は市街地と見沼たんぼが広がり、都市的な生活環境と自然の魅力が共存している地区にあり、その特色を生かして、地域の写真の展示と映像を上映する事業を行っている。また、公民館まつりの際は地域内の障害者福祉施設利用者の作品を展示するなど、障害のある方と地域とがつながることを応援している。
- 地域住民からは、高齢者向けの体操系講座を多く実施して欲しいといった声が多くあり、介護予防事業の中で独自の体操講座を企画・実施しているほか、高齢者を対象としたラジオ体操を毎朝実施している。また、公民館活動に関して公民館利用者から、自身の経験と知識を生かした有意義なアドバイスをいただくことがある。
- 公民館として地域住民のニーズに応える中で、これまでの学習や学び直しによって身に付けた知識・技能や経験を地域社会での活動に生かせる場、「学び」と「活動」の循環の場を提供できないかと考えた。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

●さいたま市公民館では、新たな学びの拠点として、新しい時代の公民館のあり方と中長期的な目標を明確にし、それを住民と共有するため、令和3年3月に「さいたま市公民館ビジョン」を策定した。

●【講師発掘講座】「私、こんな講座をできますけど」

地域の中に有為な人材が埋もれているのではないかと考え、公民館事業・講座の「講師」として活躍、デビューできる人材を発掘しようと企画したものである。また、時には受動的な立場から脱却し積極的に『発表』して、自らの問題意識を深化させることは、生涯学習の観点から大切なことだと考えた。講座名は「肩ひじ張らない」をコンセプトに固くないものとした。初めての試みであったことから、講師希望者の定員は6名程度とし、一人当たりの模擬講座時間を5～10分程度とした。結果的に講師としての応募は3名、加えて公民館職員4名もトライアルで参加した。

「既に身に付けたことを活かしたい」という意欲をすくいあげることに主眼を据え、講師と評価者がそれぞれ入れ替わり、役割交替・相互評価を行う形式とした。また、模擬講座に対する一般の方の評価も参考にしようと考え、観覧希望者も募集した。

結果として模擬講座の内容は良好で、一般観覧者からの評価も高かった。

講師発掘講座
「私、こんな講座をできますけど」

文学・歴史・体操・演奏など、あなたの知識・技能を生かし、地域の皆さんに伝えてみませんか？
プレゼンテーションの観覧希望者も募集します。

日時 令和4年1月27日（木）
10時～11時30分

会場 七里公民館

講師希望者	観覧希望者
募集人数：6名程度 申込み：12/23(木)～1/6(木) (12/29(水)～1/3(月)を除く)	募集人数：30名程度 申込み：12/23(木)～ (12/29(水)～1/3(月)を除く)
七里公民館での講座企画を前に、当日実際に5～10分程度の講師プレゼンテーションをしていただきます。	多様多様（予定）の講師プレゼンテーションを聞くことができます。終了後はアンケートにご協力ください。

講師希望者・観覧希望者とも、まずは七里公民館窓口または電話でお申込みください。講師希望者は、申込の申込書にプレゼン内容を記入していただきます。
申込み・お問い合わせ先：七里公民館 電話 666-4721

講座チラシ

3. 取組による成果や効果

- 当該講座に応募した3名とも翌年度の講座講師としての起用が決定し、地域人材の発掘と「学び」と「活動」の循環の場の提供につながった。
- 既存の仕組みにエントリーしていない、意欲をもつ人材が地域にいることを確認できた。
- 意欲はあるけれど、講師を務めるには自信がないという人を聴講・評価者役として受け入れることで、「自分にもできるかも」という背中を押すきっかけづくりともなった。
- 公民館職員も講師役を務めることで、講座企画・講師選定の際の留意・着眼点を広げ深めることができ、さらに職員自らが講師を務める可能性も広げることができた。



公民館職員も講師役に挑戦

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 講座参加者へのアンケートや講師等事業関係者とのコミュニケーションの中で、感想や意見を伺う。
- 七里公民館連絡会や七里公民館利用団体代表者会議において、地域の方や利用団体からの意見を集約している。
- 公民館職員同士で情報共有や話し合いを行い、課題の発見・解決を図っている。また、他館の取組も参考にするなどして公民館運営に活かしている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

当館のキャッチフレーズ「地域のリビングルーム」は、地域の人々が気軽につどい、学びを通じてつながりを深める場、地域のつながりの拠点となることを目指したものである。これまで積み重ねてきた地域諸団体・関係機関・企業等、多様な主体との連携を一層広げ深め、やすらぎ憩う場として課題も解決できる地域のリビングルームとなっていきたい。



親子サロン

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

- 子育て世代・ファミリー層・学生・若者を取り組むために、事業内容や開催日時についてニーズに合ったものとなるよう、これからも検討していく。
- 異世代での公民館サークル活動を企画した事業活動を心掛け、結果として「地域力の向上」につながるような運営を心掛けていきたい。



夏休み子ども公民館「マイ著作

ふらっと立ち寄れる、アットホームな公民館

川口市芝富士公民館



わんぱく卓球

公民館の沿革・年表

- 昭和45年 竣工・開館
- 昭和46年 第1回芝富士公民館地区文化祭開催
- 昭和48年 料理実習室完成
- 昭和54年 「川口市食生活改善推進員協会」発足
- 平成13年 「卓同好会」発足
- 令和元年 ホール空調・非常用照明器具修繕
- 令和2年 事務室窓口拡張
- 令和3年 オンライン講座（動画配信）スタート

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

芝富士公民館は高齢者から子どもまで、幅広い年齢層をターゲットにした事業を実施している。

その一つに「わんぱく卓球」がある。以前は小学生と公民館利用団体のみの参加であったが、広報をして保護者も参加するようになりそれにより、子ども、保護者、地域の人達が交流を深められる機会となり、地域の活性化につなげることができた。

また、公民館に興味を持ってもらえるよう、公民館だよりをリニューアルしたり、公民館になかなか来られない働き世代や子育て世代も講座を受講できるよう、オンライン講座（動画配信）を実施したりすることで、地域住民の学びをサポートしている。

1. 都道府県名	埼玉県	3. 公民館対象人口	5436人	5. 来館者のインターネット接続環境	無し
2. 市区町村名	川口市	4. 建物設置年月日	昭和45年10月	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	0台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者（ <input type="checkbox"/> 地区まちづくり協議会） <input type="checkbox"/> その他（ ）				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 1271人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 9406人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等 <input checked="" type="checkbox"/> その他 93人 （運営審議会、青少年育成協議会総会、献血会等）				合計 10,770人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 4人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input type="checkbox"/> 非常勤 0人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 （職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人） 合計 4人				
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他（ ）				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input type="checkbox"/> その他（ ） <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述（対象地域が1つの町会のみであり、地域に密着した公民館です。）				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等（団体名記述）	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 川口市立芝富士小学校、芝富士町会、公民館定期利用団体（卓同好会、川口市食生活改善推進員協議会等）、地区青少年育成協議会、川口市役所子育て支援課、地域包括支援センター				

川口市芝富士公民館

OPEN 9:00~21:00 (祝・日17:00)

H P

4010/020/8/21/index.html

TEL 048-265-6211

SNS

YouTube 川口市生涯学習課





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

芝富士公民館地区は、住民の約30%が65歳以上の高齢者である。そのため、高齢者が公民館の主な利用層となっている。また、日々多忙な働き世代や若い世代は公民館に来館しにくい傾向がある。これらのことから、より幅広い世代へのアプローチが課題となっていた。

そこで、若い世代や働き世代にも公民館に来館し、利用してもらえるように、「わんぱく卓球」や「オンライン講座」を実施するとともに、地域や公民館の様子、事業風景等を公民館だよりに分かりやすく掲載し、来館せずとも地域や公民館の様子が伝わるようにした。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【わんぱく卓球】

公民館の利用団体がボランティアで講師をしており、卓球を通じて友達・親子・地域の人達の交流を深めることを目的としている。

また、隣接している川口市立芝富士小学校では放課後子供教室が未設置であるが、子ども達の健全で安全な「放課後の居場所」としての機能も担っている。

【健康体操教室】

65歳以上の高齢者が対象で、参加者の筋力アップと健康を目的とした事業。

芝富士公民館地区は高齢者の割合が大きいので、高齢者対象の事業も充実させている。毎年実施している事業だが、人気も高く、多くの高齢者が参加している事業。

【オンライン講座の導入】

コロナ禍の影響から対面講座が困難であるため、来館せずとも学習の機会を提供しようということから、4つのオンライン講座（動画視聴型）を実施した。

オンライン講座は、視聴される方の生活スタイルにあわせ時間を選ばず受講できるメリットがあるので、働き世代や子育て世代等の普段公民館に来館することが難しい方にも学びを提供することができた。

【芝富士公民館だよりのリニューアル】

「芝富士公民館だより」は毎月発行し、全戸配布している。少しでも多くの地域の方々に来館していただくため、コロナで来館できないのであれば、公民館だよりを使って「こちらから勝手に皆さんのところに行こうではないか！」の精神でリニューアル発行した。

□リニューアル内容…見せ方の工夫（写真や表を多用）、公民館独自の情報発信（ゴーヤ成長レポート等を毎月継続的に掲載し、次号のご愛読に繋げる）、地域住民の方々にアンケート実施（当該公民館の認知度等を把握するため）、二次元コードの導入（色彩豊かな公民館だよりをカラーで見てもらうため。また、紙ベースからの脱却を模索し環境に配慮）etc.



健康体操教室



初めてのオンライン講座



芝富士公民館だよりBefore→After

3. 取組による成果や効果

わんぱく卓球やオンライン講座により、今まで公民館に来館したことのない若い世代の層にアプローチすることができた。

わんぱく卓球では、子どもの送迎で公民館に立ち寄るだけでなく保護者も一緒に卓球をすることで、幅広い地域住民とつながることができた。子どもにとっても、友達との交流や多世代交流を経験することができ、学びや成長を支える良い機会を提供できた。

また、講座の講師を利用団体に担っていただくことで、地域住民の交流が深まり、より一層地域づくりが活発になっていきかけになった。

公民館だよりのリニューアルに対する地域の皆さまからの評価には、定期利用団体のクラブ員からの「見やすくなった。」や「ゴーヤの成長を楽しみにしています。」などのアクションがあった。地域住民同士がつながるだけではなく、職員も地域住民とつながりを深められたことで、今後の公民館活動や地域づくりの更なる充実に向けた期待が高まっている。

また、公民館だよりにて、「公民館についてのアンケート」を実施し、公民館の講座や、取り組み等地域住民のニーズを知ることができた。今後に生かしていきたい。



アンケート結果

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 参加者にアンケートを実施し、講座自体の評価、多様な意見を踏まえながら、検証・改善を行っている。
- オンライン講座についても、オンラインにてアンケートを実施し、検証・改善を行っている。
- 公民館運営審議会にて、事業の効果や成果の検証や、地域課題、住民のニーズを踏まえながら事業計画をしている。
- ブロック会議や主事会等を通じて他の公民館と情報交換などを実施し、事業計画や運営に役立てている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

「You can't inspire people if you are going to be uninspiring」＝「自分が感動せずして人を感動させることは出来ない。」とアメリカの経済学者：ロバート・B・ライシュの名言があり、当該公民館も事業等を企画する際は、自身も楽しみ、地域の方に胸張ってお勧めできる内容の事業を企画することが大事であると考えます。

生涯学習の拠点としての事業展開はもちろん、人と人の繋がりを大切にしたい「コミュニティの拠点」としても、地域の皆さまに愛される公民館及び職員でありたいと願い、来館された方が気持ちよく利用し笑顔で帰っていただけるよう、日々の窓口・電話対応などの接遇に力を入れている。

また、右記の写真のように、狭かった窓口を拡張したことで、利用者の方と職員が窓口カウンター越しにコミュニケーションをとる機会がふえた。



公民館施設の改善

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

コロナ禍だけの苦肉の策ではなく、今後も、芝富士公民館は地域の皆さまだけでなく、多くの方々に芝富士公民館を知っていただくための情報発信のツールとして、「電子版の公民館だより」や「オンライン講座」を継続していきたい。

また、コロナ終息後は、定期利用団体などの限られた利用者だけではなく、「ふらっと立ち寄れる、アットホームな公民館」を目指したいと考えている。きっかけは様々であるが、立ち寄った際に公民館を思う存分PRできるような掲示物や参加しやすくなる様なクラブ紹介などの情報を紙ベース並びに二次元コード等を用いて情報発信できればと検討している。まずは、公民館だよりで公民館に対する「気づき」を与え、来館していただくという作戦は、今後も継続していこうと思う。



芝富士公民館

中学校合同体育祭 みんなで地域を元気に

深谷市明戸公民館



選手宣誓する自治会代表と中学校代表



全力で駆け抜ける分館対抗リレー

公民館の沿革・年表

- ・1954年 7月 明戸公民館 創設
- ・1956年11月 第1回「明戸地区市民体育祭」の開催
- ・1994年 3月 明戸公民館体育室の開設
- ・2008年 9月 第53回「明戸地区市民体育祭」から明戸中学校と合同開催
- ・2008年12月 明戸生涯学習センター・明戸公民館の新設

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

明戸地区市民体育祭は、明戸公民館創設後、1956年（昭和31年）に第1回目が開催され、66年という長い歴史がある。明戸中学校との合同体育祭は、中学校からの申し出により2008年（平成20年）から始まる。この合同体育祭は、中学生を含む幅広い世代の交流を含め、地域の一体感を醸成することにより、明戸地区の人々に地域を支える一員としての自覚を促し、郷土愛が一層育まれることを期待して実施している。

1. 都道府県名	埼玉県	3. 公民館対象人口	4285人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	深谷市	4. 建物設置年月日	平成19年12月27日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	0台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 (<input type="checkbox"/> 地区まちづくり協議会) <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 107人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 18389人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 29人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 3143人 ()			合計	21,668人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 3人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input type="checkbox"/> 非常勤 1人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人)			合計	4人
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input checked="" type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他 ()				
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input checked="" type="checkbox"/> 生涯学習センター <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> 自由記述 ()				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (明戸保育園、明戸小学校、明戸中学校、明戸公民館運営審議会、自治会連合会明戸支会、明戸地区社会福祉協議会、明戸地区青少年健全育成会、明戸婦人会)				

深谷市明戸公民館

OPEN 8時30分～22時00分 H P
TEL 048-571-0872 SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- ・当初、明戸地区市民体育祭は、中学校と合同開催でなく地域の体育祭として単独で行っていた。
- ・明戸地区は、いわゆる農村エリアで少子高齢化が進んでいる。そのため、地区市民体育祭に必要な選手や参加者が減少しており、今後どのようにイベントを継続していくか、また盛り上げていくかが課題であった。そのような中、明戸中学校から「中学校の体育祭と地域の体育祭と一緒に開催したい」という申し出がありました。公民館としても、地域との交流が深まること、参加者人数が増えることでイベント自体が盛り上がるという理由から、中学校と合同で体育祭を開催している。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

・深谷市の地区市民体育祭では、主に地域の方が参加し、その関係者が応援するというスタイルである。しかし、明戸地区の市民体育祭は、深谷市で唯一、明戸中学校の体育祭と合同で行っている。合同開催により地域のとの交流を深めるだけでなく、生徒たちにとっても「自分も地域の一員として参加している」という自覚や郷土愛につながることを期待している。今後も、引き続き、中学校と合同で開催できるよう連携を図っていく予定である。

○体育祭準備等

・体育祭開催にあたっては、準備会議1回、全体会議1回、計2回開催している。会議では、大会実施要領、役員分担内容、当日プログラム等について協議している。中学校の生徒の役割については、事前に打ち合わせ会議で決定している（国旗掲揚、準備体操、選手宣誓等）。

○運営の工夫など

- ・自治会と中学校の合同開催の強みを生かすために、パンくい競争やグラウンドゴルフリレーなど、未就学児や高齢者に配慮した種目をプログラムに盛り込んでいる。
- ・生徒とのふれあいや交流を深めるため、中学生と地域住民と一緒に参加する「ラグビーボール手渡しリレー」を取り入れている。
- ・出場選手確保の負担軽減のため、ふるさと選手枠を導入している（地区に実家があれば、地区外でも出場可）。
- ・スポーツ推進員や地域防犯推進員、小中学校PTAに参加を依頼し、運営ボランティアとしての養成に努めている。
- ・大会終了後、関係者との反省会、公民館運営審議会を開催し、問題点や改善点を伺い、地区住民のニーズを翌年度に反映できるよう、競技種目のルール改正や運営方法を見直しをしている。



体育祭合同会議



ラグビーボール手渡しリレー

3. 取組による成果や効果

- ・普段出会うことがない人たちと交流することで、新しい出会いや発見が生まれる。
- ・競技練習や本番を通して、**自治会の絆や連帯感が醸成**される。
- ・中学校の生徒と地域住民との世代間交流が生まれる。
- ・生徒の親が体育祭に行くことにより、**自治会競技の選手集めが楽**になる。また、体育祭全体として**参加人数が増える**。
- ・生徒が大人と一緒に体育祭に参加することで、「自分も自分も地域の一員として参加している」、「明戸地区は心の通った温かい地域」という**自覚や郷土愛**につながる。



出場選手たちの記念撮影

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- ・体育祭終了後、自治会長、自治会体育部長、公民館体育部員等が集まり反省会を開催し、種目競技のルール改正や運営方法などの問題点や改善点について意見をいただいている。
- ・学識者や学校、自治会関係者等15名で構成する公民館運営審議会（年5回）でも、取組の検証や問題点等を伺い、次年度に出来るだけ反映する努めている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

・地区住民の地域活動や住環境等の要望を支援するなど、公民館は、自治会や関係団体等をつなぐサポート役と考えている。地域の方々と一緒に考え、問題点を改善していくなど、**市民が主体とした活動**できる場の提供が重要と考える。



明戸地区芸能祭

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

今後人口減少が進行する中、今まで行ってきた事業を全て実施することが困難になっているため、事業のスクラップ・ビルドについて検討していきたい。また、未就学児から高齢者が誰でも参加できる事業について、自治会や関係団体の方と一緒に考えていきたい。



時代とともに変化する公民館を目指して

船橋市東部公民館



東部公民館外観



オンライン事業の様子

公民館の沿革・年表

- ・昭和28年 船橋市公民館前原分館として設立
- ・昭和35年 東部公民館に改称
- ・昭和52年 現在地に新築開館
- ・平成29年 優良公民館として文部科学大臣賞受賞
- ・令和4年 第4回全国公民館インターネット活用コンクール金賞受賞

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

写真上段は東部公民館の外観。JR津田沼駅から徒歩3分的好立地であり、市内26公民館で最も利用率が高く、多くの市民に利用されている。

写真下段は令和2年度開催「ニュージーランドで過ごす夏のクリスマス」の様子。参加方法を公民館またはオンラインの選択制にしたことで、20代～80代の幅広い世代で70名（公民館20名、オンライン50名）の参加があった。オンライン参加者からは「旅行に行けないコロナ禍で、現地のガイドの方に案内してもらえてとても楽しいひと時だった」など高評価だった。

1. 都道府県名	千葉県	3. 公民館対象人口	46,331人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	船橋市	4. 建物設置年月日	昭和52年	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	100台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 (〇〇地区まちづくり協議会) <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 181人 <input type="checkbox"/> その他 0人 ()	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 54,835人	<input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 1,757人	合計	56,773人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 6人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 1人)	<input type="checkbox"/> 兼任 0人	<input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 3人 (職員のうち社会教育士の数 0人)	<input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人	合計 9人
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> その他 ()	<input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 自主夜間中学	
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input type="checkbox"/> その他 (連絡所)	<input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (JR津田沼駅から徒歩3分という交通至便な商業地の一角に立地している。)			
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 図書館	<input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> 博物館	<input type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設	<input type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 前原小学校、中野木小学校、二宮小学校、前原地区社会福祉協議会、前原地区スポーツ推進委員会、社会教育課、青少年課、前原児童ホーム、船橋国際交流協会、ソフトバンク(株) 他

船橋市東部公民館

OPEN 9:00~21:30

TEL 047-477-7171

HP https://www.city.funabashi.lg.jp/shisetsu/toshokankominkan/0002/0005_0001/p011024.html

SNS <https://m.facebook.com/funabashi.kominkan26>





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- ①新型コロナウイルス感染拡大防止のため、休館が続いたことから、「**新しい生活様式**」としてオンラインでの繋がりが求められた。
- ②公民館の利用率が減少傾向であり、かつ、利用者は60歳以上が主流であることから、**新たな利用者層の開拓**が必要である。
- ③スマートフォン等の普及により、インターネット利用率が向上しているが、一方でそのような**デジタル機器が使用できない人がいる**といった「**デジタルデバインド**」の問題が生じている。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【オンライン事業（ICTの活用）】

上記①、②の課題から、自宅からでも参加ができる**オンラインツールを活用した事業**を実施。令和2年度に「ニュージーランドで過ごす夏のクリスマス」、「今日から私もユーチューバー」。令和3年度に「仕事もプライベートも話し方で変わろう」を開催した。

【公民館でスマホ・タブレットの使い方を支援（高齢者の学び支援）】

上記③の課題から、「デジタルデバインド（ICTを使いこなせる人とそうでない人の格差）を解消していくことで、市民がICTの恩恵を享受できるようにする」ことを目的に、スマートフォンやタブレットなどの使用方法を学ぶ「**デジタルデバインド対策事業**」や、公民館に来館した市民からのスマートフォンに関する“ちょっとした質問”を公民館職員が受け付ける「**スマホコンシェルジュサービス**」を令和3年度より市内公民館で開始。

【船橋市公民館Facebookの運用開始（ICTの活用）】

公民館でFacebookを活用し、写真や動画を利用して公民館の楽しさを常時PRすることで、「**既存の利用者により公民館を身近に感じてもらう**」ことやFacebookの利用者層である30代～50代に事業を周知することで「**新規の利用者の獲得**」を目指すことを目的に令和3年度より運用開始した。

【公民館HPの変更やオンライン申請システムの活用（ICTの活用）】

公民館のトップページにタブを作成し、知りたい情報をすぐに見つけられるよう工夫を行った。また、デジタル世代への利用促進のため、**オンライン上で事業の申し込みができるシステムを活用**。



オンライン事業の募集チラシ



東部公民館ホームページ

3. 取組による成果や効果

【オンライン事業】

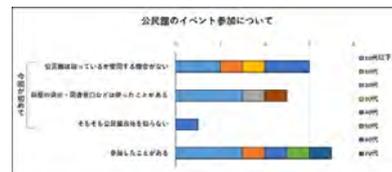
- 新しい利用者層の開拓 ●コロナ禍での「**新しい生活様式**」に適用した**事業の立案**
- 社会人や子育て世代など「オンラインだから参加できる」といった参加者が多く、コロナ禍での「非接触」や「非対面」は、公民館にとって**新たなニーズに気づききっかけ**となった。

【公民館でスマホ・タブレットの使い方を支援】

- デジタルデバインドの解消 ●公民館利用したことがない方の利用促進

【船橋市公民館Facebook、公民館HPの変更やオンライン申請システムの活用】

- 新しい利用者層の開拓 ●**HPアクセス数の増加** ●デジタル世代に向けた仕組み作り



オンライン事業参加者内訳（新規開拓）

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 事業参加者向けのアンケートを取ることで、ニーズの把握を行い、開催方法や内容を検討する。
- 令和3年度インターネット使用に関するアンケートにて「**端末・機器は持っているが使い方がわからない**」が26.1%、「**利用したいが、使い方が分からず、端末・機器の購入に踏み切れない**」が23%であった。今後の割合を確認するために数年後に再度アンケートを行う。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

時代とともに変化する地域の課題や実情に合わせて、地域の方々にとっての公民館の価値や有り方を模索し、**時代に取り残されぬよう常に新たな公民館を目指していく**。また、利用者視点での運営を心掛け、どうすればより公民館が利用したくなるかを常に意識し、既存のやり方にとらわれることなく、講座の内容やターゲット層に合わせ、最適な学びの機会をつくる。

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

地域の拠点である公民館を幅広い世代に利用してもらい、公民館が**地域の繋がりの場**や**主体的に学習する場**になることを目指す。そのために、新たな利用者層のニーズに合う事業を展開することや、事業の周知方法として、公民館を普段利用しない方に向けたPR方法を検討する。

歴史・文化・芸術の集う地域の拠点を目指して

一宮町中央公民館



公民館2階歴史資料展示



公民館1階ロビーの展示ス

公民館の沿革・年表

- ・昭和38年 文部省委嘱成人学校中に「一宮町成人学校」の記載
- ・昭和48年 一宮町中央公民館開館
- ・昭和49年 同館にて第26回千葉県公民館研究大会開催
- ・平成26年 教育委員会事務局が同館より移転
- ・令和3年 同館2階ロビーに「歴史資料展示室」開室
歴史講座「崇文館歴史講座」開講

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

- 歴史資料展示室の様子
令和3年9月開催の企画展の様子。戦前の漫画家・北沢楽天を特集。展示室では約3ヶ月ごとに資料保存や来館者を飽きさせないために展示替えをし、年4回の企画展を開催。
- 公民館1階ロビーの展示
コロナ禍で文化祭が中止となり、発表の場が限られたことをうけ、令和3年10月より、1階ロビーで展示を実施。学校や文化協会と連携し、子どもたちの作品を入れ替わりで展示した。

1. 都道府県名	千葉県	3. 公民館対象人口	12317人	5. 来館者のインターネット接続環境	無し
2. 市区町村名	一宮町	4. 建物設置年月日	昭和48年3月31日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	0台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者（ <input type="checkbox"/> 〇〇地区まちづくり協議会） <input type="checkbox"/> その他（ ）				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 216人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 13060人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 300人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 11276人（まちの図書室利用者数）				合計 24,852人
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 兼任 6人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 3人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 （職員のうち社会教育主事有資格者の数 1人 職員のうち社会教育士の数 0人） 合計 9人				
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> その他（社会教育委員会議）				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input checked="" type="checkbox"/> その他（歴史・文化の普及啓発）				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input type="checkbox"/> その他（ ） <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述（まちの図書室、歴史資料展示室といった図書館・博物館的機能も内包）				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等（団体名記述）	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 一宮小学校、一宮町文化協会、一宮町社会福祉協議会、総務課、子育て支援課、明治安田生命				

一宮町中央公民館

OPEN 日・月・祝：8:30~17:00、火~土：8:30~21:00 H P <https://www.town.ichinomiya.chiba.jp/info/shisetsu/kouminkan.html>
 TEL 0475-42-4576 SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 一宮町には公民館を含めて5か所の社会教育施設があるが、博物館・図書館・文化ホール・生涯学習センターのような施設はなく、「社会教育」の発信拠点としては公民館にその役目が期待されている。
- 上記の町に「ない」施設がほしい、という住民ニーズもあるが、既存の公民館を「上手く」「効率よく」運営し、博物館・図書館機能も有する場所とすること。これが今の町の公民館に求められている姿であると感じ、環境整備や事業実施に取り組んできた。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【歴史・郷土史を学ぶ事業の展開】

町には博物館のような施設がないが、町名の由来でもある上総国一之宮・玉前神社が鎮座し、歴史と伝統ある地域である。そのため、展示施設や学習機会を求めるニーズも多く、近年は講座を中心に普及啓発事業を進めてきた。平成30年度には郷土の偉人である加納久宜公の没後100年記念の5回にわたる連続講座を開催。延べ参加者219名に及び、翌年に開催したシンポジウムでは68名の方に参加をいただいた。令和3年度からは幕末に一宮にあった藩校の名前を冠した「崇文館歴史講座」を開講、年7回、延べ70名の参加があった。講座は参加者の希望に沿ったテーマで各回一宮の歴史を網羅的に細かく見ていった。この講座はこれまでの「教える」という一方の講座の側面だけでなく、「人材育成」や歴史を通して町のこれからを考える「まちづくり」といった側面も持ち合わせた講座としていく予定である。また、平成28年度からは展示ケース2台を用いて図書室内やロビーで不定期にミニ企画展を実施、小さいながらも実物の町の歴史資料に触れる機会を創出した。この取り組みを続けた結果、令和3年からは常設の「歴史資料展示室」を開室、「飽きさせない」「リピーターを増やす」工夫として約3ヶ月ごとに展示替えを行っている。



文化財講座の開催(2020)

【学校・他団体との連携によるロビー展示】

コロナ禍でイベントの多くが中止となり、発表の場が限られたことを受け、町内の小学校の子どもの作品を公民館1階ロビーで展示。学校や文化協会、社会福祉協議会と連携しながら、それぞれが行っている作品展などの事業の展示会場として公民館を提供した。



文化協会主催の児童作品展

3. 取組による成果や効果

- ・歴史資料展示室の開室により、これまで公民館に来たことがない方が来館するようになった。
- ・町の歴史の普及啓発事業を継続的に行ったことにより、町民の方々の町の歴史への認識、興味関心が増加。令和4年度から昭和39年(1964)に刊行された『一宮町史』の再編さん事業を開始する大きな原動力となった。
- ・学校や他団体と連携したロビー展示の開催により、子どもやその保護者が展示を見学するために来館。その方々が図書室に立ち寄りケースも散見。
- ・これまで公民館を利用したことがない人を徐々に呼び込むことが出来ている。



公民館教室「リトミック教室」

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

講座ごとにアンケートを実施。次年度行う講座等に聞いてみたいテーマや意見を反映するよう努めている。事業については教育委員会議や社会教育委員会議、文化財審議委員会議に随時状況を報告、会議内での意見も事業に取り入れている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

各種の公民館教室や館の環境整備を通して、「使いやすい」「明るい」生涯学習の場としての公民館にすることを目指している。利用者のニーズに応じて事業を考え、コロナ禍であっても安全に学び、活動できる環境の整備を心掛けている。これからの「withコロナ」の社会に向けて、人々の「つどい」の場として、地域の歴史・文化・芸術の活動の拠点でありたい。



コロナ前の講座の様子。人々の「つどい」の場

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

「人材育成」「まちづくり」という視点を新たに加えることで、官民協働での新たな事業を考えていきたいようにしたい。「歴史と文化ある町」を享受できる町、その発信拠点としての公民館を目指していきたい。また、これまで希薄だった学校との連携も徐々に進み始めている。様々な世代の人々が集い、参加できる事業を検討、展開していきたい。



公民館全体像

オンライン配信によるボランティア活動支援

千葉県生涯学習センター



ボランティアによる合唱を配信支援している様子



公民館で配信された落語を聴く参加者の様子

生涯学習センターの沿革・年表

【平成13年】 千葉市中央図書館・生涯学習センター開館
生涯学習センター管理運営を、千葉市教育振興財団が受託
【平成17年】ちば生涯学習ボランティアセンター開設
【平成18年】 第1期指定管理開始（5年間）
以後、現在（第4期 令和3年度～7年度）にかけて継続
【平成30年】 千葉市公民館（47館）の千葉市教育振興財団による指定管理開始（～令和4年度 5年間）

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

生涯学習指導者養成事業の一つである「ちば生涯学習ボランティアセンター」の運営について、コロナ禍においても継続できるスタイルを模索した。
同時配信の技術を用いて、対面リスクを最小化することで、ボランティアの皆さまと、ボランティアを依頼する各施設（特に高齢者施設）の安心安全を確保した。
対面の活動は、1対1が基本であったが、この技術の応用により、1対複数（施設）も可能となり、ボランティアの活動を、より幅広く、多くの方々に届ける支援が可能となった。

1. 都道府県名	千葉県	3. センター対象人口	約98万人（市人口）	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN（Wi-Fi等）
2. 市区町村名	千葉市	4. 建物設置年月日	平成13年4月1日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	35台
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理者（千葉市教育振興財団） <input type="checkbox"/> その他（ ）				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 14442人 <input type="checkbox"/> その他 0人（ ）	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 121939人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等	合計 136,381人		
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 35人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 （ 職員のうち社会教育主事有資格者の数 10人 ）	<input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 6人 （ 職員のうち社会教育士の数 0人 ）	<input checked="" type="checkbox"/> ボランティア協力者 合計 41人		
10. 予算	<input type="checkbox"/> 市区町村予算 <input checked="" type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> その他（年1回生涯学習センター利用者懇談会を開催）				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> その他（ ）	<input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 自主夜間中学	
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input checked="" type="checkbox"/> 生涯学習センター <input type="checkbox"/> その他（ ） <input type="checkbox"/> 自由記述（ ）				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等（団体名記述）	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館	<input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input checked="" type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 博物館	<input checked="" type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 青少年教育施設	<input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> その他	弁天保育所、市PTA連絡協議会、千葉県高校演劇連盟、立正大学、明治安田生命保険相互会社、消防音楽隊、消費生活センター、園芸協会、加曽利貝塚博物館ほか

千葉県生涯学習センター

OPEN 9:00～21:00
TEL 043-207-5820

H P <https://chiba-gakushu.jp/>
SNS 公式Twitter・公式Facebook



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

生涯学習センターでは、市民同士が共に学びあい、学びの輪を広げるための「ちば生涯学習ボランティアセンター」を運営している。しかしコロナ禍を受け、ボランティアをする方々にとっても、またボランティア活動を依頼する側にとっても、対面での講座やイベントの開催は、新型コロナの感染リスクが高く、自粛をせざるを得ない状況にあった。これまでも高齢者施設からは、音楽演奏や落語などの演芸披露について、多数のボランティア活動の依頼があり実施することで好評を得ていたが、これも実施できない状況が続いていた。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

新しい生活様式にも対応し、コロナ禍にあっても、「ちば生涯学習ボランティアセンター」に登録されたボランティアの活動を止めることなく支援する手段として、Zoomを活用したオンラインでの開催を実現した。以下、主な特徴。

①感染リスクを回避したボランティア活動の実現

これまでもボランティア登録者の活動紹介ならびにスキルアップを兼ねた「ボランティアセンター登録者紹介講座」を実施していたが、これをオンライン配信で実施。

②感染リスクを回避した会場設定

メイン会場は無観客（または少数定員での実施）。サテライト会場は有観客。

③オンラインの強みを活かした、同時配信による複数会場での開催

市内高齢者施設、公民館での複数同時開催

④コロナ禍における笑顔を届けることの重要性

音楽や落語を通じて、人を和やかに笑顔にできる行為は、ボランティア活動の醍醐味であり、かつ、コロナ禍で特に大きな制約がある高齢者にとっては、とても望まれていた。



（メイン会場）演奏の配信



（サテライト会場）高齢者施設の様子

3. 取組による成果や効果

ちば生涯学習ボランティアセンターのコーディネートによるボランティア活動や、学習や娯楽の場を、コロナ禍においても継続発展することができた。

①ボランティア活動依頼件数の増加

令和元年度：262件、令和2年度：123件、令和3年度：341件

②安全安心なボランティア活動の場の提供

「ボランティアセンター登録者紹介講座」のオンライン開催数 令和3年度：10件

③高齢者施設への安全安心な開催手段の確立

高齢者施設（老人ホーム等）へのオンライン配信数 令和3年度：8件



通常のボランティアコーディネートの様子
左：ボランティア、中央：ボランティアコーディネーター、右：活動依頼者（施設）
ときには、コーディネートもオンラインで実施

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

映像・音声・配信技術の問題については、絶えず現場での検証、及び都度の改善を図ってきた。配信のためのノウハウと入念な準備は不可欠であり、今後はよりセンター職員全体での講座配信のノウハウの共有を図る予定。

また、千葉市には47館の公民館があり、同じ財団で運営している（指定管理者制度）ことから、現場レベルでの連携を図るため、センターが企画する公民館職員研修のメニューとして「オンライン配信機材接続研修」（令和3年度）を実施した。

5. 生涯学習センターとして大切にしていること、大切にしている考え

コロナ禍を受けて急速に普及が図られてきたオンライン技術であるが、あくまで手段であって目的ではない。センターとしては、その技術を最大限に活用しつつ、目的であるボランティア活動によって得られる充実感や、これまでどおり参加者が、演奏や落語・演芸を見たり聞いたりすることで、楽しみ笑顔になれる姿を大切にしていきたいと考えている。



演者と観客を分けた落語講座

6. これから生涯学習センターをどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

Zoom配信により、一度に10カ所を超える高齢者施設や公民館での同時開催も可能となった。参加者においては、自由に好きな施設、または最寄りの施設を選んで足を運び、講座やイベントを受講することができる。今後はより市内の多くの施設からの参加を促し、またパソコンやスマホで、自宅からも参加できる仕組みも検討していきたい。



公民館から高齢者施設への配信支援

みんな笑(わ)が子だ やわたっ子

平塚市立八幡公民館



やわた子ども村ひろば囲碁・将棋・オセロ大会



公民館まつりでの動画による芸能発表

公民館の沿革・年表

- ・昭和53年 平塚市立八幡公民館開館
- ・昭和58年 神奈川県公民館連絡協議会優良公民館表彰
- ・平成29年 外壁やトイレ等の大規模修繕
- ・令和3年 神奈川県公民館連絡協議会優良公民館表彰

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

- ・やわた子ども村と共催で行っている「やわた子ども村ひろば囲碁・将棋・オセロ教室」。地域の大人に指導を受けながら、**異学年の子どもたちが交流**を図っている。年に2回大会が行われ、その際には競技を楽しむとともに1年間で培った習熟度が測られる。（写真左上）
- ・毎年3月に「公民館まつり」を開催している。コロナ禍では、当日参加が難しい方のため、前撮りした**動画による発表**をしたり、**360度カメラで撮影した会場風景をネット配信**したりと、工夫をした取り組みをしている。（写真左）

1. 都道府県名	神奈川県	3. 公民館対象人口	9220人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)	
2. 市区町村名	平塚市	4. 建物設置年月日	昭和53年3月	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	18台	
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 () <input type="checkbox"/> その他 ()					
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 403人 <input type="checkbox"/> その他 0人 ()	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 14121人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等	合計		14,524人	
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 1人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人)	<input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 2人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人	合計		3人	
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()					
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> その他 (公民館運営委員会)					
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> その他 ()	<input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 自主夜間中学		
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 (<input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター) <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (七夕飾りをはじめ、館内ロビーに季節を感じる装飾を施している。)					
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input checked="" type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 (八幡小学校、神明中学校、八幡自治会連合会、やわた子ども村、八幡地区町内福祉村、八寿会、八幡地区体育振興会、八幡地区社会福祉協議会、八幡地区民生児童協議会など)					

平塚市八幡公民館

OPEN 9:00~22:00

H P https://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/gakushu/page-c_01831.html

T E L 0463-23-5528

S N S やわた地域情報局 <http://hiratsuka.johokyoju.net/area/yawata/>





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

・八幡公民館はJR平塚駅から程近い場所にあり、住宅街、大きな工場、公共施設（美術館・警察署等）がある。利便性が高いことから、新しく住居を構える方も多く、昔からの結びつきの強固さを、新たな住民の皆さんにも作っていただきたいという願いがある。特に子どもたちについては、大きな建物が立ち並び、交通量の多い道路がある中で気軽に行き交うことに負担があり、学校以外で集う場が少ない。積極的に大人が動いて、居場所や励みをつくることが求められている。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【やわた子ども村との共催事業】

・地域による子育てをと、有志が集まり、平成17年に小学校内の余裕教室を借りて「やわた子ども村」を開設。子どもたちが色々な世代の人と出会いながら、学ぶ場となっている。公民館とのつながりは深く、普段の連携のほか、毎月3回の「囲碁・将棋・オセロ教室」や、夏休みの「ペットボトルロケット飛ばし」などを共に実施し、子どもの居場所づくりに取り組んでいる。

【だるまの絵付け教室】

・地区内にある創業百五十余年のだるま屋さんを講師に迎え、小学生を対象に、色付けされていない「だるま」に色塗りや装飾をする教室を実施している。地域で守り続けられている伝統の技に挑戦し、**伝統を重んじる心と、地域愛を育てている。**

【集まらない事業を実施】

・**コロナ禍でも子どもたちに学びの場をとの思いで、集まらない事業を実施。**コロナの影響が激しかった令和2年度でも6つの事業を展開し、「カブトムシを育てよう」の事業ではカブトムシの幼虫を配布し、子どもたちに観察記録をつけてもらい、その記録を館内に掲出した。

【地域でつくる季節の飾りつけ】

・公民館のロビーを使用して、七夕飾り、クリスマスなど季節の装飾を展開している。**制作や材料提供に地域の方が参加し、**来場する子どもたちの笑顔に期待を膨らませている。



ペットボトルロケット飛ばし



だるまの絵付け教室

3. 取組による成果や効果

・ロビーでの「季節の飾りつけ」について、**装飾を見た公民館の利用者から「元気が出た」「公民館に来ると楽しくなる」などの声をたくさんいただいた。**また、協力してくれる団体の方も増え、次の制作に携わることを楽しみにしていただける。

・日ごろの活動から、公民館に来ること、地域の大人と関わることの垣根が低くなり、**放課後や休日に来館する子どもが増えた。**

・公民館まつりで動画を活用し、コロナ禍でも公民館利用団体の成果発表の機会をつつたことで、各団体が目標をもって、活動に取り組むことが継続できた。これにより、さらなる意欲を持って取り組む団体の姿が見え、**次の目標に向かう推進力が生まれた**と感じる。



みんなで作る季節の飾りつけ

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

・自治会ほか各種地域団体の代表者、小学校長、小・中学校PTAの代表者で構成された公民館運営委員会を年5回開催。

・八幡地域の全団体を集めて、年度の事業計画発表、地域課題について話し合う会議を開催。

・八幡小学校全児童に向けた公民館事業でやってほしい事などのアンケートを実施し、意見を地域団体と共有し活動に生かしている。公民館事業で公民館主事が小学校に来館する際には、**学校でのお昼放送の時間に主事が公民館の紹介**をしている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

・**子どもたちを地域の一員として活躍させよう**と、集う場、育つ場をつくり、また八幡地区の伝統にふれ、文化を未来につなぐ活動を大切にしている。

・公民館の施設の枠にとらわれず、地域課題解決に向けて「今、何ができるか」を、やわた子ども村をはじめ地域団体と子どもたちと協力し形にしていく。



折り紙の指導は地域の方から

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

・**公民館に集めるのではなく、公民館の方から子どもたちに会いに行く、**場所にとらわれない活動や事業を展開していきたい。また、八幡地区は住宅街で、農業や生き物と触れ合う機会が少ないので、そういった機会を多くつくりたい。



カブトムシの観察記録展示

音楽を身近に感じる公民館へ

三条市嵐南公民館



嵐南ジャズナイト



リコーダー&チェンバロアフタヌーンコンサート

公民館の沿革・年表

- ・昭和51年
市民センター竣工
- ・昭和60年
市民センターを嵐南公民館に改称
- ・平成4年
嵐南サービスコーナー(戸籍・住民票等証明書発行部門)開設

左図・写真の説明など (PRポイントなども可)

- 「嵐南ジャズナイト」の様相
嵐南地区在住の演奏者が演奏。ジャズ初心者からジャズファンまで、様々な年齢層の老若男女が約230人来場し、ジャズ演奏に聴き入っていた。
- 「きっかけの1歩事業『リコーダー&チェンバロ アフタヌーンコンサート』」の様相
多くの参加希望があったが、感染症防止の為に、やむなく30人に入場者を絞った。
※きっかけの1歩事業は、生涯学習振興事業として行っている、各公民館講座のこと。

1. 都道府県名	新潟県	3. 公民館対象人口	17638人	5. 来館者のインターネット接続環境	無し
2. 市区町村名	三条市	4. 建物設置年月日	昭和51年	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 (<input type="checkbox"/> 地区まちづくり協議会) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (三条市生涯学習課)				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 2788人 <input type="checkbox"/> その他 0人	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 16246人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等	合計		19,034人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 3人 <small>(職員のうち社会教育主事有資格者の数 1人)</small>	<input checked="" type="checkbox"/> 兼任 1人 <small>(職員のうち社会教育士の数 0人)</small>	<input type="checkbox"/> 非常勤 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人	合計 4人	
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> その他 (嵐南公民館協力員会議 年2回開催)				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input type="checkbox"/> 防災 <input type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (女性の学び支援)				
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 (<input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (戸籍・住民票等の証明書発行窓口) <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (子どもの遊び場(プレールーム)を開設している)				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 三条市立図書館、三条市勤労青少年ホーム				

三条市嵐南公民館

OPEN 9:00~22:00

H P <https://www.city.sanio.niigata.jp/soshiki/shimimbu/shogaigakushuka/kouminkan/rannan/2240.html>

TEL 0256-35-2011

SNS LINE @450oosky





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

三条市の生涯学習課では、平成27年より「きっかけの一步事業」として、「何かやってみたい」と考えている市民へ、一歩踏み出してやりたいことや楽しみを見つけてもらうために、様々な公民館講座を実施している。

嵐南公民館では、絵画・書道・俳句などの作品制作の講座を数多く開催していたが、音楽系のものはほとんどなかった。約260人を収容できる「大集会室」には発表用ステージがあり、グランドピアノも設置されているが、それらを使用する講座がなく、活用しないままになっていた。地域住民からの音楽講座開催の要望と、「宝の持ち腐れ」を解消したいという職員の思いもあり、**市民が気軽に音楽に楽しんでもらうための機会を定期的に設ける**ことにした。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【音楽を身近に感じる公民館へ（多様な文化体験活動）】

上記の背景より、平成29年から公民館講座として、音楽入門教室を開催するとともに、その発表の機会をつくるようにした。様々な楽器や音楽を楽しむことができるよう、公民館主催で年に1回以上の音楽鑑賞会を開催している。

＜地域の演奏家による音楽鑑賞会＞

- ・平成29年 「七夕コンサート」
- ・平成30年 「秋の夜長コンサート(篠笛)」、「フルート&ピアノ鑑賞会」、「エノケン終活唄めぐり」
- ・令和元年 「冬の民謡鑑賞会」、「嵐南ジャズナイト」、「ゴスペルコンサート」
- ・令和2年 「ミュージックベルコンサート」
- ・令和3年 「リコーダー&チェンバロアフタヌーンコンサート」

＜講座受講者や公民館利用サークル団体発表の場としての音楽鑑賞会＞

- ・平成29年～令和元年 「愛唱歌をうたおう発表会」、サークル団体による「芸能発表会」

＜音楽鑑賞会に関係する公民館講座＞

- ・平成29年～令和元年 音楽入門教室として「愛唱歌を歌おう」を開催。全14回実施。令和3年度からは、地域のサークルとして公民館講座から独立し、公民館を会場に活動している。
- ・平成元年 きっかけの1歩事業「ジャズ鑑賞初心者教室」を開催。全3回実施。
- ・令和2年～ 音楽入門教室として「民謡入門教室」を開催。全14回実施。



冬の民謡鑑賞会



ミュージックベル

3. 取組による成果や効果

ジャズやゴスペルなど、普段触れないような音楽鑑賞の機会を提供したことで、住民の音楽に対する関心や教養の幅を広げることになった。そして、**公民館利用の少ない若年層、公民館に呼び込むことができた。**

また、新たな自主音楽サークルを生むきっかけづくりにもなった。

新型コロナウイルス感染症の蔓延防止の為、令和2年以降は回数を減らし、かつ人数制限を行って開催しているが、感染が終息した際には、以前のように頻回に音楽イベントを開催したいと思っている。



ゴスペルコンサート

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

アンケート調査をもとに、公民館協力員会議で住民の音楽ニーズを意見交換している。アンケート結果などを、もとに今後の事業計画を精査していく。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

「音楽鑑賞会」は、音楽を体感し、歌や演奏の楽しみを共有することのできる良い機会である。知らない音楽に触れることで教養を深めたり、同好の士を見つけて親睦を深めたりすることもできる。これからも鑑賞会を積極的に開催したり、音楽勉強会や音楽講座を開いたりして、「**音楽を身近に感じられる公民館**」として認知してもらいたい。



ジャズ鑑賞初心者教室

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

本格的な管弦楽の演奏会から、**未就園児も入場できるような音楽会**、ハンドパンやエスニックの**珍しい楽器の演奏会**など、多様なジャンルの音楽を皆さんに楽しんでもらうために、市民の需要や演奏者の情報にアンテナを張り、より良い事業を計画できるように心がける。そして、「**音楽を通じて、人と人、人とグループ、グループと地域を結び役割を担っていく地域の拠点**」としていきたい。



ハンドパン

楽しいぞ！公民館

五泉市公民館



公民館ワークショップ開催！



みんなで楽しくストレッチ♪ (ごせん女性学級)

公民館の沿革・年表

- ・昭和25年 五泉町公民館設置
- ・昭和33年 五泉市中央婦人学級発足
- ・平成18年 五泉市と村松町合併

左図・写真の説明等など (PRポイントなども可)

●公民館ワークショップ ウェルカムボード
6・8・10・12・2月に計画をしている公民館ワークショップ。この日はちょうど10/31だったため、ハロウィンバージョンのウェルカムボードを作成した。受付では「トリック オア トリート」と言ってくれた子供達にちょっとしたプレゼントを用意し、イベントを楽しんだ。

●ごせん女性学級
毎月1回、自分たちで計画した様々な学習(*)を行っているごせん女性学級。この日はキックボクシングジムの先生をお招きし、椅子に座りながら出来る「お手軽ストレッチ」を体験。先生の軽快なトークやゲーム方式のストレッチで会場内には終始笑い声が響いていた。
※陶芸、議会傍聴、移動学習、防災食体験、手芸、など

1. 都道府県名	新潟県	3. 公民館対象人口	47,724人 (4/30現在)	5. 来館者のインターネット接続環境	無し
2. 市区町村名	五泉市	4. 建物設置年月日	昭和25年	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	0台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 (<input type="checkbox"/> 地区まちづくり協議会) <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 2122人 <input type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 0人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等 <input type="checkbox"/> その他 0人 ()			合計	2,122人
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 兼任 5人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 1人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 1人 職員のうち社会教育士の数 0人)			合計	6人
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他 ()				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 (<input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター) <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (公民館としての建物はなく、五泉市総合会館の事務所の一角を公民館として運営。)				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input type="checkbox"/> 小中学校 <input checked="" type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> 各種団体 <input type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (高校ボランティア部、子ども会連絡協議会、青少年健全育成協議会、陶芸協会)				

五泉市公民館

OPEN 8 : 30 ~ 17 : 15 H P <https://www.city.gosen.lg.jp/> (五泉市HP)
TEL 0250-43-4190 SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- ・コロナ禍の中で様々なイベントが開催できなくなったこと、家庭で過ごす時間が増えたことを受けて、親子が家庭内で楽しく過ごすことができるようなコンテンツを提供することができないかと考えた。
- ・公民館講座は、受講者が高齢化・固定化し新規の受講者が増えない状況が続いていた。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【公民館ワークショップ】

令和2年度から工作と一般教養講座等の体験ができるワークショップを同日で開催。

『身近なもので楽しむ工作』

親子でもの作りを体験する機会を提供することを目的として、市の達人バンクに登録している地域の方を講師に迎え、身近にある材料を使い、家庭で簡単に取り組める工作を紹介し体験した。

令和2年度は4回にわたり56人の親子からの参加。ビーズやどんぐり、松ぼっくりや紙粘土などを使った工作を紹介し体験した。

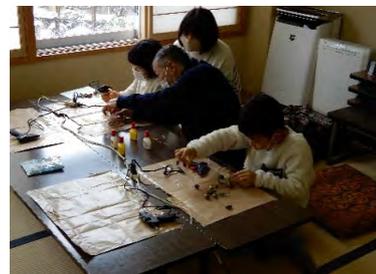
令和3年度は3回にわたり41人の親子からの参加。クリアファイルを使ったうちわやお菓子の空き袋を使ったポーチ作りなどを体験した。

『講座体験』

市民の趣味・興味の幅を広げるため、体験型講座を実施した。

令和2年度は既存の講座（生花やフラワーアレンジメント）のほか、ニーズがあった陶芸やプログラミングの体験講座など4回実施し、69人が参加した。

令和3年度はボードゲームや竹細工、コーヒー講座など3回実施し、64人が参加した。



『木の実を使った工作』の様子



『コーヒー講座』の様子

3. 取組による成果や効果

- ・ワークショップの会場として数か所の公共施設を利用することで、各施設の周知ができた。
- ・参加者の年齢層は10代未満・10代、30代～40代が多く、若い世代にアピールすることができた。
- ・多世代・参加者同士の交流ができた。
- ・アンケートを実施した結果、満足度が高かった。定期的開催を希望する声が多かったため継続事業とし、ニーズのある講座の定期開催や関心の高かった内容を盛り込んでいくこととした。



載 F a c e b o o k に記事を掲

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- ・公民館運営審議会を年2回開催している。
- ・多様な意見や各活動のアンケート結果を踏まえて公民館の事業の改善を行っている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

- ・青少年がさまざまな活動・体験をすることで、社会や文化にふれる機会を提供し、豊かな人間性、協調性、創造力を養い、社会参加を考えるきっかけとしたい。
- ・生涯各期にわたる市民の学習要求に応えていきたい。



『陶芸体験』の様子

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

- ・急速な少子高齢化や感染症の流行等により、地域における人と人のつながりが希薄になっている。今後も体験活動や対面による講座等を通して人と人の交流が生まれるよう、その機会を提供し続けていきたい。



『ボードゲーム体験』の様子

他地区の公民館との連携による地区の活性化

朝日町山崎公民館



手芸教室



やまざき美術作品展

公民館の沿革・年表

平成14年 山崎地区多目的施設設置
 (旧山崎小学校跡地に、山崎自治振興会が運営主体となつて、山崎地区住民の活動拠点となる地域振興施設として町によって整備され、併せて山崎公民館の活動拠点としても位置づけられた。)

左図・写真の説明等など (PRポイントなども可)

・当公民館では、各種講座等において参加者が作成した作品をやまざき美術作品展やあさひ生涯学習フェスティバルに多数出展

1. 都道府県名	富山県	3. 公民館対象人口	878人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	朝日町	4. 建物設置年月日	平成14年8月1日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	4台
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理者 (山崎自治振興会) <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 219人 <input type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 0人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等 <input type="checkbox"/> その他 0人 ()				合計 219人
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任 0人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 4人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人)				合計 4人
10. 予算	<input type="checkbox"/> 市区町村予算 <input checked="" type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input type="checkbox"/> 防災 <input type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他 ()				
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 (<input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (研修室、体育館) <input type="checkbox"/> 自由記述 ()				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 ()				

朝日町山崎公民館

OPEN 9:00~12:00(月・水・金曜日) H P <https://www.tkc.pref.toyama.jp/>
 TEL 0765-84-8470 SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 山崎地区は、少子高齢化が進展しており、若い世代の参加が少なく、高齢者向けの講座を中心に実施してきたことから、**参加者が固定化**していた状況にあった。
- 本館では、**子どもたち向けの企画を行う**ことで、親世代や祖父母世代からの参加に繋げ、三世代による交流が深まるものと考え、あさひ野小学校区から募集を行うことで、山崎地区以外の子どもたちも募集に加えるとともに、**他地区の公民館との連携**を図ることで、三世代交流の促進を図った。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【郷土料理「みそかんぱ」づくり体験（伝統文化継承活動）】

・山崎地区に伝わる郷土料理「みそかんぱ」づくりを通じて、地元で伝わる風習等を学んだ。作り方を学び、実際に、米を杵でつぶして、手のひらの大きさに丸め、割り箸を刺して、薄いきつね色になるまで炭火で焼くところまで実践した。**伝統的な地域の文化の継承に尽力**している。

【流しそうめん体験・バルーン教室（世代間交流活動）】

・親、祖父母、子どもたちで巨大な流しそうめん体験やバルーンアート教室を行った。そうめんに加えて、参加者が持ち寄ったミニトマトや小さく切ったキュウリも流すなど、一風変わった流しそうめん体験となり、そうめん等を流す方も食べる方も交代しながら楽しめ、明るい交流の場となった。

・町のボランティアサークルの方が中心となり、バルーンアート教室を開いた。他の公民館にも呼びかけ、他の地区の子供たちと学校以外で触れ合うことで、交流を深めていた。動物等をバルーンで制作し、見せ合ったり、遊んだりした。**子供たちが集まれば、親や祖父母も集まり、活気ある活動**になった。



みそかんぱづくり



流しそうめん体験

3. 取組による成果や効果

【各活動による成果・効果（「みそかんぱ」づくり、流しそうめん、バルーンアート教室）】

●子どもたちの参加を促すことで、**親世代や祖父母世代の三世代交流が深まった**。また、参加者の多くが、普段、公民館に参加したことがない子どもや親、祖父母の方々からの参加があり、**新たな参加者の掘り起こしにも繋がった**。

●お年寄りの方々が積極的に準備や指導に関わり、**子どもたちもお年寄りも満足して活動を終えることができた**、地域住民の絆が深まった。

【これまでの取組全体による成果・効果】

●他地区の公民館とも連携することで、他の事業での連携にも繋がり、**活動の活発化**や互いの講座での**参加者数の増加**にも繋がった。



バルーンアート教室

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

●自治振興会役員や小学校長、老人クラブ会長、体育協会会長、サークル代表、学識経験者など、関係機関の代表者を委員として選任し、公民館運営審議委員会を年間3回開催

●**公民館活動の改善点等を議論**し、各団体の代表者からの多様な意見等を踏まえながら、**検証や改善**を行っている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

一つの公民館では、なかなかできることも限られるが、関係団体や他の公民館とも連携することで、**公民館ができる活動の可能性が広がる**とともに、**他の団体の活動の活性化にも繋がるもの**と考えられるため、さらなる連携を深めることが大切である。



クリスマスケーキづくり教

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

少子高齢化が進展している中で、**普段交流のない世代との交流を深める企画を増やして**いきたい。高齢者の知識や技能等を活かし、活動の中心となって準備や指導をしていただくことで**高齢者にも若年者にもウィンウィンな企画**を目指したい。また、他地区の公民館との連携をさらに深めて、それぞれの地区の活性化にも繋げていきたい。



七夕飾りづくり

交流による地域活性化

南砺市南山見交流センター



公民館設立70周年記念事業



地域づくり協議会設立総会

公民館の沿革・年表

- 昭和22年 南山見公民館設立
- 昭和28年 若妻・和敬クラブ、青年学級等各種団体結成
- 昭和44年 富山県保健福祉活動推進地区指定
- 昭和53年 南山見公民館竣工、グラウンド完成、少年研修館、成・壮年部結成、地区体育祭・文化祭開始
- 昭和57年 体育館完成、みどりの少年団結成
- 平成元年 富山県教育委員会優良公民館表彰(2回目)
- 平成29年 設立70周年記念式典・記念事業開催
- 平成31年 公民館解散、南山見地域づくり協議会発足

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

- 南山見公民館設立70周年記念パーティの様様
平成29年5月に開催した、設立70周年を祝う「ジャズライブ&ワイン・フレンチパーティ」の様様である。地元出身のサクソフォン奏者とシェフを招聘し、盛大に開催した。300名を超える地域住民が参加し、公民館の歩みと未来を語り合った。
- 南山見地域づくり協議会設立総会の様様
設立70周年記念事業から2年後の平成31年4月、**小規模多機能自治推進により、公民館、自治振興会、社会福祉協議会を一本化して、地域づくり協議会を設立した。**

1. 都道府県名	富山県	3. 公民館対象人口	931人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	南砺市	4. 建物設置年月日	昭和53年3月27日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	30台
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 (○○地区まちづくり協議会) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (南山見地域づくり協議会)				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 2140人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 3355人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 450人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 145人 (地域づくり協議会井波連合会役員会等) 合計 6,090人				
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 4人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input type="checkbox"/> 非常勤 0人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人) 合計 4人				
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input checked="" type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (施設利用収入)				
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> その他 (地域づくり協議会理事会)				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他 ()				
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input checked="" type="checkbox"/> その他 (交流センター、サロン会館併設) <input type="checkbox"/> 自由記述 ()				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input checked="" type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (井波にじいる保育園、井波小学校、井波中学校、地域づくり協議会井波連合会、NPO法人アイウェブ、南砺市社会福祉協議会、南砺市教育委員会・福祉課、農組法人ファーム八乙女)				

南砺市南山見交流センター

OPEN 8:30~22:00
TEL 0763-82-5176

HP <https://minamiyamami-kc.7104.info/>
SNS





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 当地区は65歳以上の**高齢化率が30%を超える超高齢化社会**である。老人クラブ等高齢者の活動は活発であるが、イベント的開催が主となっており、**日常的な活動が課題**である。
- 世代間交流は、**少子化の進行により、参加者の減少が問題**となっている。
- 地域の**生活課題**としては、**イノシシ等の害獣対策、空き家対策、屋敷林等の枝葉処理対策、公共交通の不便等**である。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【「月曜サロン」による同世代交流の日常化(高齢者の学び支援)】

交流センターに隣接する旧保育園を市から譲渡してもらい、平成30年に、八乙女サロン会館をオープンさせた。このことにより、本協議会健康・福祉部会の所属団体である、地区社会福祉協議会が主体となって、**毎週月曜日に「月曜サロン」を自由に実施**できるようになった。健康体操、歌唱、ゲーム、制作活動、講座、栽培作業等活発な活動を展開している。

【行事内容の工夫による世代間交流の活性化(地域振興や伝統文化継承活動)】

新型コロナウイルス感染が全国に拡大しつつあった令和2年2月、三世代交流の集いを何としても開催したいという思いで**関係者が知恵を出し合い、感染予防を講じながら**、伝統文化、制作活動の伝承と軽スポーツ、餅つき等による交流を行った。児童クラブ終了式を同時開催したことも功を奏し、100名を超える参加者で盛り上がった。この後、コロナ禍で通常通りではないが、内容を工夫して、三世代交流ラジオ体操・ミニマラソン、タイムカプセル開封事業、ふる里探訪八乙女トレッキング、八乙女文化祭・敬老の集い等を実施した。4年度は、八乙女フェスティバル・体育祭も3年ぶりに開催する予定である。

【地区住民参加を呼びかける講座や講習会による生活課題の解決(課題解決に向けた取組)】

本協議会まちづくり部会が主体となり、研究協議、講座、現地調査、講習会等を開催し**地区住民の参加を呼びかけ、生活課題について改善**を図ってきた。



山の植物でロープ作り



ふる里探訪八乙女トレッキン

3. 取組による成果や効果

【各活動による成果・効果】

- 「月曜サロン」は、新しい発見や学びが多いため、参加者は年々増加しており、**同世代交流の日常化が実現**した。
- 世代間交流の各事業は、児童クラブの活動と併せて実施することにより、子供たちや親世代の参加率が増加した。高齢者は以前からも参加者は多かったが、**子供の参加が増えることで、より活発に活動するようになった**。これらのことで、世代間交流は活性化した。
- 生活課題については、**イノシシ恒久柵・電気柵地区全域設置、屋敷林等枝粉碎機設置、市による枝等回収事業実施等の成果**があった。



タイムカプセル開封事業

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 協議会長、4部会長、参与、顧問、監事、3支部代表、町内会長代表等による理事会を年4回開催。
- 地域づくり協議会の**現状や課題、活動ごとの振り返りや次回への改善点等を協議**している。多様な観点から意見を出し合い、**検証・改善**を行っている。
- 南砺市南砺で暮らしません課やなんと未来支援センター、地域づくり協議会井波連合会と**連携して運営**している。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

理事会をはじめ、「まちづくり部会」「健康・福祉部会」「学習・スポーツ部会」「安全・防災部会」の4部会、「会報編集委員会」「ふるさとの歴史文化調査委員会」等、**構成部会・委員会での決定事項を尊重した協議会運営を大切に**している。また、**行政や関係機関との連携・協力を重視した協議会課題の解決を目指**している。



理事会での協議

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

少子高齢化、地域のつながりの希薄化、生活問題等様々な課題が山積している。まずは、同世代、世代間を問わず、**地区住民が様々な活動により交流し地域の絆が深まるように事業内容を改善し実践**していきたい。また、**住民が生涯にわたって学び続けるとともに、よりよい生活を営むための活動を工夫**していきたい。次の大事業は、**令和5年度末の「地区歴史書」の発行**である。



三世代交流の集い

参加しないのは勿体ない！行こう富公！！

野々市市富奥公民館

公民館の沿革・年表

- ・昭和24年 富奥公民館設置
- ・昭和29年 石川県優良公民館賞受賞
- ・平成元年 町民研修センターに富奥公民館を併設
- ・平成26年 富奥公民館（富奥防災コミュニティセンター）新築落成
- ・令和2年 石川県優良公民館表彰受賞



地球に優しくエコバッグ作り
野々市生活学校



地球に優しくエコバッグ作り
県立大学生と小学生

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

夏休みの小学生向け事業「学びのサポーターと作る夏休み体験」で野々市市の公益団体である「野々市生活学校」の会員を講師に迎え、古新聞（英字新聞）でのエコバッグ作りを開催した。古新聞を利用し、糊と定規とはさみだけで地球環境に優しいエコバッグ作りを通してSDGsに関わる事が出来た。野々市生活学校だけでは指導する人数が不足する為、地区内にある石川県立大学の学生に協力を要請した。事前に行った講習会では生活学校会員と学生の交流が、教室では地域の高齢者と学生、小学生との世代を超えた交流事業になった。

1. 都道府県名	石川県	3. 公民館対象人口	19975人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)	
2. 市区町村名	野々市市	4. 建物設置年月日	平成26年5月20日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	5台	
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 (<input type="checkbox"/> 〇〇地区まちづくり協議会) <input type="checkbox"/> その他 ()					
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座	488人	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動	6273人	<input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等	2568人
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	5729人	(選挙等)		合計	15,058人
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任 0人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 2人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人) 合計 2人					
10. 予算	<input type="checkbox"/> 市区町村予算 <input checked="" type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()					
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()					
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input type="checkbox"/> 子育て支援	<input type="checkbox"/> 家庭教育支援	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動	<input type="checkbox"/> 子ども食堂		
	<input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画	<input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり	<input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援	<input type="checkbox"/> 障害者の学び支援		
	<input type="checkbox"/> ICTの活用	<input checked="" type="checkbox"/> 防災	<input type="checkbox"/> 地域学校協働活動	<input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール		
	<input type="checkbox"/> ボランティア養成	<input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input type="checkbox"/> 自主夜間中学		
	<input type="checkbox"/> その他 ()					
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設	<input type="checkbox"/> 図書館	<input type="checkbox"/> 学校	<input type="checkbox"/> 生涯学習センター		
		<input checked="" type="checkbox"/> その他 ()	防災コミュニティセンター			
	<input type="checkbox"/> 自由記述 ()					
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所	<input type="checkbox"/> 小中学校	<input type="checkbox"/> 高校	<input checked="" type="checkbox"/> 大学		
	<input type="checkbox"/> 企業	<input type="checkbox"/> NPO	<input checked="" type="checkbox"/> 各種団体	<input checked="" type="checkbox"/> 行政機関		
	<input checked="" type="checkbox"/> 図書館	<input type="checkbox"/> 博物館	<input type="checkbox"/> 青少年教育施設	<input type="checkbox"/> その他		
	(大学 (石川県立大学)、各種団体 (野々市生活学校、e-やん)、行政機関 (石川県)、図書館 (学びの杜ののいち カレード))					

野々市市富奥公民館

OPEN 9:00~22:00

H P <https://www.city.nonoichi.lg.jp/soshiki/37/2741.html>

TEL 076-248-0829

SNS





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

野々市生活学校は最高齢者は90歳、会員の8割が富奥地区の高齢者の女性となっている。団体としてぼかし作りやフードドライブ等の活動を行っているが、児童・生徒や学生達との関わりはなく、高齢という事も活気が無くなってきていた。高齢になり「頼りにされる」事や「生き甲斐」を感じる機会が減少していた。同時に、石川県立大学から「ゼミの学生達に活気や自主性が感じられない。社会人になってから自主性を発揮出来るように指導してほしい。」と依頼があった。

こうした地域課題解決に向けた公民館の取り組みとして、生活学校には、高齢者にも出来ることがあり役立つ活動が出来るという自信を持ってもらうため、SDGsの周知を目的に小学生に対してエコバッグ作りを指導してもらう提案をした。また、県立大学には、公民館事業に参画することで自主性、協調性を養うことを提案した。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

●野々市生活学校に対して事業の協力要請を行っている。小学生を対象とした夏休みの体験教室ではエコバッグ作りだけではなく、簡単な調理実習を行い試食や洗い物や片付けまでの指導を行っている。また、一人暮らしの男性の為に簡単な調理法を学ぶ「男子厨房」の講師も務めている。

県立大学の学生の自主性を養う機会として、地域住民との交流を深める事業であるグラウンドゴルフ大会や、トリプルソフトバレーボール大会への参加を促している。

生活学校とTOMITO（ゼミの名称。「TOMITO (TOMIOKU TO TOMONI)」）、市民活動センター登録団体「e-やん」が集結し、年に一度「夏の富公祭」を行い、県立大学で収穫した野菜や果物、e-やんが作ったお菓子の販売、フードドライブを行っている。イベントの際は団体名で呼ぶのではなく、公民館が用意した個別のネームプレートを着け高齢者も学生も地域の役員も対等な関係で、1人1人が役割を担っている責任感を持たせる工夫をしている。

●特徴的な活動として5年前から「富奥文芸講座」を開催している。読書はしたいが読む事が困難になってきたという高齢者の声を聞いて、金沢市で朗読小屋を主催する女優に石川県の文豪の作品を朗読してもらう。開演前には「待合いの茶席」を設けサークルによるお茶のもてなしをし、参加者同士、町内会を超えた交流を図っている。



3. 取組による成果や効果

富公祭では生活学校の会員1人1人に役割を振り分けたことで、各自がやりがいを感じて生き生きと活動する姿が見られるようになった。

県立大学では新入生に既存のメンバーがノウハウを伝授し、自主的に公民館事業に参加する様子が見られた。グラウンドゴルフ大会では順位決めの間に行うホールインワンゲームで、参加者に賞品を渡す役割を任せたと、公民館からの指導はしなくても新入生が笑顔で言葉を交わしながら役割を果たしていた。大会中も高齢の参加者達に指導を受けるなど、和気あいあいとした世代間交流の場面があった。



4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 学識経験者や自治会関係者、小学校校長など5名で構成する公民館運営審議会を年間4回開催している。
- 公民館事業の運営の協力者である地域住民（10名）で構成する執行委員会を年間4～5回開催している。
- 事業終了後や来館時に参加者又は利用者に直に意見や要望を聞いている。
- 県立大学の学生には、年度初めに公民館との繋がりや事業への取り組み方等を伝えている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

年代や生活様式、性別などにかかわらず参加出来る事業を企画し、3世代で出来る物作りや個人では体験出来ない講座に参加してもらうことなど、事業を通じて年代や町会を超えた交流が生まれることが大切であると考えている。そのため、年度毎に時代のニーズにあったテーマに沿った企画を考えて、Face to Faceの温もりを感じられる事業を行ってきたい。



6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

防災コミュニティセンター併設という事もあり、地域住民には日頃から気軽に楽しく参加出来る事業を通して、大雨や地震などの自然災害に備えるための避難所（自主避難所、予備避難所）であると認識してもらい、防災について考えてもらう。また、公民館主事は防災士の資格を取得しており、生活学校の総会でも防災講座を開催した。公民館主事は市の手話講座にも参加しており、ろう者にも身近な公民館となるよう、今後はさらに活動の範囲を拡げていきたい。



地域とともに子どもたちの成長と安全を守る

珠洲市立正院公民館



子ども会話し方大会



避難路整備完成

公民館の沿革・年表

- ・昭和21年 珠洲郡正院町立正院公民館として設置
- ・昭和22年 石川県優良公民館表彰受賞
- ・昭和29年 市条例より珠洲市立正院公民館と改称
- ・昭和62年 社会教育会館を廃止
- ・平成5年 石川県優良公民館表彰受賞
- ・平成6年 子ども会育成会指導に尽力し、石川県知事表彰受賞
- ・令和元年 石川県優良公民館表彰受賞

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

- 正院町こども会話し方大会の様相
令和3年12月に開催した「こども会話し方大会」の様相。小学生19人が参加し、身の回りや学校のこと、体験を通じて思ったこと、夢や希望を題材に発表。
- 津波一時避難場所整備の完成
平成23年6月に避難路完成時頂上で撮影。「地域の宝（こども）は地域で守る」という熱い心と善意の象徴である津波一時避難場所は、あつてはならない大災害から命を守るための後世に残す貴重な財産。

1. 都道府県名	石川県	3. 公民館対象人口	1332人	5. 来館者のインターネット接続環境	無し	
2. 市区町村名	珠洲市	4. 建物設置年月日	平成14年4月1日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数		
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者（ <input type="checkbox"/> 地区まちづくり協議会） <input type="checkbox"/> その他（ <input type="checkbox"/> ）					
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 1016人 <input type="checkbox"/> その他 0人	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 4997人	<input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 1,015人	合計	7,028人	
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 1人 <small>（職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人）</small>	<input type="checkbox"/> 兼任 0人	<input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 1人 <small>（職員のうち社会教育士の数 0人）</small>	<input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人	合計 2人	
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他（ <input type="checkbox"/> ）					
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他（ <input type="checkbox"/> ）					
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> その他（ <input type="checkbox"/> ）	<input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 自主夜間中学		
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input type="checkbox"/> その他（ <input type="checkbox"/> ） <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述（地域の方と花壇整備を行い、癒しの場になるように）					
14. 各種事業等で連携・協働している団体等（団体名記述）	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 正院小学校、正院青年福祉員、正院地区自主防災組織、正院婦人会、珠洲警察署、珠洲市福祉課、珠洲市教育委員会					

珠洲市正院公民館

OPEN 8:30～17:00 H P
TEL 0768-82-0416 SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 正院町子ども会話し方大会は「子どもたちが心身ともに大きく真っ直ぐに成長していくように」との願いを込めて始まった。地域の子どもたちの心の成長と、地域で子どもたちを育てる意識の高揚を目的としている。
- 東日本大震災が発生した平成23年、「地域の宝（子どもたち）は地域で守る」という地域住民の善意と熱い心により、小学校の背後にある殿山を津波避難場所として整備を進めた。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【正院町子ども会話し方大会（子ども体験活動）】

子どもたちを対象とした参加型の事業や世代間交流事業を積極的に実施し、地域・学校・家庭と連携して、子どもたちが心豊かで健やかに育まれる環境づくりに努めている。特に、50年以上の長きにわたり継続して開催している「正院町子ども会話し方大会」は、子どもたちの豊かな人間性を育むとともに、毎年多くの地域住民に微笑ましい感動を与えている。平成28年度には、市の生涯学習推進大会でも発表し、多くの市民に感動を与えている。



発表する児童

【殿山津波一時避難場所の整備・保存（防災）】

整備にあたっては、行政に一切頼ることなく、参加した地域ボランティアが、土木、建築、測量、舗装など各々の職業を活かして完成させた。整備した後も毎年2回、地域ボランティアとともに除草や施設の点検を行うなど手厚い維持管理を行っている。



避難路づくり作業

3. 取組による成果や効果

【各活動による成果・効果（正院町子ども会話し方大会）】

- 子どもたちの人間性、心の成長
- 地域の世代間交流
- 地域住民が地域の子どものために目を向ける機会と地域全体で子どもを育てる機運の醸成につなげることができた。

【これまでの取組全体による成果・効果】

- 地域住民が主体的に動いた避難路の整備など、子どもたちの安全を守るだけでなく地域住民の防災意識の高揚を図ることができた。

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 事業を実施するごとに事業報告書を作成し、参加者の意見などを参考に事業の点検、評価を行い、次年度の企画に活かしている。
- 公民館振興協力委員会で年間事業について審議・検討している。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

公民館は子どもからお年寄りまで楽しく学んだり、健康の増進を図ったりする場所である。そのために、文化的体育行事や自主的な教室を開催すると同時に、行政と連携しながら健康に関する取組を長期的に継続するよう努力している。また、公民館は防災の拠点でもある。区長会や自主防災組織と連携を図りながら、住民の防災意識を高め、いざという時に備える工夫をしている。

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

小学生や中高生が、地域の伝統芸能を学んだり、長期休業中に学習したりする場所として、公民館を大いに活用する方策を模索する。特に、中高生が小学生を教える場面の創出を目指す。各種団体や学校と連絡調整を図りながら具体的な実施に向け進めていきたい。



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- ・現在、都会と変わらぬ情報の取得と生活様式（核家族化、子どもの遊びの変化、物の豊かさ等）の中で大人も子どもも“自分達の生まれ育った地域に対する関心”が薄れてきている現状から、子ども達に地域愛、ふるさとを学習する企画が必要と考えた。
- ・佐分利地区には日本の歴史に励行する史実があるが、現在その歴史を継承していく活動はしておらず、地区住民も消えゆく佐分利の史実について懸念をもっていった。
- ・公民館設置の地域住民で構成される生涯学習推進委員会において、「佐分利地区の昔話を掘り起こし子ども達に語り継ぎたい」という委員の熱い思いから、委員会での企画を取り上げることとした。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

- ・平成26年度 生涯学習推進委員会の中に「語り部部会」を立ち上げ、月1回の定期会議を実施。具体的な活動内容などを話し合い、佐分利地区全戸に“昔話を教えてください”というチラシの配布を始めとして、語り部の育成、掘り出した話を文章化する作業など行うこととした。
- ・家族形態や世代間コミュニケーションの変化により、昔話を家の祖父母から聞いたという方はほぼ90歳にちかい高齢者になっていて、当初は思いのほか収集できずにいた。
- ・委員が集めた2、3話について話し合っても、時代背景や実質不可能な行動について、公民館の昔話として世の中に出していいものか文責など基本的な考え方の共通理解について、意見、議論を行った。
- ・佐分利地区の昔話は、戒めや教訓といったものではなく、この地区の歴史に基づくものや、地形に深くかかわりがあることから、この地区の歴史を紐解くことが必要であり、語り部部会では大飯町誌を始めとして様々な書籍を用いて歴史の研究も同時に進めていった。
- ・語り部の育成活動として、まず生涯学習推進委員が語るために近隣市町の語り部講師による学習を兼ねた「昔話発表会」を地区文化祭の中で行う「語り活動」を始める。
- ・長期休暇に公民館を利用する子ども達に、掘り出した昔話を少しずつ語って聞かせ、子ども達にその物語の絵を描いてもらい、記憶に残る活動にも力を入れていった。



生涯学習推進委員会



語り活動

3. 取組による成果や効果

- ・公民館活動の中で、継続して歴史や昔話の掘り起こしを地域との連携により地道に行うことにより、少しずつではあるが地区の地名や遺跡、自分達の苗字の由来、先祖の軌跡などを語り合う姿が見受けられる。また、歴史的現場への関心が高まり現地確認などの機運が盛り上がり、訪れてみたという話もでてきた。
- ・毎年の地区文化祭で「語り部会」を開催することにより、活動に参加する公民館来館者数が増加する。
- ・佐分利地区には自主運営グループ“佐分利の歴史を学ぶ会”があり、主に石山区の山城に纏わる活動をしているが、お互いの活動について相乗効果があり事業展開ができていく。



石山城跡

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- ・数年継続して歴史と昔話の掘り起こしを行なった、その成果として資料が多く集まったことで、一冊の本にまとめる意見が出てきた。それとともにこの本をもっと身近なものとするため、佐分利14地区について地区の中で語り繋がれている昔話の掘り起こしを行うこととした。
- ・一冊の本にまとめていくという制作作業において、一人でも多くの方に関わっていただく方針で、ご先祖様についての聞き取り、本の挿し絵、各区の保存物の取材等について、今まで以上に区民の中での活動を展開していくこととなった。月1回の会議開催のスケジュールであったが、新たな協議事項があるときは会議を開催する方向で、月に2回から3回の会議開催となっていった。
- ・この活動は語り部部会を中心に行い、2カ月に1回開催される生涯学習推進委員会にて進捗状況を報告し内容について議論を行った。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

- ・公民館は地区住民に知識、技術の提供とともに住民の想いを語り、住民同士を繋いでいく場である。それは住民同士だけでなく地区の保育所、小学校も同じように地区住民と保育、教育に関係する各団体を繋いで連携協働する潤滑油のような存在の公民館でありたい。



みんなでラジオ体操

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

- ・8年をかけ作成できた冊子「さぶり物語 歴史と昔話」は、公民館でのイベント等で昔話を語るなど、地区住民にふるさと佐分利の歴史を再認識してもらおう活動を実施していきたい。
- ・佐分利地区においても一人暮らしがちな高齢者が増える傾向にあるが、冊子「さぶり物語」が架け橋になり、公民館に高齢者や子ども達、そしてその家族も巻き込みながら、次の掘り起こしや新たな活動を展開していきたい。



さぶり物語 歴史と昔話

コミセンでつながる大関助け合いのまちづくり ～子ども、地域、学校の協力で地域創造～

坂井市大関コミュニティセンター



賑わいをみせる2階カフェコーナー

笑顔大好き大関♡住民みんなが助け合うまちづくり



ごみゼロに向けてアイデアを出し合う

公民館の沿革・年表

- ・昭和30年 大関公民館創立（大関農協2階）
- ・昭和54年 坂井町就業改善センター完成（前公民館）
- ・平成16年 大関友遊館完成（現コミセン）
- ・平成27年 大関コミュニティセンターに移行
- ・平成30年 第一次大関助け合いのまちづくりプラン策定
- ・令和3年 大関コミュニティセンター運営協議会を設置
- ・令和3年 福井県公民館広報紙コンクールAコース「優良賞」受賞
- ・令和3年 第二次大関助け合いのまちづくりプラン策定

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

●あたらしいカフェコーナーつくり事業

ー 完成したカフェコーナーの様態 ー

地域住民からアイデアを募集し、子どもと大人と一緒に手作りした。坂井中学校美術部が制作した四季の絵画パネルが1階カフェコーナーに掲示され、来館者を楽しませている。

●クリーンアップ作戦「ゴミ探検」の様態

「ゴミ探検」と称して子どもと大人が主要道路のゴミ調査を行う10年計画の事業。ゴミ探検後は、ゴミの数を集計し、全員で「気づいたこと」「自分にできること」などを話し合った。

1. 都道府県名	福井県	3. 公民館対象人口	2838人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)	
2. 市区町村名	坂井市	4. 建物設置年月日	平成16年3月	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	約100台	
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 (○○地区まちづくり協議会) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (坂井市)					
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 589人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 3305人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 300人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 8762人 (大関コミセンやよい寮100人、まちづくり協議会事業150人、児童館利用6000人他)				合計	12,956人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 3人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input type="checkbox"/> 非常勤 0人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人) 合計 3人					
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()					
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()					
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 子ども食堂 <input checked="" type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (SDGs、小中学校との連携事業)					
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input checked="" type="checkbox"/> その他 (大関児童館) <input type="checkbox"/> 自由記述 ()					
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input checked="" type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 (大関小学校、坂井中学校、大関まちづくり協議会、大関ふきの会、大関地区区長会、青少年育成坂井市民会議大関支部、大関地区体育協会、民生委員、県民せいきょう坂井きらめき、スマイルネットワークさかい、坂井市まちづくり推進課)					

坂井市大関コミュニティセンター

OPEN 8:30～21:30

TEL 0776-72-1957

SNS 050wwwps(LINE)

SNS ozeki_communitycenter(Instagram)





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

現代は住民の生活様式の多様性や地縁血縁の希薄化により、コミュニティセンターや地域社会に求めるニーズも多様化してきた。また、地域社会を底辺で支えている各種団体の多くが、高齢化や後継者育成の悩みに直面している。一方で、若い世代では近年の災害や国際情勢を反映して、地域社会への貢献や助け合うことの大切さに気付き、ボランティア活動に参加する青年もいる。そうした背景も考慮しながら、大関コミュニティセンターは、地域づくりの拠点として5年前から地域課題解決のための活動を始めた。次第に住民主体の取り組みが実を結び、住民間の連携が強くなってきている。今後はセーフティネット社会の構築につながるよう活動を展開していきたい。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【セーフティネット社会の構築を目指して（取組全体）】

大関コミュニティセンター（以下コミセン）は、地域団体と協力しながら協働のまちづくりを進めている。平成30年に地域課題解決のための「**第一次大関助け合いのまちづくりプラン**」を策定し「**大関助け合いのまちづくり事業**」を実施している。（令和3年には第二次プランを策定）

小中学生は、プラン策定段階から関わっているため事業にも参加しやすいことが大切なポイントである。この事業として「**あたらしいカフェコーナーつくり事業**」「**大関えがお朝市**」「**大関子ども農園**」「**ゴミ探検**」「**#笑顔大好き大関2021写真コンテスト**」などがある。

「**あたらしいカフェコーナーつくり事業**」では、コーナーのアイデアを地域住民から募集し、デザインから建設まですべての工程を住民で行い、誰もが楽しめるくつろぎ空間を作り上げた。

「**大関えがお朝市**」では、地元農家の方が出店し団地の方との交流をはじめ、新しい人との出会いの場となっているほか、大関小学校児童が育てている「**大関子ども農園**」の野菜を児童が出店予定など**事業間連携もできる**ため、多くの住民とつながることができている。

環境保護活動である「**ゴミ探検**」は、小中学生が地域の大人、障害者施設や老人福祉施設入所者の方と一緒に取組み、多種多様な人との交流に繋がっている。

このように、**大関助け合いのまちづくり事業が充実してきたことで、コミセンが地域づくりの活動拠点となってきたことはもちろん、地域住民の居場所ともなってきた。**コミセンが進める事業は、新しい人との出会いや、ゆるやかなつながりの手助けとなるので「大関助け合いのまちづくり事業」の継続でセーフティネット社会を築いていきたい。



みんなで作ろう！ カフェコーナー



目指せ朝市！ 野菜の苗植え

3. 取組による成果や効果

【大関助け合いのまちづくり事業による成果・効果】

- 子どもたちが大人の中で、自分の考えを発表することで自信につながった。
- 子どもと大人と一緒にまちづくり計画を立て、一緒にまちづくりに取り組めるようになった。
- 多くの団体が協力し合い、コミセンを拠点としてまちづくりの活動ができるようになった。
- 障害者施設や老人福祉施設との連携により入所者とも一緒に活動できる。

【これまでの取組全体による成果・効果】

- 地区内の世代、地域、業種間で**新しい交流が生まれ、新しい人とのつながり**ができた。
- **コミセンが地域住民誰もの居場所**となってきた。



アイデアあふれるプラン策定

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 地域住民代表、大学生など12名（男性4名、女性8名）で構成する運営協議会を年2回開催。コミセンの活動報告を行い委員からの意見をもとに次年度の活動に活かしている。
- 大関助け合いのまちづくり推進委員会において、コミセン提案の事業計画の審査と事業結果の検証・評価を行い、事業結果を、「1年の物語」として大関地区の全世帯に配布している。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

コミセンを地域づくりの拠点と考えている。大関地区の各種団体やボランティア団体そして小中学生など、**誰もが協働のまちづくりに参加できるようにコーディネート**し「大関助け合いのまちづくり事業」を実施している。また、3年ごとに見直している「大関助け合いのまちづくりプラン」がセーフティネット社会の構築の基本となるので、**地域の皆さんと助け合いながら事業を実施**していく。



ポイ捨て現場を徹底調査

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

- 地縁血縁が薄れる時代にあって、新しいつながりを築いていくための活動拠点としていきたい。
- SNSの時代にあっても、あくまで「リアル」にこだわり、**新しい人との出会い、つながりを大切にし、誰もが仲良くなれる居場所を作**っていきたい。そのために、住民手作りの「カフェコーナー」をあたらしい「居場所」としてさらに充実させ、子どもから高齢者までの「**たまり場**」に発展させていく。



絵画が輝く1階カフェコーナー

新しい、楽しいことにチャレンジしましょう

甲斐市竜王北部公民館



竜王北部公民館(3階4階)



Mirai7° オンライン講座学習会

公民館の沿革・年表

昭和52年に社会教育法の規定に基づき、竜王町の社会教育の振興と住民の福祉を図るため設置された。
平成16年に竜王町・敷島町・双葉町が合併し甲斐市誕生後、平成23年に市役所庁舎と公民館が併設・竣工され、新公民館を拠点に広く市民に向けて公民館活動を展開している。

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

甲斐市は公民館活動が盛んであり、竜王北部公民館では年間30講座前後（延べ80日前後）を企画・開催している。講座は抽選となることも多くあり、また、自主グループの活動も多く、活発な生涯学習活動が展開されている。
年1回、自主グループの発表会があり、コロナ前の令和元年度開催では、81団体、1,500人の参加があり、作品展示や舞台発表、お茶席や体験コーナー（折り紙やゆる体操など）、ジュニアリーダーのバルーンアートなど公民館利用者だけでなく地域の方にも楽しんでもらえるようなお祭りを開催している。

1. 都道府県名	山梨県	3. 公民館対象人口	20361人	5. 来館者のインターネット接続環境	有線LAN	
2. 市区町村名	甲斐市	4. 建物設置年月日	H23	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	2台	
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会	<input type="checkbox"/> 指定管理者（ <input type="checkbox"/> 〇〇地区まちづくり協議会）	<input type="checkbox"/> その他（ ）			
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 530人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 0人	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 22585人	<input type="checkbox"/> 講演会、展示会等	合計	23,115人	
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 2人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人)	<input type="checkbox"/> 兼任 0人	<input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 2人 (職員のうち社会教育士の数 0人)	<input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人	合計 4人	
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他（ ）					
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他（ ）					
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> その他（ ）	<input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input type="checkbox"/> 防災 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 自主夜間中学		
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input checked="" type="checkbox"/> その他（ 1階2階が市役所庁舎、3階4階が竜王北部公民館 ） <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述（ 同一敷地内に竜王図書館、竜王北部公園がある。 ）					
14. 各種事業等で連携・協働している団体等（団体名記述）	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input checked="" type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input checked="" type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 日本航空学園、(一社)星つむぎの村、(特非)パソナカール★あつとほーむ、(株)フォネット、(株)グリーンフォルト、甲斐市聴覚障害者協会、甲斐市文化協会、甲斐国際交流協会、青少年育成甲斐市民					

甲斐市竜王北部公民館

OPEN 8:30~22:00 H P
TEL 055-276-7511 SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

コロナの関係で、多くの人が集まる公民館も、感染拡大を防ぐために限定的（不特定の皆さんへの開館ではなく、部屋を予約し使用する市民に限った）な開館となっている。公民館を利用している自主グループの発表会（舞台発表や作品展示、体験コーナー）も令和2年度は全面中止となってしまった。今後のwithコロナの中で、公民館が「まなぶ」「つどい」「むすぶ」という本来の目的を果たすため、市民に対してどのような取組みをしていけばいいのか。また、公民館として比較的年齢層の高い利用者が多い現状の中で、新たなターゲットである若年層へどのようにアプローチすればいいのか。新鮮な視点で、新しい風を吹き込んでいきたい。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

未来計画研究社が企画したMiraiプロジェクト（企業者団体のニーズや課題に基づいて、学生と協働で行うことを前提に設けられたプロジェクト）に参画し、**学生と協働することで、若者が公民館を知り、興味をもってもらえるように学生の視点を公民館活動に取り入れる。**

【参加学生】

- ・大学生4人（女性4人）

【目標（一部抜粋）】

- ・学生の視点での現状把握のレポート
- ・その視点に立った、新たな「ふれあい講座」の開催

【活動内容】

・YoutubeやSNSで解決できるようなものではなく、公民館だからこそできる講座をつくる。学校では教わらないこと、講義より実践を重視し、公民館若者応援プロジェクトとして、「一人暮らし力UP！How to 大掃除＆収納講座」、「自分磨き術パーソナルカラー＆簡単メイク講座」を開催。

- ・申込方法を従来の往復はがきではなく、初めて、インターネットによる申し込みを実施。
- ・周知方法としては、大学やコンビニ等でのチラシ設置、ラジオ出演・市公式LINE・参加学生によるSNSを利用した講座情報発信。



Miraiプロジェクト打合せ



オンライン講座（大掃除＆収納）

3. 取組による成果や効果

・「大掃除＆収納講座」では、一人暮らしを始めた学生も多く、初めての大掃除に向けて、公民館初のオンライン(Zoom)講座を開講。実際に受講者の家で困っていることを質問・回答する形式とした。

・「パーソナルカラー＆メイク講座」では、元ANA国際チーフパーサーを招いて、受講者が持参した服や持ち物から直接アドバイスする対面形式とした。

・いずれの講座も普段公民館を利用しない10～20代の若者が受講した。

・スマホアンケートを実施したところ、**聞くだけでなく自ら行動できる内容が高評価**であった。

・講座申込みのオンライン化やSNSによる情報発信が有効であり、今後、手続きのオンライン化に力を入れていく。



パーソナルカラー＆簡単メイク

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

各講座における申込人数やアンケート調査、公民館運営審議会(年4回程度)による調査審議等により、講座の内容や運営方法を改善し、次年度の生涯学習推進計画に反映している。

また、竜王北部公民館利用団体協議会において、役員会、運営委員会、視察研修会や会員学習会を開催する中で、自主グループからの要望等を聞き、公民館運営に活かしている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

公民館が「まなぶ」「つどい」「むすぶ」場となるように、講座や研修、ジュニアリーダー活動など精力的に行い、『公民館という場を使って、楽しいことをしよう』をモットーに、ワクワク感を醸し出すような働きかけを行っている。年に1回、利用者と地域の方が集いにぎやかに楽しむ発表会に力を入れ、人と人、人と地域を結ぶ場の提供に努めている。



竜王北部ふれあい発表

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

大学生などの若者のニーズに対応できるよう、講座の企画内容や周知方法に工夫を凝らし、若い世代に関心を持ってもらうメニューを提供していきたい。

また、社会人が働きながら学ぶ機会が得られるよう、講座や体験活動の開催日や開催時間を工夫しより多くの市民がより多くの講座に参加しやすい体制を整えていきたい。



おやじストレッチ

ポストコロナの生涯学習を模索して

下諏訪町公民館

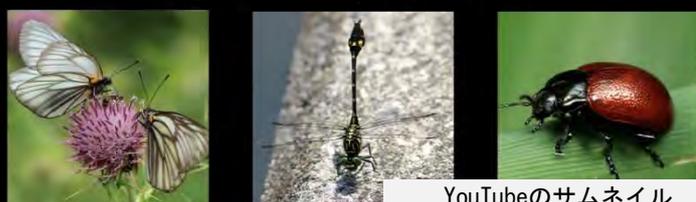


町民大学の様子

令和4年度 下諏訪町公民館 第1回町民大学

「小さな隣人 諏訪の昆虫たち」

自然写真家 青木由親先生



YouTubeのサムネイル

公民館の沿革・年表

1966年 下諏訪町公民館開館
 1989年4月 下諏訪町役場に隣接する複合施設「下諏訪総合文化センター」の完成に合わせて移転。公民館施設である視聴覚室、会議室、工作学習室、幼児室、展示コーナー等の他、文化センター施設の大ホールと小ホール、勤労青少年ホームの料理実習室、軽体育室等を有し、地域住民の文化の振興、福祉の増進に寄与してきました。
 2023年 機械・電気設備、ホールの舞台機構を含めた大規模改修を予定しています。

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

令和4年6月に実施した下諏訪町公民館町民大学「小さな隣人 諏訪の昆虫たち」の講演の様子です。
 講師は下諏訪町出身・在住の自然写真家青木由親さん。諏訪地域で見られる虫たちの姿にクローズアップし、その魅力について語っていただきました。身近な虫たちの意外な一面に、聴講した方は固唾を飲んで見入っていました。
 講演の前後には写真展を行い、展示した写真は後日下諏訪図書館のデジタルアルバムに加えられました。また、講演は編集をし、現在YouTubeで配信を行っています。

1. 都道府県名	長野県	3. 公民館対象人口	19242人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	下諏訪町	4. 建物設置年月日	平成元年4月	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 (<input type="checkbox"/> 地区まちづくり協議会) <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 2298人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 15415人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 613人 <input type="checkbox"/> その他 0人 ()				合計 18,326人
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 兼任 3人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 2人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 2人 職員のうち社会教育士の数 0人) 合計 5人				
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他 ()				
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input checked="" type="checkbox"/> その他 (文化センター・勤労青少年ホーム) <input type="checkbox"/> 自由記述 ()				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input checked="" type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input checked="" type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 ()				

下諏訪町公民館

OPEN 8:30~21:30

TEL 0266-28-0002

H P

SNS

<http://www.town.shimosuwa.lg.jp>

下諏訪町公式チャンネル





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

これまで下諏訪町公民館では学級や講座を数多く実施、また、町の歴史・文化・自然等を取り上げた町民大学を開催し、町民のみなさんに生涯学習の場を提供してきました。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大のため、多くの公民館と同様ほとんどの活動を中止せざるを得ない状況となりました。感染対策の進展により、公民館活動は徐々に再開されましたが、コロナ禍を経て起こった**全国的な学習環境の変化**と町民のみなさんが**I C Tを活用するための教育の必要性**が感じられるようになりました。

下諏訪町公民館では、コロナに翻弄されつつも手探りで**I C T**を取り入れた活動を続けています。同時に、コロナ禍以前からのテーマでもある**主体的な学びの場づくり**に努め、**地域の魅力**を再認識し、**人と人を繋ぐ**活動にも積極的に取り組んでいます。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

①代替としてのオンライン活用

新型コロナウイルスの感染拡大により、対面での講座が開催できなくなったときにオンラインを活用して講座を継続しました。

②町民大学等のYouTube配信

当日公民館に来られない方でも視聴できるよう、講座や町民大学の講演の様子を撮影、編集してYouTubeで配信しました。

③オンライン講座の実施

実際にオンラインを体験する機会を設けるため、Zoomを活用したオンライン講座を実施しました。参加方法は、自宅からのオンライン参加と公民館会場からのオンライン参加の両方を用意しました。

④町民向けの情報教育

町民の方が情報教育を受ける機会を確保するため、初心者向けのZoom講座とシニア向けのスマホ講座を実施しました。

⑤町民との連携、主体的な活動の推進

町の企画部署と連携し、町民の方がまちづくりについて自由に語りあう講座を行いました。この講座でも、随所にオンラインを活用しました。



オンライン講座
「K-popから学ぶ韓国語講座」



「下諏訪みらい塾」

3. 取組による成果や効果

・オンラインの活用によりコロナ禍でも公民館の活動を継続することができました。また、新しい学びの手法としてオンラインを取り入れることにより、これまで公民館と関わることが少なかった新しい層の方に働きかけることができました。

・I C Tへの関心、意欲のある町民（特に高齢の方）に対して教育を受ける場を設けることができました。適切な教育を受ければ年齢に関係なく、デジタル機器を使いこなせる可能性に気づかされました。



「Zoom初級講座」

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

・公民館運営審議会に諮り、公民館の取組についてそれぞれの角度から様々なご意見を伺うなかで、よりよい方法を研究しています。

・広報誌に随時公民館活動の記事を掲載しています。町民の方に公民館活動を理解をしていただき、町民からもご意見をいただきたいと考えています。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

コロナ禍を経て、教育の場面には大きな変化が生まれました。今後はI C Tを活用した社会教育・生涯学習が当然となることを認識し、公民館側の成長と、受け手となる住民側への教育が必要と感じています。対面とI C Tの両方を活用し、公民館本来の目的である、人と人との繋がりが作り取り組んでいきたいと考えています。

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

下諏訪町は人柄が穏やかで自然や文化遺産に恵まれた町です。下諏訪町公民館ではI C Tを積極的に活用して幅広い層の方に公民館活動に参加していただき、地域の魅力を伝えあい、活気ある公民館を目指していきたいと考えています。



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

白馬村はスキーや登山など山岳観光の資源に恵まれ、国内外からの移住者も含めて多様な人々が暮らしています。村民の暮らしが営まれている里にも、歴史や文化、多様な生態系など、身近にありながら知られていない貴重な資源が多く存在しています。それらの資源を次世代にも受け継がなければならないという地域課題と、それらを学びたいという住民のニーズを背景に、地域の歴史民俗研究家に講師を依頼し、地域資源を学び語り継げる人材を養成することを目的として、「山麓めぐり - 歩いて白馬山麓を一周する」という講座を開講しました。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

■ 山麓めぐり - 歩いて白馬山麓を一周する

白馬山麓の里山地帯をぐるっと一周、約70kmの行程を、1日あたり約8km、9回にわたり踏破する講座です。各地域に存在する石仏群や社寺、古道、多様な動植物など、実際に目で見て、その場で聴いて、心で感じる学びを大切にしています。

令和元年にスタートした第1グループの受講生から約15名のガイド（講師）が養成され、歴史や民俗・自然環境などそれぞれの得意分野を活かしながら、現在は第3グループの受講者に多様な地域の資源を語り継いでいます。

参加希望者が多く、毎回抽選になる人気の講座で、これまでに約60名が受講しています。また、ガイドは自主的な勉強会を定期的に行い、様々な観点から地域の資源を語れるよう研鑽に励んでいます。

平成26年に発生した神城断層地震の被災状況について、信州大学と連携してデジタルアーカイブを構築しており、山麓めぐりの中でも震災アーカイブを活用して当時の被災状況や復興の経過を語り継ぐことで、地域の防災意識を高めることにも貢献しています。



姫川源流・親海湿原の生態系を学びます



馬頭観音、道祖神、庚申塔等が並ぶ石仏群
当時の暮らしや想いを馳せませす

3. 取組による成果や効果

【学び】訪れたことのない集落や、毎日車で通過して目にも留めない道端に佇む石仏群、季節によって移りゆく動植物など、これまで意識していなかった地域の資源を見つめ直す機会になり、村の歴史を偲び先人の暮らしを学ぶ貴重な機会となっています。

【集い・つながり】地元で生まれ育った人や国内外から移住してきた人など多様な参加者が集い、会話を楽しみながら長い時間にわたり行動を共にすることから、参加者が知見や経験を語り合い、講師からの学びだけでなく、相互に交流し学びあう機会にもなり、人と人との新しいつながりが生まれています。

【健康づくり】長い距離をゆっくりと歩くことで、高齢でも参加しやすく、幅広い世代の健康づくりにもつながっています。

【防災】震災アーカイブを活用することで、地域住民の防災意識の向上にも貢献しています。

【教育や観光への波及】学校における地域教育や観光客を対象とした歴史文化ツアー・復興ツーリズムのニーズに応えることで、教育や観光の面からも地域の活性化に寄与します。



参加者同士がつながり学びあいます



神城断層が地表に露出した断層崖で
震災アーカイブを活用して学びます

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

講座終了後に受講者にアンケートを取るなど、満足度や課題、要望等の把握に努めています。

公民館の各種事業について、各集落の分館長や公民館運営審議会、社会教育委員、教育委員に活動報告・事業計画を示し、意見をいただいています。また、全庁的な成果説明の対象として、広く一般に取組内容や成果を公表するとともに、議会議員に対しても説明・意見交換を行っています。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

白馬村の基本理念である「多様であることから交流し学びあい成長する村」の実現に貢献できるような活動や、地域の歴史や資源を活かした学びを大切にしています。

古くから変わらずに続いている学びと、時代の変化に対応した新たな学びのバランスを意識するとともに、デジタル化の波に置いていかれてしまう人や、言葉の壁により情報が伝わりにくい人が生じないよう、誰一人取り残さない地域社会の実現に向けて、公民館としての役割を考え続けています。



シニア向けスマホ教室

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

子どもたちや中高生なども含めた多世代や、海外から移住されてきた多国籍の住民が公民館活動に参加し、交流する機会を創り出していきたいと考えています。

地域や世代を超えて多様な住民が集い、つながり、学びあうことで、相互に理解を深めて尊重しあい、一人ひとりが成長して地域で活躍できるよう、地域住民の活動を支援する公民館でありたいと願っています。



多様であることから交流し
学びあい成長する村

「子どもを核とした地域づくり」

中津川市付知公民館



写真・付知公民館外観



写真・命を守る訓練「保育園と中学校の合同避難訓練」

公民館の沿革・年表

- 昭和24年 付知町役場内に公民館設置
- 昭和26年 5区新田に移転
- 昭和49年9月 山村開発センターとして 完成
- 昭和54年 トレーニングセンター完成
- 平成 8年 アートピア付知交芸プラザ完成
- 平成16年4月 付知町公民館に名称変更
- 平成23年 耐震改修工事完了

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

命を守る訓練は、地域ぐるみの防災教育として取り組むことで、幼少期から自助・共助・公助の意識を高め、付知地区で過ごす義務教育終了までの概ね12年間で、より一体的な防災意識の向上を図っている。

この避難訓練と防災体験を10年間継続することで今の保育園児は中学生になり、20年間継続すると親の世代となります。

10年20年と継続して行うことで、将来災害が発生してもお互いに助け合って災害を乗り越えることができる強いまちになることを目指し、「人づくり」が「まちづくり」に繋がっていき、地域住民の「横の繋がり」もできると今後も実施をしていく。

1. 都道府県名	岐阜県	3. 公民館対象人口	5238人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	中津川市	4. 建物設置年月日	昭和49年	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	0台
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理者 (付知町まちづくり協議会) <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 2064人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 3951人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 258人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 2108人 (図書室)				合計 8,381人
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 兼任 4人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 9人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 1人 職員のうち社会教育士の数 0人) 合計 13人				
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input checked="" type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他 ()				
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input checked="" type="checkbox"/> その他 (アートピア付知交芸プラザ) <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (隣接する付知総合事務所やアートピア付知交芸プラザがあることで、地域住民の交流やつながりについての相乗効果がある。)				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input checked="" type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他				

中津川市付知公民館

OPEN 9:00~22:00

H P yakatsugawa.lg.jp/soshikikarasagasu/tsukec

TEL 0573-82-3023

SNS t-machikyou@chic.ocn.ne.jp



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

当地域では高齢化や地域内で関係の希薄化、地域への興味の低下が進んでいる。また、公民館活動参加者や利用者の年齢層が固定している。その部分を解決するために、公民館から地域に働きかけ、子どもや地域住民を巻き込んでいくことで、地域の活性化と見直しができ、「人づくり・つながりづくり・ちいきづくり」につなげていくことを目指している。

そこで付知公民館では「子どもを核とした地域づくり」をキーワードに年間計画を作成し、毎年5月～1月まで保育園、幼稚園、小学校、中学校が参加できる活動を企画運営している。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

（1）地域全体で連携して行う命を守る訓練

- ・保育園と中学生で行う命を守る訓練「合同避難訓練」
- ・各小学校（5,6年生）対象の命を守る訓練「防災体験」

（2）人とのつながりを促進する交流活動

- ・地域をあげての「付知町敬老会」
- ・中学3年生と付知町の良さや未来について語り合う「意見交換会」

（3）郷土の良さを味わう体験活動

- ・「お茶摘み体験」（小学3年生）
- ・「郷土料理の朴葉寿司づくり体験」（中学2年生）

（4）地域外の人に自分達の地域の良さを認めてもらおうとする活動

- ・「森林（もり）をかけぬけろ 付知サイクリング大会」



写真・小学5年生「防災体験」非常食炊飯体験



写真・北小3年生「お茶摘み体験」

3. 取組による成果や効果

- （1）・子どもを核とした取り組みを行うことで地域や地域住民との横のつながりや連携ができた。
- （2）・中学生との意見交換会を12年間継続してきたことで、一度地域を出てもいつかは帰郷したいと思う考える生徒が増えた。
- （3）・世代を交えた取り組みを行うことで、世代間での学びあいや交流を深めた。
- （4）・サイクリング大会ではSNS等でイベント案内をし、県内外から参加者が集まった。地域住民がコース誘導や各休憩所で地元特産品をおもてなしし、そこに中学生のボランティアに協力してもらい参加者から高評価を得た。地域外の人に自分達の地域の良さを知ってもらい、認めてもらうことで住民も改めて地域の魅力を見直すことができ、課題にも気づくことができた。



写真・サイクリング大会

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- ・参加者にはその都度アンケート調査を行い、出てきた意見に対して改善を図り、次回の取り組みに活かしている。
- ・各事業の実行委員会と事務局で企画と運営を検討し、事業実施後の反省会で成果と課題を明らかにして次年度の計画を立てている。
- ・命を守る訓練では、区長会や防災士会などの協力団体の意見を聞き、運営に役立っている。

例：保中合同避難訓練では、保育園から中学校までの避難経路の見直し等（壁が崩れる危険性等あるところを通過しない避難経路の作成など）

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

- ・地域住民に、自分・周り・地域を見直してもらい、地域に愛着が持てる取り組みや仕掛けを考えていく。また、そのために集える場所としていく。
- ・地域の拠点として、人と人、人と地域を繋ぐ場所として、地域住民と公民館が「呼べば応える関係」を築いていくことで、信頼関係ができ、また地域課題や要望を拾い上げて実践していける場所になるように活動を行っている。



写真・町をあげての「付知町敬老会」

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

・利用者や行事参加者が偏りがちであるので、各世代に公民館とその活動に興味を持ってもらうために、中間世代である保、幼、小、中の保護者に公民館に関するアンケートを実施し53%の回答率があった。その中で、公民館を利用したことがある保護者が80%、利用したことがない保護者が20%だった。利用したことがある保護者は利用頻度が特に決まっていない人が多くみられた。公民館に期待する役割については、地域で子育てを支援する取り組み「子育て支援」と避難所等地域防災の拠点としての機能「防災の拠点」を選択している保護者が多くみられた。また、趣味等を身に付けられる場所として期待している保護者も多く、現在行っている活動が保護者へ周知出来ていない現状が分かった。子どもたちとの接点だけでなく、保護者に活動を知ってもらうことからもう一度始め、その先に保護者も巻き込んだ仕掛けづくりを行っていきたいと考えている。



写真・小学6年生「防災体験」段ボールパーティ



写真・小学6年生「防災体験」消火器訓練

「ふるさと ONE TEAM上之郷」

御嵩町上之郷公民館



公民館の沿革・年表

- ・昭和26年 9月 上之郷村の公民館として設置
- ・昭和59年 3月 新館の上之郷公民館が完成
- ・平成20年10月 上之郷地区スポーツフェスタを開催
- ・令和元年8月 「ふるさとONE TEAM上之郷」をテーマに盆踊りの夕べが始まる
- ・令和3年2月 御嵩町社会教育実践論文特別賞受賞
- ・令和3年7月 地区社会教育振興協議会研修会にて実践発表
- ・令和3年10月 岐阜県社会教育推進大会にて実践発表

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

山間地域で少子高齢化が進み危機感を持った上之郷地区では、公民館を中心に、まず住民が参加して地域を盛り上げる機会を持った。それが「盆踊りの夕べ」と題してのイベント。単なる盆踊り大会ではなく、保育園や小中学校をはじめ地域にある様々な組織が企画から関わって活躍できる場とした。そのキャッチフレーズが「ふるさとONE TEAM上之郷」。それを表すのが左上の模式図で地域住民が図案を考えました。企画から小中学生も参加して、当日は踊りや宮太鼓で盛り上げました。写真は中学生が踊りと歌で盛り上げた時の様子です。

1. 都道府県名	岐阜県	3. 公民館対象人口	1668人	5. 来館者のインターネット接続環境	無し
2. 市区町村名	御嵩町	4. 建物設置年月日	昭和59年3月10日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	無し
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者（〇〇地区まちづくり協議会） <input type="checkbox"/> その他（ ）				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 383人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 261人（同好会、各種委員会、卓球等）	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 840人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等	合計	1,484人	
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任 0人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 3人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 （職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人） 合計 3人				
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input checked="" type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他（ ）				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input checked="" type="checkbox"/> その他（長期休業中における子供の居場所づくり）				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input type="checkbox"/> その他（ ） <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述（役場住民環境課の支所）				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等（団体名記述）	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input checked="" type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 消防団、社会福祉協議会、交通安全協会、婦人の会、町商工会、自治会、婦人の会、子ども育成協議会、JAめぐみの				

御嵩町上之郷公民館

OPEN 8:30~17:15 H P
 TEL 0574-67-0017 SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 上之郷地区は中山間地域で人口減少と少子高齢化が進み、地域の活性化が従来より課題となっていた。具体的には従来からあった各種団体や組織が弱体化し多くの行事が中止となり、住民が参加する機会が減少の一途をたどっていた。最後に残された「盆踊りの夕べ」さえも存続するかどうかで意見が二分される状況であった。
- そんな中、「未来を担う子供たちに上之郷を愛する心を今こそ育てていくべきだ。」という意見が沸き上がり、保育園、小中学校、自治会等の組織が連携して、今までとは違う自分たちで作上げる「盆踊りの夕べ」を目指した。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【ふるさと ONE TEAM 上之郷 ～盆踊りの夕べ～（地域学校協働活動）】
年間活動計画の中でも夏の盆踊りに焦点を当て、上記の地域課題解決に向けて取り組んだ。新たな活動や組織を起こすのではなく現有の組織を生かし、取り組む側の**主体性**を大切に意識改革に取り組んだ。（組織は前頁「ふるさとONE TEAM上之郷」参照）
具体的には以下の「7つの仕掛け」を考えて取り組んだ。

- ①保育園への出演依頼（踊る姿を保護者や祖父母に披露して家族の一体感を演出）
- ②放課後子ども教室での盆踊り練習要請と公民館役員等による踊り練習（文化クラブと公民館役員の指導で伝統復活のきっかけ作り）
- ③地域子ども教室での地域の方による「宮太鼓」指導（地域の文化伝承に携わっている人の指導による伝統文化の継承）
- ④小学生への七夕飾り依頼（途絶えていた七夕飾りを公民館と小学校で復活）
- ⑤盆踊り練習・指導（地域の民謡同好会の指導で大人も子供も一緒に参加）
- ⑥小中学生への踊り参加とボランティア募集（中学生はSDGsゴミステーション、会場準備、自校の茶園で育てたお茶の販売）…上之郷中の8割の生徒が参加。
- ⑦上之郷中学校OBや20代若者への屋台出店依頼（販売商品、仕入れ価格や販売価格などの企画から運営まですべてお任せ）



成功のカギを握る「7つの仕掛け」



運営方法の提案する中学生

3. 取組による成果や効果

【活動による成果・効果】

- 上之郷を元気にしたいという思いを地域住民だけでなく保育園、小中学校、各種の団体で共有できた。具体的には「地域がひとつになれる活動をこれからも大切にしたい。」「すごく楽しい盆踊りの夕べで上之郷がもっと好きになった。」「子どもたちの楽しそうな姿を見ると大人も元気になる。」などの感想が寄せられた。それは開催当日、小中学生や20代の参加者が過去に比べて増えていたことから伺われる。

【取組全体による成果・効果】

- 近年薄れつつある郷土愛と地域連携、住民相互の連帯意識が再確認できた。
- 公民館と地域と学校がよきパートナーとして連携できる仕組みを築くことができた。



町内公民館大会で成果発表

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 自治会長、町教育委員、小中学校長、地元議会議員、育成会長など20名で構成された公民館運営委員会を年度当初や必要に応じて随時開催している。
- 公民館長が地域学校協働本部会に参加して活動の情報交流や報告を行っている。また小中学校の学校運営協議会の一員としても参加し、活動の振り返りや多様な意見を踏まえた検証によりPDCAを意識した公民館運営を行っている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

近年薄れつつある郷土と連帯意識を大切に、公民館と学校と地域が良きパートナー的存在として連携できる仕組みづくりに取り組んでいる。年間行事や活動に日頃から地域が関わる中でこうした意識が醸成されることを期待している。「盆踊りの夕べ」は、今後も地域住民総がかりで組織を生かした「中核となる集大成の場」として位置付けている。



地域の伝統「宮太鼓」を学

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

「盆踊りの夕べ」を通して築き上げてきた気運を継続するとともに、組織が効果的に機能するための人間関係づくりに努めていきたいと考える。地域学校協働活動では上之郷公民館が活動のキーステーションとして位置づいてきている。また小中学校との情報交換を図り日頃から連携を強化し、成果が相互に実感できる営み（WIN-WIN）の関係づくりを構築していきたいと考えている。



中学生の公民館訪問

誰からも親しまれ、気楽に立ち寄れるホットな交流館

静岡市岡生涯学習交流



交流館全景（オレンジ1・2階部分 周辺は高校）



ワークショップで意見発表する高校生

公民館の沿革・年表

- ・平成 5 年 旧清水市の地域館として岡公民館設置
- ・平成 1 5 年 静岡市と清水市合併、新静岡市誕生
- ・平成 2 0 年 公民館から生涯学習交流館へ移行
- ・平成 2 4 年 指定管理となる
- ・平成 2 6 年 静岡市と静岡県の高校再編により、交流館と隣接している清水商業高校（清商）が新設「清水桜が丘高校」となり、**交流館とあわせて複合施設として改築整備**され利用開始となる
- ・令和 3 年 優良公民館等として静岡県教育長賞受賞

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

- 防災勉強会（避難所運営ガイドブック作成）
令和元年度、2年度の2か年計画で防災勉強会を開催した。勉強会では**隣接する静岡市立桜が丘高等学校、自治会、自主防災会の参加**のもとに初年度はワークショップ、講義を開催し災害時におけるいろいろなケースを想定した勉強や意見交換を行った。
ワークショップでは参加した高校生から積極的に意見発表が行われた。

1. 都道府県名	静岡県	3. 公民館対象人口	11996人	5. 来館者のインターネット接続環境	無し	
2. 市区町村名	静岡市	4. 建物設置年月日	平成26年7月31日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数		
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理者（清水区生涯学習交流館運営協議会） <input type="checkbox"/> その他（ ）					
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 1342人 <input type="checkbox"/> その他 0人（ ）	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 45801人	<input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 2,682人	合計	49,825人	
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 6人 <small>（職員のうち社会教育主事有資格者の数 1人）</small>	<input type="checkbox"/> 兼任 0人	<input type="checkbox"/> 非常勤 0人	<input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人	合計 6人	
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input checked="" type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input checked="" type="checkbox"/> その他（教室等会費）					
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他（ ）					
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> その他（ ）	<input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 自主夜間中学		
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input checked="" type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input type="checkbox"/> その他（ ） <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述（交流館のある建物は4階建てで、3、4階は高校の視聴覚ホールとなっている）					
14. 各種事業等で連携・協働している団体等（団体名記述）	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input type="checkbox"/> 小中学校 <input checked="" type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 静岡市立清水桜が丘高等学校・岡地区連合自治会・岡地区社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> 岡地区まちづくり推進委員会・(株)青島文化教材社 等					

静岡市岡生涯学習交流館

OPEN 09:00~21:30 H P [http:// www.sgk-shimizuku-shizuoka.jp](http://www.sgk-shimizuku-shizuoka.jp)
 TEL 054-354-1350 SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

岡生涯学習交流館は静岡市立清水桜が丘高等学校と隣接し、建屋の一部は交流館と学校視聴覚ホールの複合施設となっている。災害時には市の避難施設に指定されていることから、学校、地域、交流館で災害時お互いが連携し避難所運営がスムーズに行われることが重要である。交流館が取りまとめとなり、岡地区地域防災連絡会を開催し意見交換、情報共有等を行っている。連絡会メンバーは交流館・自主防災会・地域内の高校2校、中学校1校、小学校1校、こども園1園、そして市防災員である。避難所運営は自治組織が運営することとされているため、以前から運営について不安視する声があがっていた。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【防災勉強会並びに東日本大震災オンライン語り部講座（防災）】

2か年計画で災害時のいろいろなケースを想定した勉強会を開催し、地域に対応した避難所運営ガイドブックを作成した。ガイドブックをもとに地域住民を対象とした説明会を開催し災害における避難所について理解を求めることを目的とした。また、関連事業として、令和3年3月に10年を迎えた東日本大震災について実際に被害にあった方からの話をオンラインで聞く講座を開催し、地域住民の防災意識を高めた。

2か年計画の初年度の令和元年度は、月1回程度、高等学校、自治会、交流館と共催で、講義、ワークショップを開催した。テーマは、「平日の時間帯の地震にどのように対応するか、その時、学生の役割は何をするのか?」「夜間、休日の地震対応」「避難所における女性の役割など」。

令和2年度は、令和元年度の講義、ワークショップの意見を参考に、大学准教授監修による「避難所運営ガイドブック」を作成。地域住民を対象にガイドブックをもとに避難所運営についての説明会を行った。また、関連事業として令和3年3月に10年を迎えた東日本大震災については東日本大震災オンライン語り部講座を清水桜が丘高等学校の視聴覚ホールにおいて開催し、オンラインで災害時の様子から現在の復興状況を被害を被った南三陸町の現地の方から聞く機会を設けた。



防災勉強会の様子



オンライン語り部講座の様子

3. 取組による成果や効果

説明会に参加された地域住民は、「避難所に行けば行政やボランティアの人たちがお世話をしてくれる」と思っていたことが、今回の勉強会を通して間違った認識であったことに改めて気づき、本来の避難所のあり方を考えなおす機会となった。

具体的には、避難所においては、高齢者、乳幼児、身障者やトイレの設置場所や、特に女性に対する対応では十分配慮する必要があることを伝えることができた。

また、オンラインで実際に被害にあった方からのリアルな話であったことから地震、津波の恐ろしさや防災に対する日頃の備えに対する日頃の備えが大切であることを理解していただくことができた。



作成した「避難所運営ガイドブック」

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

作成した「避難所運営ガイドブック」については自治会員、自主防災会員、防災女性の会員など多くの方々に対し説明会を開催し、連合自治会を交えての避難所運営訓練に活かされている。また、交流館、学校、地域、市が一堂に会する岡地区地域防災連絡会や概ね月1回開催している自主防災会定例会において情報交換を行っている。令和3年度には交流館と自主防災会との共催でガイドブックのフォローアップ講演会を実施するなどガイドブックが引き続き活用されるように取り組んでいる。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

生涯学習交流館は「学習の場」、「人づくりの場」、そして「人と人との交流の場」です。誰からも生まれ、誰もが気楽に立ち寄れる活力に満ちたホットな交流館であればこそ災害時などの非常時には地域住民のよりどころとなる施設となります。そのためには、地域と連携した交流館まつりの開催など、交流館活動への参加のきっかけとなる事業の企画が必要です。



小学生参加の交流館祭り（2019実施）

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

学習の場である交流館として、現代的課題をテーマとした講座は引き続き実施していくとともに、地域の次代の担い手となる若者世代が気楽に交流館に立ち寄り、様々な世代との交流を深められる講座や事業を模索していきたい。特に当館は高等学校との複合施設であり、その立地を活かした学校、地域、交流館の三者連携、共催事業を積極的に展開していきたい。



高校との共催事業（岡フェス）